古代都城出土の植物種実

2013 ～ 2015 年度公益財団法人浦上食品・食文化振興財団学術研究助成
『古代の植物性食文化に関する考古学的研究』成果報告書

2015

独立行政法人国立文化財機構　奈良文化財研究所

古代都城出土の植物種実

2013 ～ 2015 年度公益財団法人浦上食品・食文化振興財団学術研究助成
『古代の植物性食文化に関する考古学的研究』成果報告書

2015

独立行政法人国立文化財機構　奈良文化財研究所

例　言

1．本書は、2013 年 10 月～ 2015 年９月の２年間、公益財団法人浦上食品・食文化振興財団から受けた研究助成金による「古代の植物性食文化に関する考古学的研究」（研究代表者：小池伸彦）の成果報告書である。研究助成金を交付いただいた公益財団法人浦上食品・食文化振興財団には、記して感謝申し上げる次第である。
2．本研究で調査対象としたのは、奈良文化財研究所所蔵の遺跡出土植物種実資料である。
3．本書に収録した写真は、巻頭図版１は『奈良文化財研究所紀要 2013』掲載のものを再録したが、その他は主に吉田貴子が撮影し、青木麻佑花がこれを補佐した。
4．本報告書の執筆・編集は、小池伸彦の監修のもと芝康次郎がおこなった。

スケール　1, 2, 6, 7, 14, 15, 24-26：5 ㎜ , 3-5, 8-13, 16-23, 27-41：1 ㎜

1. ヤマモモ核、2. クリ果実、3. イタビカズラ節核、4. クワ属核、5. マタタビ属種子、6. アケビ属種子、7. ムベ種子、8. キイチゴ属核、9. サンショウ果実、
10. サンショウ種子、11. ムラサキシキブ属核、12. ヤマブドウ種子、13. ブドウ属種子、14. カキノキ種子、15. カキノキ属種子、16. ヤナギタデ果実、
17. イヌタデ果実、18. イシミカワ果実、19. サナエタデ - オオイヌタデ果実、20. ギシギシ属果実、21. ノミノフスマ種子、22. キケマン属種子、23. カタバミ属種子、
24-26. メロン仲間種子、27. ウリ属種子、28. アリノトウグサ種子、29. エゴマ果実、30. シソ属果実、31. ナス種子、32. ナス属種子、33. イボクサ種子、
34. メヒシバ属果実、35. ヒエ有ふ果、36. イネ籾殻、37. アワ有ふ果、38. エノコログサ属有ふ果、39. カヤツリグサ属果実、40. ホタルイ属果実、41. 不明Ａ種実

巻頭図版１　平城宮東方官衙地区糞便遺構 SX19198 から出土した大型植物遺体

スケール　10㎜：1-3,5-10,12-25,28,29　5㎜：4,11,26,27,30,31

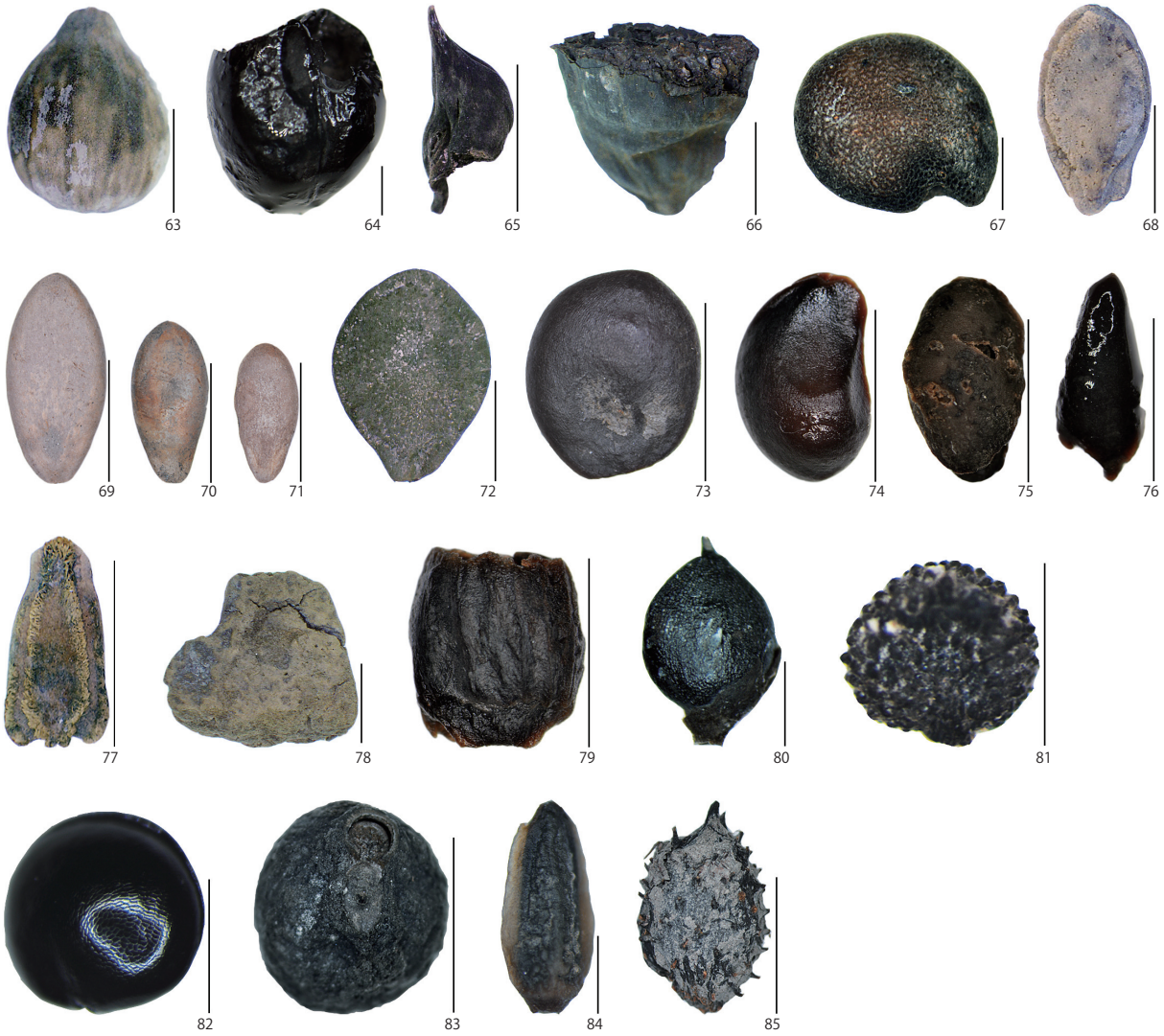
1. カヤ種子、2. イヌガヤ種子、3. チョウセンゴヨウ種子、4. ヤマモモ核、5. オニグルミ核、6. ヒメグルミ核、7. ハシバミ堅果、8. クリ果実、9. クリ殻斗付果実、10. クリ炭化子葉、11. クリ炭化子葉（小型）12-14. クリ果皮（六角加工）、15. ツブラジイ堅果、16. スダジイ堅果、17. シイノキ属堅果、18-21. モモ核、22. アンズ核、23. ウメ核、24. スモモ核、25. スモモ核（果皮付）26. サクラ属サクラ節核、27. ナシ亜科種子、28. ナシ亜科果実、29. センダン核、30. ムクロジ核、31. イタヤカエデ果実

巻頭図版２　平城京左京二条大路濠状遺構 SD5100 から出土した大型植物遺体（１）

スケール　10㎜：33-38,42-44,50,57　5㎜：32,40,41,45-49,51-53,58,60-62　1㎜：39,554-56,59

32. ムベ属種子、33. ナツメ核、34. ツルグミ種子、35. カキノキ種子、36. カキノキ果実（小型）、37. カキノキ萼片、38. マツ属球果、39. アカマツ種子、40. マツ属種鱗、41. ヒノキ球果、42. イチイガシ堅果、43. アラカシ堅果、44. コナラ属堅果、45. コナラ属炭化子葉、46. コナラ属殻斗、47. アカガシ亜属堅果、48. アカガシ亜属殻斗、49. アカガシ亜属幼果、50. クヌギ殻斗、51. ムクノキ核、52. クスノキ種子、53. コブシ種子、54. サンショウ種子、55. アカメガシワ種子、56. ブドウ属種子、57. ツバキ属種子、58. エゴノキ種子、59. ミズキ核、60. クサギ核、61. ガマズミ核、62. イネ痩果

巻頭図版３　平城京左京二条大路濠状遺構 SD5100 から出土した大型植物遺体（２）



スケール　10㎜：63,65,66,77,78　5㎜：68-76,79,83,85　1㎜：64,67,80-82,84

63. ジュズダマまたはハトムギ果実、64. コムギ炭化種子、65. ヒシ果実、66. ハス花托、67. ナス属種子、68. トウガン種子、69. メロン仲間種子(モモルディカ型)、70. メロン仲間種子（マクワ・シロウリ型）、71. メロン仲間種子（ザッソウメロン型）72. キカラスウリ種子、73. ウリ属種子、74. ウリ属種子、75. ウリ科種子、76. ウリ科種子、77. ヒョウタン種子、78. ヒョウタン果実、79. ミクリ属核、80. ヤナギタデ瘦果、81. ノミノフスマ種子、82. キケマン属種子、83. オニバス種子、84. タカサブロウ瘦果、85. オナモミ果実

巻頭図版４　平城京左京二条大路濠状遺構 SD5100 から出土した大型植物遺体（３）

目　次

第１章　調査の経緯と経過および方法 …… 1
　Ⅰ．調査の経緯と経過 …… 3
　　１．調査の経緯 …… 3
　　２．調査の経過 …… 3
　Ⅱ．調査の方法 …… 4
　　１．調査の方法と本書での記載 …… 4
　　２．資料の保管と管理 …… 6

第２章　藤原宮・京・飛鳥地域出土の植物種実 …… 7
　Ⅰ．藤原宮･京跡出土の植物種実 …… 9
　　１．藤原宮・京跡植物種実出土遺構の概要 …… 9
　　２．便所遺構・井戸・土坑 …… 9
　　３．溝状遺構・運河等 …… 9
　Ⅱ．飛鳥地域の遺跡―石神遺跡― …… 11
　　１．石神遺跡における植物種実出土遺構の概要 …… 11
　　２．井戸・土坑等 …… 13
　　３．溝状遺構 …… 14

第３章　平城宮・京出土の植物種実 …… 19
　Ⅰ．平城宮跡出土の植物種実 …… 21
　　１．平城宮跡植物種実出土遺構の概要 …… 21
　　２．便所あるいは糞便遺構 …… 21
　　３．井戸・土坑・柱穴 …… 24
　　４．排水路・溝状遺構 …… 28
　Ⅱ．平城京跡出土の植物種実 …… 33
　　１．平城京跡植物種実出土遺構の概要 …… 33
　　２．井戸・土坑 …… 33
　　３．溝状遺構・条坊側溝等 …… 43

第４章　結　語 …… 55

挿図目次

第１図　調査の様子 …… 3
第２図　資料保管の状況 …… 6
第３図　藤原宮・京跡における調査対象遺構の位置 ……10
第４図　石神遺跡における調査対象遺構の位置 ……12
第５図　石神遺跡から出土した大型植物遺体（１） ……16
第６図　石神遺跡から出土した大型植物遺体（２） ……17
第７図　平城宮跡における調査対象遺構の位置 ……22
第８図　平城京跡における調査対象遺構の位置 ……34
第９図　西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体（１） ……40
第 10 図　西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体（２） ……41
第 11 図　東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体（１） ……50
第 12 図　東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体（２） ……51

表目次

第１表　調査の経過 …… 3
第２表　藤原宮・京跡出土の植物種実 ……11
第３表　石神遺跡出土の植物種実（１） ……13
第４表　石神遺跡出土の植物種実（２） ……14
第５表　石神遺跡出土の植物種実（３） ……15
第６表　平城宮跡出土の植物種実（１） ……23
第７表　平城宮跡出土の植物種実（２） ……24
第８表　平城宮跡出土の植物種実（３） ……24
第９表　平城宮跡出土の植物種実（４） ……25
第 10 表　平城宮跡出土の植物種実（５） ……29
第 11 表　平城宮跡出土の植物種実（６） ……31
第 12 表　平城宮跡出土の植物種実（７） ……32
第 13 表　平城宮跡出土の植物種実（８） ……33
第 14 表　平城京跡出土の植物種実（１） ……35
第 15 表　平城京跡出土の植物種実（２） ……39
第 16 表　平城京跡出土の植物種実（３） ……42
第 17 表　平城京跡出土の植物種実（４） ……42
第 18 表　平城京跡出土の植物種実（５） ……44
第 19 表　平城京跡出土の植物種実（６） ……45
第 20 表　平城京跡出土の植物種実（７） ……46
第 21 表　平城京跡出土の植物種実（８） ……47
第 22 表　平城京跡出土の植物種実（９） ……48
第 23 表　平城京跡出土の植物種実（10） ……49
第 24 表　平城京跡出土の植物種実（11） ……52
第 25 表　平城京跡出土の植物種実（12） ……53
第 26 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（藤原宮・京・飛鳥地域） ……57
第 27 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（平城宮・京１） ……59
第 28 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（平城宮・京２） ……60
第 29 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（平城宮・京３） ……61

第１章

調査の経緯と経過および方法

Ⅰ．調査の経緯と経過

１．調査の経緯

古代都城遺跡では、木簡をはじめとした多くの有機質遺物が出土する。この有機質遺物の中には、多数の植物種実が含まれており、これまで多くの資料が回収されている。出土植物種実は、当該期の食生活や古環境の一端を直接知りうる遺物として重要である。しかし、それらには、報告されていないものも多く、基礎的なデータが不足していると言わざるをえない状況である。そこで今回の調査では、出土植物種実のうち遺構の年代や性格が一定程度明らかなものを対象として、出土種実資料の実態を明らかにすることを一義的な目的とした。本書では、まず基礎作業として、藤原宮・京跡（飛鳥地域含む）と平城宮・京跡において出土した植物種実について、出土遺構ごとに集成する。そして、出土植物種実の特徴について若干の考察を加えたい。

２．調査の経過

調査は、2013 年 11 月から 2015 年９月にかけて実施した。調査体制は以下のとおり（所属は 2015 年９月現在）。

研究代表者　小池伸彦（埋蔵文化財センター　遺跡調査技術研究室　室長）

研究協力者　神野　恵（都城発掘調査部考古第一研究室（平城地区）　主任研究員）
庄田慎矢（イギリス・ヨーク大学考古学科　研究員）※奈良文化財研究所・休職中
芝康次郎（都城発掘調査部考古第一研究室（平城地区）　研究員）
浦　蓉子（都城発掘調査部考古第一研究室（平城地区）　アソシエイトフェロー）
廣瀬　覚（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区）　主任研究員）
和田一之輔（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区）　研究員）
諫早直人（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区）　研究員）
大谷育恵（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区）　アソシエイトフェロー）

調査補助員　吉田貴子、青木麻佑花

調査指導・同定協力者
那須浩郎（総合研究大学院大学　助教）
佐々木由香（株式会社　パレオ・ラボ）

調査資料は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所（以下、奈文研）所蔵資料である。まず、奈文研都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）所蔵資料について、次に同調査部（平城地区）所蔵資料についての調査を実施した。前者は、藤原宮跡、藤原京跡、石神遺跡の出土資料であり、後者は、平城宮跡、平城京跡、西大寺や西隆寺など寺院遺跡の出土資料である。調査対象とした遺構は、基本的に既報告のものであり、また時期や性格などは一定程度明らかなものである。したがって、所蔵資料すべてを調査対象としたわけではない。ただし、未報告資料を差し引いたとしても、本書に記載した資料群によって、奈文研所蔵資料の大半は網羅していることを明記しておきたい。

第１図　調査の様子

分類作業にあたっては、これまで平城地区での整理作業で用

第１表　調査の経過

2013年		2014年											
11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
飛鳥・藤原地区での調査					平城地区での調査								

2015年								
１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
平城地区での調査			データ整理・写真撮影・報告書作成					

いていた出土種実標本、植物種実に関する図鑑を参照した（第１図）。また、これらでも不明なものについては、専門研究者や分析業者に同定を依頼した。同定された種実が返却された後、これをもとに再度分類し直した。これらの作業と並行しつつ、データの集計作業、出土遺構との照合作業、そして実体顕微鏡を用いた植物種実の写真撮影をおこなった（第１表）。

Ⅱ．調査の方法

１．調査の方法と本書での記載

今回の分類作業では、数量が数十万点に上ること、そして、遺跡出土資料という性格から破片資料もかなりの量に上ることから、分類が困難なものも少なくなかった。これらについては科、属レベルの分類にとどめたり、不明種実としたものもある。分類作業の結果、同定可能な種実は以下のとおりである。

木本植物は、カヤ　*Torreya nucifera (L.) Siebold et Zucc.*、イヌガヤ　*Cephalotaxus harringtonia (Knight) K.Koch*、ハイイヌガヤ　*Cephalotaxus harringtonia (Knight) K.Koch var. nana (Nakai) Rehder*、チョウセンゴヨウ　*Pinus koraiensis Sieb. et Zucc.*、ヤマモモ　*Myrica rubura Sieb. et Zucc.*、オニグルミ　*Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis (Miyabe et Kudo) Kitam.*、ヒメグルミ　*Juglans mandshurica Maxim. var. cordiformis (Makino) Kitam.*、ハシバミ　*Corylus heterophylla var. thunbergii*、クリ　*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*、シイノキ属　*Castanopsis*、ツブラジイ　*Castanopsis cuspidata (Thunb. ex Murry) Schottky.*、スダジイ　*Castanopsis sieboldii (Makino) Hatusima. ex Yamazaki et Mashiba*、アンズ　*Prunus Armeniaca L.*、ウメ　*Prunus Armeniaca mume Sieb. et Zucc.* モモ　*Prunus persica Batsch*、スモモ　*Prunus salicina Lindl.*、サクラ属サクラ節　*Prunus sect. Pseudocerasus*、サクラ属の一種　*Prunus* sp.、ナシ属　*Pyrus* sp.、ナシ亜科　Pyroideae、キイチゴ属　*Rubus L.*　ヘビイチゴ　*Potentilla hebiichigo*、センダン　*Melia azedarach L.*、ムクロジ　*Sapindus mukorossi Gaertn.*、アケビ属　*Akebia*、ムベ　*Stauntonia hexaphylla (Thunb.) Decne.*、ミツバアケビ　*Akebia trifoliata (Thunb.) Koidz.*、ナツメ　*Ziziphus jujuba Mill. var. inermis (Runge) Rehd.*、ケンポナシ　*Hovenia dulcis Thunb.*、グミ属　*Elaeagnus*、アキグミ　*Elaeagnus umbellata Thunb.*、カキノキ属　*Diospyros*、カキノキ　*Diospyros kaki Thunb.*、クワ属　*Morus*、ヤマグワ　*Morus australis Poir.*、イチジク属イタビカズラ節　*Ficus sect Rhizocladus*、ヒメコウゾ　*Broussonetia kazinoki Sieb.*、マタタビ属　*Actinidia*、マタタビ　*Actinidia polygama (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.*、サルナシ　*Actinidia arguta (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.*、シマサルナシ　*Actinidia rufa (Siebold et Zucc.) Planch. ex Miq.*、キブシ　*Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.*、ヤマビワ　*Meliosma rigida Sieb. et Zucc.*、マツ属複維管束亜属　*Pinus subgen. Diploxylon*、アカマツ *Pinus densiflora Sieb. et Zucc.*、モミ属　*Abies*、ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa (Sieb.et Zucc.) Endl.*、コナラ属　*Quercus*、イチイガシ　*Quercus gilva Blume*、アラカシ　*Quercus glauca Thunb.*、シラカシ　*Quercus myrsinifolia Blume*、クヌギ　*Quercus acutissima Carruth.*、アベマキ　*Quercus variabilis Blume.*、コナラ属コナラ亜属　*Quercus subgen. Lepodobalanus*、コナラ属アカガシ亜属　*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*、エノキ　*Celtis sinensis Pers.*、ムクノキ　*Aphananthe aspera (Thunb.) Planch.*、コブシ　*Magnolia praecocissima Koidz.*、クスノキ　*Cinnamomum camphora (L.) Presl*、クロモジ属　*Lindera*、イヌガシ　*Neolitsea aciculata (Blume) Koidz.*、フジ属　*Wisteria*、サンショウ属　*Zanthoxylum*、サンショウ　*Zanthoxylum piperitum (L.) DC.*、フユザンショウ　*Zanthoxylum armatum DC. var. subtrifoliatum (Franch.) Kitam.*、カラスザンショウ　*Zanthoxylum ailanthoides Sieb. et Zucc.*、イヌザンショウ　*Zanthoxylum schinifolium Sieb. et Zucc.*、アカメガシワ　*Mallotus japonicus (L.f.) Müll.Arg.*、ウルシ属　*Toxicodendron*、ブドウ属　*Vitis*、ヤマブドウ　*Vitis coignetiae Pulliat ex Planch.*、エビズル　*Vitis ficifolia Bunge*、サンカクズル　*Vitis flexuosa Thunb.*、ノブドウ　*Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Ttautv. var. heterophylla (Thunb.) Hara.*、ツタ　*Parthenocissus tricuspidata (Sieb. et Zucc.) Planch.*、ツバキ属　*Camellia*、ヤブツバキ　*Camellia japonica L.*、ミズキ　*Swida controversa (Hemsl.) soják*、クマノミズキ　*Swida macrophylla (Wall.) soják*、エゴノキ　*Styrax japonica Sieb. et Zucc.*、ハクウンボク　*Styrax obassia Sieb. et Zucc.*、クサギ　*Clerodendrum trichotomum Thunb.*、ガマズミ属　*Viburnum*、ニワトコ　*Sambucus racemosa L. ssp. sieboldiana (Miq.) Hara*、モチノキ属　*Ilex L.*、クロガネモチ　*Ilex rotunda Thunb.*、ザクロ　*Punica granatum L.*、トチノキ　*Aesculus turbinata Blume*、アオツヅラフジ　*Cocculus trilobus (Thunb.) DC.*、イタヤカエデ　*Acer mono Maxim. var. marmorantum (Nichols.) Hara f. dissectum (Wesmael) Rehder*、カエデ属　*Acer*、バラ属　*Rosa*、以上の 92 分類群。

草本植物は、イネ　*Oryza sativa L.*、ハトムギ　*Coix ma-yuen Roman.*、ジュズダマ　*Coix lacryma-jobi L.*、オオムギ　*Hordeum vulgare L. var. nudum Hook. F.*、コムギ　*Triticum aestivum L.*、ヒエ　*Echinochloa utilis Ohwi et Yabuno*、ヒエ属　*Echinochloa*、ミクリ属　*Sparganium*、アワ　*Setaria italica (L.) Beauv.*、ハス　*Nelumbo nucifera Gaertn.*、ヒシ

Trapa japonica Flerov、ナス属　*Solanum*、ナス　*Solanum melongena L.*、イヌホオズキ　*Solanum nigrum L.*、トウガン　*Benincasa hispida (Thunb.) Cogn.*、スイカ　*Citrullus lanatus (Thunb.) Matsum et Nakai*、メロン仲間　*Cucumis melo Linn.*、ウリ属　*Cucumis* sp. 、カラスウリ属　*Trichosanthes*、キカラスウリ　*Trichosanthes kirilowii Maxim. Var. japonica (Miq.) Kitam*、スズメウリ　*Melothria japonica (Thunb.) ex Cogn*、ヒョウタン仲間　*Lagenaria siceraria (Molina) Standl.*、ゴキヅル　*Actinostemma lobatum Maxim, ex Franch. et Savat.*、ウリ科　Cucurbitaceae、シソ属　*Perilla*、エゴマ　*Perilla frutescens (L.) Britton var. japonica Hara*、イヌコウジュ属　*Mosla*、オオバコ属　*Plantago*、ゴマ　*Sesamum orientale L.*、ダイズ属　*Glycine*、アズキ　*Vigna angularis*、ヤブツルアズキ　*Vigna angular (Willd.) Ohwi et Ohashi ver. nipponensis (Ohwi) Ohwi et Ohashi*、ササゲ属アズキ亜属　*Vigna*、カガイモ　*Metaplexis japonica*、ゴボウ属　*Arctium*、タデ科　Polygonaceae、ヤナギタデ　*Persicaria hydropiper (L.) Spach*、サナエタデ　*Persicaria scabra (Moench) Mold.*、イヌタデ　*Persicaria longiseta (Bruijn) Kitag.*、ウナギツカミ　*Persicaria aestiva*、ボントクタデ　*Persicaria pubescens (Blume) Hara*、イシミカワ　*Persicaria perfoliata (L.) H.Gross*、ソバ　*Fagopyrum esculentum Moench*、ミゾソバ　*Persicaria thunbergii (Sieb. et Zucc.) H.Gross*、ギシギシ属　*Rumex*、ハコベ属　*Stellaria*、ナデシコ科　Caryophyllaceae、ノミノフスマ　*Stellaria alsine Grimm var. undulata (Thunb.) Ohwi*、シロネ属　*Lycopus*、ムラサキシキブ属　*Callicarpa*、トウバナ属　*Clinopodium*、ハリイ属　*Eleocharis*、オニバス　*Euryale ferox Salisb.*、コウホネ　*Nuphar japonicum*、アカザ属　*Chenopodium*、キケマン属　*Corydalis*、カタバミ属　*Oxalis*、アリノトウグサ　*Haloragis micrantha (Thunb.) R.Br.*、イボクサ　*Murdannia keisak (Hassk.) Hand.-Mazz.*、メヒシバ属　*Digitaria*、エノコログサ属　*Setaria*、カヤツリグサ属　*Cyperus*、カワラスガナ　*Cyperus sanguinolentus Vahl*、コゴメガヤツリ　*Cyperus iria L.*、ホタルイ属　*Scirpus*、ウキヤガラ　*Bolboschoenus fluviatilis (Torr.) Soják subsp. yagara (Ohwi) T.Koyama*、スゲ属　*Carex*、スゲ属オニナルコ節　*Carex sect. Vesicariae Drejer*、ヒユ属　*Amaranthus*、タカサブロウ　*Eclipta prostrate L.*、オナモミ　*Xanthium strumarium L.*、メナモミ　*Sigesbeckia orientalis L. ssp. pubescens (Makino) Kitam.*、コメナモミ　*Sigesbeckia orientalis L. ssp glabrescens (Makino) Kitam*、キク亜科　Asteroideae、キンポウケ属　*Ranunculus*、タガラシ　*Ranunculus sceleratus L.*、アサ　*Cannabis sativa L.*、カナムグラ　*Humulus japonicas Sieb. et Zucc.*、ヒルムシロ属　*Potamogeton*、ヘラオモダカ　*Alisma canaliculatum A.Br. et Bouché*、サジオモダカ属　*Alisma*、オモダカ属　*Sagittaria*、クサネム　*Aeschynomene indica L.*、チドメグサ属　*Hydrocotyle*、コナギ　*Monochoria vaginalis (Burm.f.) Presl var. plantaginea (roxb) SolmsLaub.*、ミズアオイ　*Monochoria korsakowii Regel et Maack*、カラムシ属　*Boehmeria*、キジムシロ属　*Potentilla*、ヤブジラミ属　*Torilis*、セリ属　*Oenanthe*、スミレ属　*Viola*、ザクロソウ　*Mollugo pentaphylla L.*、マツモ　*Ceratophyllum demersum L.*、ツユクサ　*Commelina communis L.* の 93 分類群。

両者あわせて 185 分類群におよぶ多種の植物種実が認められる。不明種実がこれに加わるので、実際にはさらに増える。種実組成は、遺跡、遺構ごとに大きく異なる。次章以降では、これらを遺構、層位ごとに計数した。計数は、部位（種子、核、果実、果皮など）ごとにおこない、個体の２分の１を超えて残存しているものを個体１点とし、２分の１以下のものを破片としてカウントした。

以下、次章以降の表と本文の記載方法について述べる。

表中の記載に関して、遺構・層位および種実の数量表示や分類項目について以下の点に注意されたい。まず、遺構と層位については、遺構を示す遺構番号とその下位概念である層位からなる。今回対象の遺構番号には、頭に SB・SD・SE・SK・SX がつく。これは、それぞれ建物、溝、井戸、土坑（穴）、その他、という遺構の性格を示す。層位名は、取り上げ時のものをそのまま示した。そのため、本文中の遺構概要に記した層位名と齟齬がある場合がある。本来、報告書に記載した層位名に統一すべきであるが、時間的制約から困難であった。今後修正を行うなどして改善を図りたい。

次に表中の種実の数量については、遺構、層位ごとに植物種実の数量を２列（左が個体数、右が破片数）で示している。また、いくつかの種類では、人為的な加工の痕跡をもつものも存在している。例えば、クリ果皮の場合、人為的に切断されたものや、さらに何らかの理由で果皮を六角形に整形したものが認められた。表中では、前者を「カット」、後者を「六角」と記している。ほかに、オニグルミやモモの核などにも人為的な打割の痕跡が認められた。これらについては表中に表していない。

なお、既刊報告書で分類や数量を示している場合がある。これらのうち、近年分析会社に依頼するなどして報告したものについては、基本的にその分類と数量を示した。報告済みのもので当研究所において整理、計数したものは、改めて調査を実施した。その結果、報告書に記載された数量と、本書での数量に齟齬が生じている場合がある。これは、報告時と今回の計数方法の差異、分類や計数の間違い、保管上の問題（経年劣化、紛失などによる計数不能）な

ど複数の要因によると考えられる。現状では、齟齬の原因は特定しがたいため、既刊報告書にて数量が示されているもので、今回計数し直したものについては数量を併記することとした。

本文では、該当遺構に関する説明の後、出土種実の概要を記している。また、特に種実の種類が豊富な遺構については、種実の写真を掲載した。遺構の記載は、既刊の報告書（『学報』、『概報』、『紀要』）によっている。ただし、本書で引用したのは、遺構の形態や埋土等の堆積状況、出土遺物（植物種実以外）に関する最小限の記載であり、詳細については巻末に記した文献（遺構別に記載）を参照いただきたい。なお、各節の記載は、便所遺構・井戸・土坑→溝状遺構という順におこなった。これは、現地性が高く閉鎖的遺構である前者と、より流動的で開放的遺構である後者という、遺構の性格の違いを重視したためである。前者の、とくに便所遺構の種実は、人が食したものが多く含まれていると考えられるが、後者には、食用とされたもの以外にも、祭祀などに関わる植物や、周辺植生に由来する種実が含まれていることが容易に想像できる。そうした性格の異なる種実が混在することは注意が必要である。また、後世の土壌攪乱の影響によって、由来の全く異なる種実が混入するコンタミネーションの存在も十分考慮しておかねばならない。これらの影響は、排除できるものではないため、遺構出土の植物種実の構成が、そのまま当該期のものであるとするには問題がある。これらの検討には、植物種実の構成や形態の検討、問題となる種実の年代測定の実施など、多角的な分析が必要である。ただし、今回は、こうした検討をおこなう以前の、基礎データの集積を目的とするため、遺跡出土種実が抱える問題を示すのみにとどめておきたい。

２．資料の保管と管理

さて、分類、計数などの調査を終えた資料については、それぞれの地区の奈文研収蔵庫に保管している（第２図）。出土植物種実は、未炭化の状態のものがほとんどである。これらは乾燥させてしまうと種実そのものが崩壊、変形する恐れがあるため、基本的にエタノール水溶液（およそ10％濃度）を満たした小瓶に植物種実を分類群別に封入し、点数等を明記の上、調査次数別かつ遺構別に保管している。ただし、核（モモ核やクルミ類の核など）などそうした変形がほとんど起こらない資料については、十分に乾燥させてチャック袋に収納している。

第２図　資料保管の状況（奈文研平城地区）

第２章

藤原宮・京・飛鳥地域出土の植物種実

Ⅰ　藤原宮・京跡出土の植物種実

１．藤原宮・京跡植物種実出土遺構の概要

藤原京は、持統８年（694）に建設された日本初の本格的都城である。その中心には、天皇の居所である内裏や儀式や政治の場である大極殿や朝堂、役所群等のある藤原宮が置かれた。

この藤原宮・京跡においては、便所遺構、井戸、土坑のほか、溝状遺構（運河含む）や沼状遺構から植物種実が出土している。その位置は第３図に示した。出土数量は、後述する飛鳥地域の石神遺跡や次章の平城宮・京に比べると少ない。しかし、便所遺構や時期が絞り込める井戸、土坑などで、植物種実が少なからず確認されている。また、藤原宮朝堂院地区の運河遺構では、豊富な植物種実が得られている。便所遺構SX7420を除き、大型の植物種実が目立ち、小型種実が見られないのは、2㎜よりも目の細かい篩を使用した調査がおこなわれていないためと考えられる。

２．便所遺構・井戸・土坑

a. 藤原京右京七条一坊

SX7420　西北坪で見つかった便所遺構。長さ 1.6 m、幅 0.5 mの長楕円形を呈する素掘りの土坑で、長軸を南北方向に置く。深さは現状で 0.4 mをとどめるが、周辺の柱穴等の遺存状況からすると、本来は１m前後の深さをもつと考えられる。内部には粒子の細かい黒色土が詰まっており、木簡や板状木製品、ウリの種子が堆積していた。７世紀後半。

出土した植物種実は、数量は不明ながら報文（黒崎編 1992）によると次のようなものがある。クワ種子、キイチゴ属核、サンショウ種子、ブドウ属種子、ナス属種子、シソ属種子、アサ種子、メロン仲間種子など食用植物が含まれる。またこのほかにも、雑草が含まれており、アカザ属、カタバミ、ナデシコ科のような乾燥した人里を好む種類と、ホタルイ属、イボクサ、ギシギシなど溝や水性環境に生育する種類がある（第２表）。

b. 藤原宮西方官衙地区

SE8431　西方官衙地区における区画Ｂ東辺の塀の内側に位置する。掘方は深さ約 1.8 mで、開口部の直径は約 2.4 m。上から約１mのところで一辺約 1.5 m前後の方形となる。横板組の井戸枠を残す。井戸枠内埋土からは、飛鳥Ⅳの土器のほか、星座「羅堰九星」を描いた呪符木簡が出土した。井戸の埋土は均質で、一気に埋め戻されたと考えられる。７世紀後半。

植物種実として、モモ核が、掘方と埋土でそれぞれ１点（破片３点）、８点出土している（第２表）。

SK8471　西方官衙地区の区画Ｂ外にある南北棟掘立柱建物 SB8460 の西南に位置する土坑。直径 4.6 m、深さ 1.3 mのすり鉢状である。多量の土器（飛鳥Ⅳ）とともに、木簡や木製品が出土した。７世紀後半。

複数の層位に区分されているが、植物種実の構成は類似している。最も出土数が豊富な青灰粘土層をみると、ヒョウタン仲間種子が 250 点と最も多く、次いでモモ核 71 点（破片 92 点）、そしてナツメ核８点（破片３点）、スモモ類核５点と続く。このほかカヤ種子とオニグルミ核の破片が少量出土している（第２表）。

c. 藤原京左京七条二坊

SE275　東南坪の中央やや南寄りに位置する井戸。東西 2.3 m、南北２mの楕円形の掘方を掘り、中に横板蒸籠組の井戸枠を据えている。井戸枠は内法幅約 45㎝。井戸枠内からは飛鳥Ⅴの土器が出土している。７世紀後半～８世紀初頭。

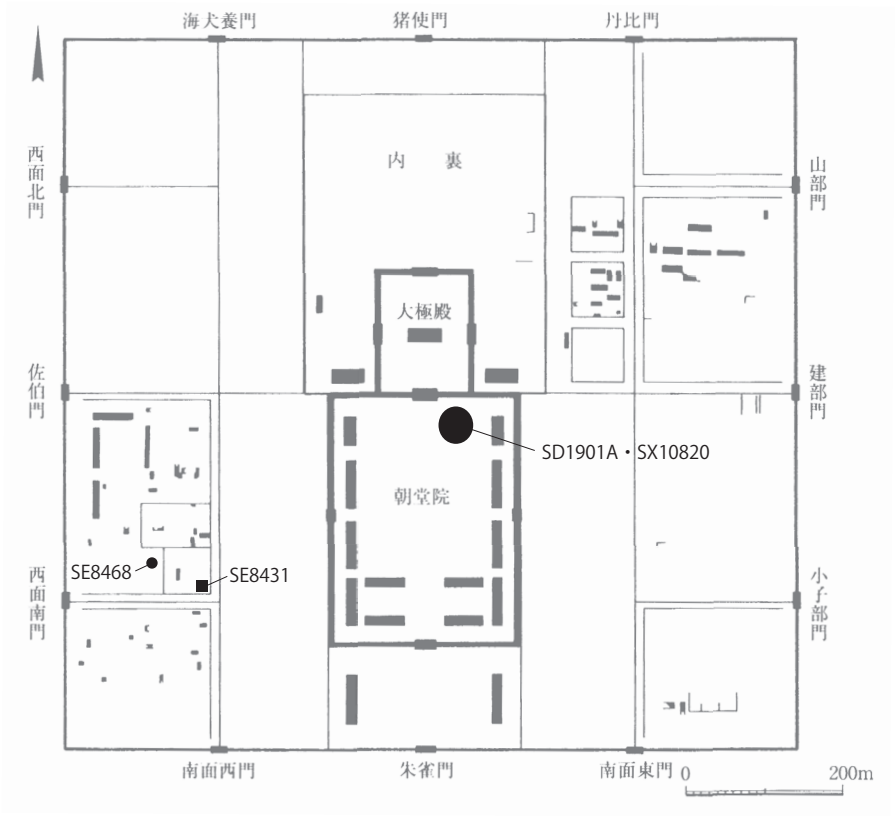
植物種実として、モモ核８点が出土している（第２表）。

３．溝状遺構・運河など

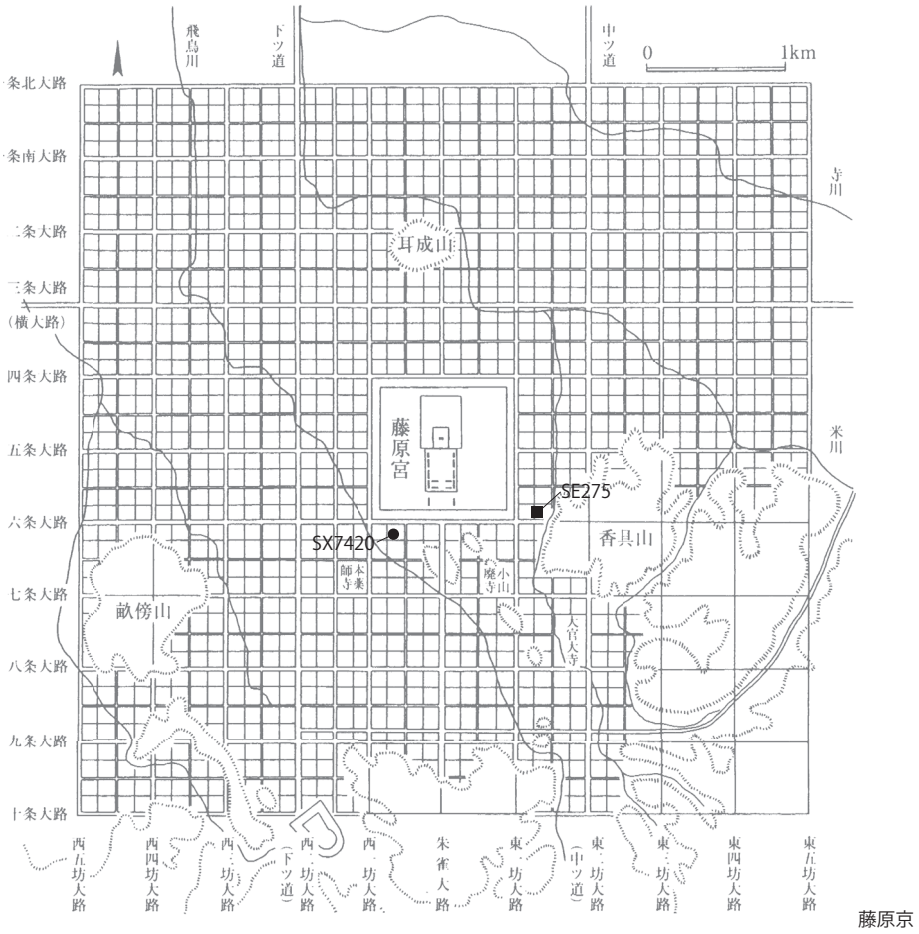
a. 藤原宮朝堂院地区

SD1901A　朝堂院地区を南北に貫流する運河。第一次整地である暗褐色粘土から掘りこんでおり、幅は約３～４mで、深さは２mを測る。埋土は下から機能時の堆積を示す粗砂層、細砂層、埋め立て時の青灰色粘土層である。粗砂層や細砂層には土器や動物骨、木器などを多く含む。埋め立てに際しては、斜行溝 SD10801A の底と同じ高さまで埋めた後、瓦を一括投棄し、さらに青灰色粘土で一気に埋めている。藤原宮造営期（７世紀後半）。

植物種実は、２度の調査（153 次・169 次）で出土している。両調査での種実の構成はよく類似している。粗砂層（153 次）で最も多いのは、メロン仲間種子で、384 点（破片 300 点）、次いでブドウ属 28 点（破片 30 点）、ヒョウタン仲間種子８点、サンショウ種子５点（破片３点）、カキノキ種子３点（破片１点）、ナツメ核２点などと続く。169



藤原宮



藤原京

第３図　藤原宮・京跡における調査対象遺構の位置（図は小澤 1997 より）

第２表　藤原宮・京跡出土の植物種実

分類群	部位	SX7420	SE275	SE8431		SK8471			SD1901A			SX10820	
			枠内	埋土	掘方	炭化物層	青灰粘土	青灰粘土2	粗砂	青灰粗砂	淡青灰粘土下面	13層	15層
木本													
カヤ	種子						1	1				7	
ヤマモモ	核									1		4	
オニグルミ	核					2	5						
クリ	果皮							7		1 7			
モモ	核		8	8	1 3	69 25	71 92	5 4					
スモモ類	核					3	5						
ムベ	種子									1			
キイチゴ属	核												
ナツメ	核					1	8 3	1	2				
カキノキ	種子								3 11				
クワ属	種子									1			
クワ	種子	○											
コナラ属	堅果								2	3 8		5	
コナラ属	炭化子葉												
コナラ属	殻斗								3				
マメ科	種子									1			
サンショウ	種子	○							5 3	4			
ブドウ属	種子	○							28 30	72 50		1	
ノブドウ	種子	○											
ミズキ	核								1	1			
トチノキ	種子												
草本													
イネ	穎									1			
ナス属	種子	○								13			
メロン仲間	種子	○							384 300	291 432	1	5 6	
ヒョウタン仲間	種子					8	250	14	8	3		6 2	1 7
ヒョウタン仲間	果皮					○				10			
シソ属	果実	○								2			
ヤブツルアズキ	種子									1			
タデ科	果実	○							1	369	95		
ギシギシ	果実	○											
ホタルイ属	果実	○											
カタバミ	種子	○											
アカザ属	種子	○											
キンポウゲ属	果実	○											
ナデシコ科	種子	○											
キク科？	果実	○											
タカサブロウ	果実	○											
アサ	種子	○											
カヤツリグサ属	果実	○											
イボクサ	種子	○											
キケマン属	種子									61	59		
不明・同定不能									9	20	13		1

次の青灰粗砂層では、タデ科果実が 369 点と多いが、次に多いのはメロン仲間種子で 291 点（破片 432 点）、そしてブドウ属種子 72 点（破片 50 点）と続く。このほか、キケマン属種子 61 点、ナス属種子 13 点、サンショウ種子が４点、ヤマモモ核、クリ果皮、ムベ種子、クワ属種子、ヤブツルアズキ種子も１点ずつ出土している（第２表）。

SX10820　朝堂院東北隅に掘削された沼状遺構。第一次整地土を掘り込んでおり、第二次整地土によって埋め立てられている。南北長は約 50 m、東西は現状では不明。深さは一部では 70㎝だが、それ以上になるものと考えられる。SX10820 は、まず青灰色粘土によって 15 ～ 20㎝ほど埋まり、その後一気に埋め立てられている。青灰色粘土は自然堆積と考えられるが、これより上位の埋め立て土からは土器（飛鳥Ⅰ～Ⅲ）、瓦、木製品（木屑含む）が出土した。７世紀中ごろから後半。

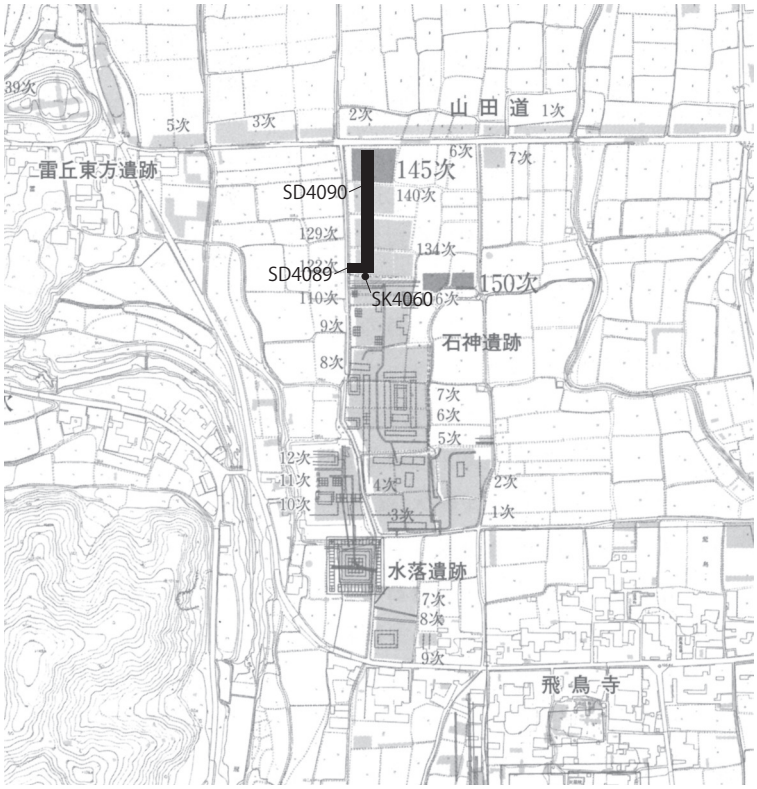
植物種実の出土数は多くはない。13 層ではヒョウタン仲間種子が６点（破片２点）、メロン仲間種子が５点（破片６点）、ヤマモモ核が４点出土している。このほかにカヤ種子、コナラ属堅果の破片がある。15 層では、ヒョウタン仲間種子がわずかに出土している（第２表）。

このほかに、藤原宮朝堂院東第二堂北半部の溜まり部から、キイチゴ属核 66 点、ホタルイ属種子６点が出土している（第５・６図）。

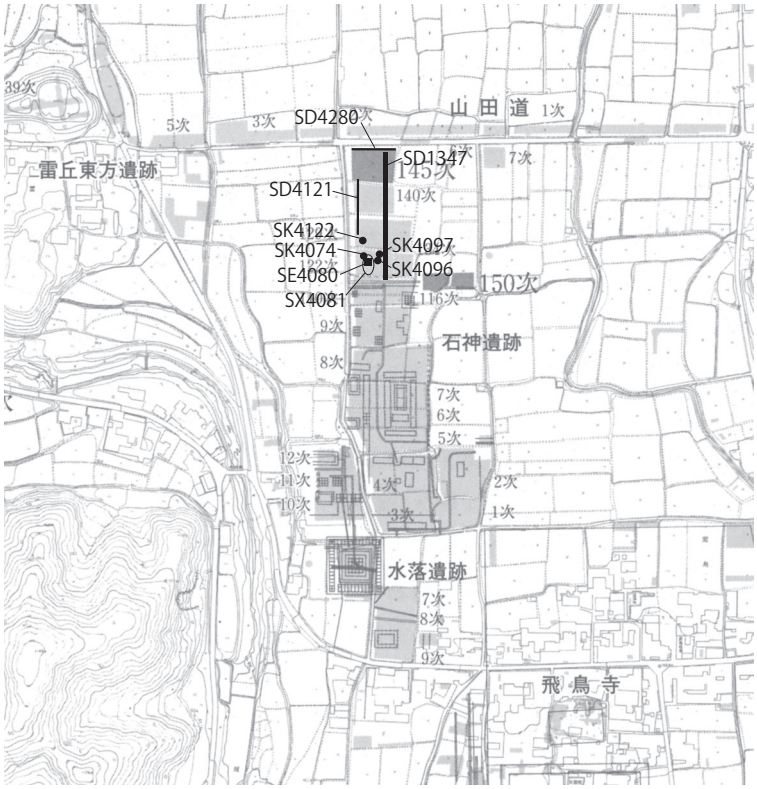
Ⅱ　飛鳥地域の遺跡―石神遺跡―

１．石神遺跡における植物種実出土遺構の概要

石神遺跡は飛鳥寺西北に隣接する遺跡で、中枢部では、７世紀代を中心とした建物や広場、井戸、溝などが計画的に配置されていたことが分かっている。最盛期は斉明朝のころで、『日本書紀』にみえる饗宴施設と考えられている。本節で対象とするのは、石神遺跡でも北方の種実出土遺構である（第４図）。この付近には、建物等の施設はほとん



石神 B 期



石神 B ～ C 期

第４図　石神遺跡における調査対象遺構の位置（下図は奈文研 2008 より）

第３表　石神遺跡出土の植物種実（１）

分類群	部位	SE4080		SK4060		SK4096		SK4097		SX4122		SX4074		SX4081							
														１層		２層		抜取		一括	
木本																					
カヤ	種子								1												
イヌガヤ	種子							2													
オニグルミ	核						2		2		1										
ハシバミ	堅果								2												
クリ	果皮				○	1	35		100<		2										
モモ	核	10	8	7	7	180	205	283	439	293	737	1	2	8		3	1	1	2	5	
スモモ類	核			4	2	26	2	57	23	23	2										
サクラ属	核					1															
センダン	核							1													
ナツメ	核	1		2	4	7	1	18	2	18											
カキノキ	種子			1				13	2												
クワ属	種子							1													
アカマツ	球果					1															
コナラ属	堅果				12		1		2		2										
コナラ属	殻斗					2															
アカガシ亜属	果実＋殻斗					2															
アカガシ亜属	幼果					1															
マメ科	種子					1															
サンショウ	種子					1		2													
アカメガシワ	種子					1															
ブドウ属	種子							1													
トチノキ	種子					1	2														
草本																					
トウガン	種子							32	5												
メロン仲間	種子	73	13	320	130	192	35	434	297												
キカラスウリ	種子					1	1														
ヒョウタン仲間	種子	4				95	26	22	8												
カナムグラ	種子					4															
キク科？	？						○														
不明・同定不能						9		3	3												

どなく、溝や土坑で構成されている。しかし、中枢施設群と期を一にした遺構変遷が認められ、両者が関連していることを示している（奈文研 2008）。植物種実は、井戸や土坑、そして溝状遺構から多数出土している。特に後者からの出土量は、飛鳥、藤原地域で最も多い。ここで調査対象とした遺構の年代は、ほぼ７世紀後半に限られており、当該期の植物利用や植生復元に重要な資料と考えられる。ただし、藤原宮・京と同様に、2㎜よりも目の細かい篩を使用した調査がおこなわれていないため、相対的に大型の種実が目立つ。なお、本遺跡出土の種実写真を第５・６図に示した。以下、個別にみていく。

２．井戸・土坑等

SE4080　石敷 SX4081 の中にある井戸。石敷とは一連の遺構である。直径１m、深さ約 1.2 mで 20 ～ 60㎝大の自然石を４～５段組み上げている。底部には５～ 10㎝大の玉石を敷く。埋土は上から暗褐色粘土、石組と同様の石を含む灰色泥土、擂鉢状にたまった青白色砂と灰色粘土、臼状に厚く堆積した灰色砂、最下層の薄い灰色粗砂という順である。堆積状況からみて灰色砂を一度浚渫している。

植物種実として、メロン仲間種子 73 点（破片 13 点）、モモ核 10 点（破片８点）、ヒョウタン仲間種子４点、ナツメ核１点が出土している（第３表）。

SK4060　上層整地にともなう土坑。東西２m以上、南北 11 mの溝状を呈し、深さ 0.3 m。北側を SD4089 に切られている。

植物種実は、メロン仲間種子 320 点（破片 130 点）と最も多く、次いでモモ核７点（破片７点）、スモモ類核４点（破片２点）、ナツメ核２点（破片４点）、カキノキ種子１点と続く。このほか、コナラ属堅果破片、クリ果皮が出土している（第３表）。

SK4096　南北溝 SD4090 の堆積土を切り、Ｃ期の石敷 SX4081 と整地土に覆われている土坑。木屑を多量に含む。Ｂ期廃絶～Ｃ期造営に伴う廃棄土坑であろう。この土坑は、厳密には SD4090 と掘り分けられておらず、一部は SD4090 に帰属する可能性がある。

出土植物種実として最も多いのは、メロン仲間種子で 193 点（破片 36 点）、次いでモモ核が 180 点（破片 205 点）、ヒョウタン仲間種子 95 点（破片 26 点）、スモモ類核 26 点（破片２点）である。このほかに、ナツメ核、コナラ属堅果、クリ果皮、サクラ属核、サンショウ種子、トチノキ種子、キカラスウリ種子、カナムグラ種子、オニグルミ核（破片）などが出土している（第３表）。

SK4097　Ｂ期の溝 SD4090 の堆積土を切り、Ｃ期の整地土に覆われている土坑。埋土に檜皮が多く含まれている。

出土植物種実の構成は、SK4096 と類似している。最も多いのはやはりメロン仲間種子で 434 点（破片 297 点）、

第４表　石神遺跡出土の植物種実（２）

分類群	部位	SD4089												SD4090									
		１層木屑		１層粘土		２層木屑		３層シルト		一括		木屑土坑１		方形土坑		木屑土坑		灰黒粘土		木屑層		暗褐砂粘		黄灰粘土	
木本																									
カヤ	種子						90<																		
イヌガヤ	種子					9																			
ヤマモモ	核					1																			
オニグルミ	核		1		1		11										2		2		1				
ハシバミ	果実		44		6	2	45								2										
クリ	果皮						210<		26<				30<		19		1				7				
ツブラジイ	堅果													2											
モモ	核	3	2	9	5	477	708	41	34	43	17	33	47	88	71	90	177	53	48	45	33	2	4	2	1
スモモ類	核			1	1	236	28	6	1			4		30	2	59	14	10		16					
センダン	核					3						1				1									
ナツメ	核					103	7	1						6		37	2	3		7	2				
クワ属	種子					1																			
コナラ属	堅果					1	12	1	3				1		4		4				1				
サンショウ	種子					2										2									
ブドウ属	種子					5																			
クサギ	核					1																			
クマノミズキ	核															1					1				
草本																									
イネ	頴					1																			
ナス属	種子					1																			
トウガン	種子					4		2								3	1								
メロン仲間	種子					1722	434	20	4					12	5	179	182								
ヒョウタン仲間	種子					65	7	28	1							16	7								
トウゴマ	種子					1																			
不明・同定不能						1		1						1		3	1			1	4				

分類群	部位	SD4090		SD4089・4090（122次・巨大土坑として取り上げ）																					
		黒灰砂		１層		２層		３層		５層		６層		７層		炭入土		暗灰砂		木屑層		黒灰土	
木本																									
カヤ	種子						1						1												
ヤマモモ	核				2																				
クリ	果皮										42		6				2								
モモ	核		1	73	42	22	32	12	11	64	96	44	22	1	2	341	149	1		9	14		2		
スモモ類	核					4	1			14	3	1				2									
サクラ節	核									1															
ナシ亜科	種子									1															
センダン	核									1															
ムベ	種子									1															
ナツメ	核						1			2		2													
コナラ属	堅果										6		1												
草本																									
トウガン	種子									4															
メロン仲間	種子									297	132	53	49												
ヒョウタン仲間	種子									8	2	2													
不明・同定不能										1	1														

そしてモモ核 283 点（破片 439 点）、スモモ類核 57 点（破片 23 点）と続く。SK4096 にはない種実としては、カキノキ種子、トウガン種子、カヤ種子、イヌガヤ種子、ハシバミ果実などがある（第３表）。

SX4122　円形の浅い土坑。直径約４m、深さ約 10㎝で、木屑層を切っている。大量の木屑とともに木簡やその削り屑も出土した。

植物種実としては、モモ核は最も多く、293 点（破片 737 点）、スモモ類核 23 点（破片２点）、ナツメ核 18 点と続く。このほかにクリ果皮、オニグルミ核（破片）が認められる（第３表）。

３．溝状遺構

SD4089　東西方向の素掘溝で、21 m分を検出した。幅最大６m、深さ 0.4 mで東流する。SD4089 の東端は SD4090 に接続して北に流して終わり、東に延びない。埋土は上から炭混灰色粘質土層、有機質層、暗灰色粘質シルト。東南隅には護岸の石を設置している。有機質層には炭や灰が塊状にあり、流れ着いたというよりは投棄された状況であった。

植物種実は、２層木屑層から多量に出土している。最も多いのは、メロン仲間種子で、1722 点（破片 434 点）、次いでモモ核が 477 点（破片 708 点）、スモモ類核 236 点（破片 28 点）、ナツメ核 103 点（破片７点）、ヒョウタン仲間種子 65 点（破片７点）と続く。その他の分類群は、個体数が 10 点未満の少量であるが、カヤ種子、イヌガヤ種子、オニグルミ核、クリ果皮、ハシバミ堅果、センダン核、クワ属種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、イネ頴、トウガン種子、トウゴマ種子が出土している。その他の層位では、これほど種類は多くなく、モモ核が主体となる（第４表）。

SD4090　東西溝 SD4089 から水を北に流す、南北方向の素掘溝。幅は南で約９m、北で約 16 mであり、北で西

第５表　石神遺跡出土の植物種実（３）

分類群	部位	SD1347（122次）																			
		1層		2層		3層		4 層		5層		下層木屑		黒灰砂		砂層		砂溝2		西流		一括	
木本																							
オニグルミ	核												1								2		
ハシバミ	果実																						
クリ	果皮								12				26								46		24
モモ	核	19	8	7	7	3	1	12	8	10	4	26	32	67	28	6	1	13	6	49	64	29	24
スモモ類	核							6	2	5		17								15	5	7	1
サクラ属	核																			1			
センダン	核											1								1			
ナツメ	核									2		5	2							11			4
コナラ属	堅果												1										1
草本																							
メロン仲間	種子					5	10<	110	20	21	23	130	31	13	9					4	2		
ヒョウタン仲間	種子									1		18	1							10			
シソ属	果実											1											

分類群	部位	SD1347（129次）																							
		2 層		暗灰粘土		暗灰微砂		黒灰粘土		灰色砂		灰茶粘土		灰茶砂粘		青灰褐砂粘		炭 1		木屑 1		木屑 2		木屑 3		その他	
木本																											
オニグルミ	核		1																								
クリ	果皮						2																				
モモ	核	47	36	8	9	73	70	14	15	7	4	1	4	11	10	4	2	4	7	33	34	11	6	1	2	13	9
スモモ類	核					20	2	1		1												1					
ムクロジ	核					1																					
ナツメ	核					12																					

分類群	部位	SD1347（140次）										SD4121		SD4280	
		暗灰粘土		暗褐土		灰砂		黒灰粘土		黒褐粘土					
木本															
カヤ	種子												1		
ヤマモモ	核									2		1			
オニグルミ	核										1			1	20
ハシバミ	果実										1				
クリ	果皮										20<		310<		1
モモ	核	40	184	59	53	18	11	3	2	98	70	489	692	290	123
スモモ類	核	21	2	20	1			3		45	6	77	9		
ナツメ	核	1		3						8		27	2		
カキノキ	種子											2	7		
マツ属複維管束亜属	球果													1	
コナラ属	堅果				○							5	20		
マメ科	種子												2		
サンショウ	種子											37	8		
ミズキ	核											1			
クマノミズキ	核											1			
草本															
トウガン	種子											1	1		
メロン仲間	種子											427	215		
ヒョウタン仲間	種子											96	70		
不明・同定不能										1		2	1		

に広がっている。埋土は上から炭混灰色粘質土、有機質層、暗灰色粘質シルト層、灰色粗砂と灰色シルトの混じった層などの堆積土となる（122 次）。溝の東南部では、暗茶灰色粘土より上位の堆積土から、持統６年（692）を示す木簡が出土した。この堆積土は溝の埋立土よりも下位であるため、この年には機能していたことがわかる。

植物種実は、129 次調査では、メロン仲間種子が最も多く、179 点（破片 182 点）出土している。次いでモモ核が 90 点（破片 177 点）、スモモ核 59 点（破片 14 点）、ナツメ核 37 点（破片２点）、ヒョウタン仲間種子が 16 点（破片７点）と続く。これは SD4089 とも共通した様相である。しかし、140 次調査ではメロン仲間種子は回収されておらず、最も多いのはモモ核、次いでスモモ類核となる。122 次調査では、巨大土坑として遺物が取り上げられており、一部 SD4089 と重複している。やはりここでも、メロン仲間種子が最も多く、モモ核、スモモ類核がそれに次いでおり、他層位と類似した様相と考えられる。その他にも、ナシ亜科種子１点、ムベ種子１点などが出土している（第４表）。

SD1347　幅 3.8 m、最大深 0.55 mの南北溝。暗灰色粘土・黒灰色粘土の堆積する SD1347A と灰色の粗粒砂が堆積する SD1347B に区分できる。前者からは木簡、木製品、土器等が出土した。木簡の年代から SD1347A を B 期に、SD1347B をそれ以降と考える。

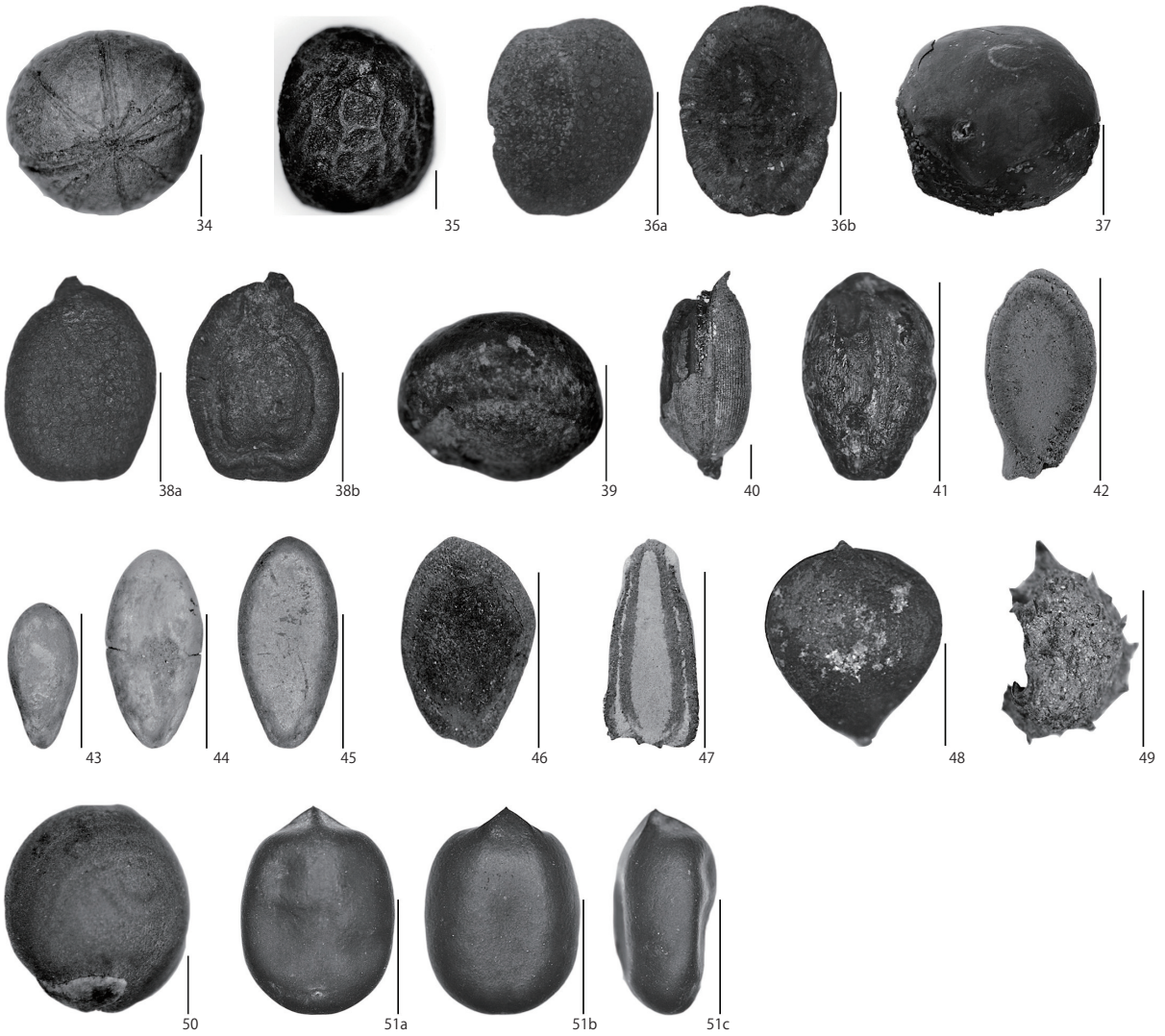
植物種実は、SD1347A の下層木屑層から多く出土している。最も多いのは、メロン仲間種子で 130 点（破片 31 点）、次いでモモ核 26 点（破片 32 点）、ヒョウタン仲間種子 18 点（破片１点）、スモモ類核 17 点、ナツメ核５点（破片５点）などと続く。その他の層位では一部を除いて、モモ核が主体となり、スモモ類核、ナツメ核がこれに次ぐという構成である。まれに、オニグルミ核（破片）、ハシバミ堅果、クリ果皮、サクラ属核、センダン核、ムクロジ核などが認められるが、いずれも少量である（第５表）。

SD4121　129・140 次調査区西辺に掘られた幅約２m、深さ 10 ～ 20㎝の浅い素掘りの南北溝。石敷 SX4114 付

スケール　10㎜：1-3,5-7,9-12,14,16-18,20,22-26　5㎜：4,8,13,19,21　1㎜：15,27-33

1．カヤ種子、2．イヌガヤ種子、3．ハイイヌガヤ種子、4．ヤマモモ核、5．オニグルミ核、6．ハシバミ堅果、7．クリ果皮、8．ツブラジイ堅果、9-10．モモ核、11．スモモ核、 12．サクラ属サクラ節核、13．ナシ亜科種子、14．ナシ亜科果実、15．キイチゴ属核、16-17．センダン核、18．ムクロジ核、19．ムベ種子、20．ナツメ核、21．カキノキ種子、22．アカマツ球果、23．アカマツ種鱗、24．イチイガシ炭化子葉、25．アカガシ亜属堅果、26．アカガシ亜属殻斗付堅果、27．アカガシ亜属幼果、28．サンショウ種子、29．サンショウ果皮付種子、30．イヌザンショウ種子、31.アカメガシワ種子、32．ブドウ属種子、33．ミズキ核

第５図　石神遺跡から出土した大型植物遺体（１）



スケール　10㎜：37,42,46,47,　5㎜：38,39,41,43-45,49,51　1㎜：34,35,40,48,50,

34．クマノミズキ核、35．クサギ核、36．トチノキ果皮、37．トチノキ種皮、38．トチノキ果皮（小型）、39．トチノキ種皮（小型）、40．イネ皮付穎果、41．オオムギ炭化皮付穎果、42．トウガン種子、43．メロン仲間種子（ザッソウメロン型）、44．メロン仲間種子（マクワ・シロウリ型）、45．メロン仲間種子（モモルディカ型）、46．キカラスウリ種子、47．ヒョウタン種子、48．ホタルイ属種子、49．オナモミ果実、50．カナムグラ種子、51．トウゴマ種子

第６図　石神遺跡から出土した大型植物遺体（２）

近を南限に認識できなくなる。大量の木屑とともに木簡やその削り屑も出土した。流水により砂層などが確認できなかったため、Ｃ期への造成工事の工程で排水用の溝を掘り、それを木屑等で埋め、さらにその上に後半に木屑等を廃棄したものと考えられる。

豊富な植物種実が得られている。最も多いのはモモ核で 489 点（破片 692 点）、次いでメロン仲間種子が 427 点（破片 215 点）、ヒョウタン仲間種子 96 点（破片 70 点）、スモモ類核 77 点（破片９点）、サンショウ種子 37 点（破片８点）、ナツメ核 27 点（破片２点）と続く。このほかはいずれも 10 点未満であるが、カヤ種子、ヤマモモ核、カキノキ核、ミズキ核、クマノミズキ種子、トウガン種子などが出土している（第５表）。

SD4280　阿倍山田道の可能性がある SF2607 の南側溝と考えられる。幅 1.3 ～ 2.5 m、深さ 0.2 m。長さ 33 m 分を検出した。埋土は灰色粗砂で飛鳥Ｖの土器を多く含む。

植物種実としては、モモ核が最も多く 290 点（破片 123 点）、このほかオニグルミ核、クリ果皮などが少量出土している（第５表）。

このほかに、時期が不明確な遺構等からイヌザンショウ種子、オナモミ果実、オオムギ穎果（炭化）が出土している（第５・６図）。

第３章

平城宮・京出土の植物種実

Ⅰ　平城宮跡出土の植物種実

１．平城宮跡植物種実出土遺構の概要

和銅３年（710）に藤原京から平城京に都が遷された。藤原宮と異なり、平城宮は京域の北端に置かれた。平城宮の内部には、藤原宮と同様に内裏や、大極殿、朝堂、そして様々な役所群が配置されている。これまでの調査の蓄積によって、各施設群で数時期の遺構変遷が認められているが、特に、奈良時代の前半と還都後の奈良時代後半とで大きく変化することが分かっている。

平城宮跡における植物種実出土遺構は、便所あるいは糞便遺構、井戸、廃棄土坑、溝（宮内基幹排水路など）である。このうち、便所あるいは糞便遺構は、まだ東方官衙地区で見つかった数例にすぎない。これに対して、井戸や土坑、溝については多くの発掘事例があり、木簡をはじめとして多くの人工遺物が見つかっている。植物種実をについても数多く回収されているが、 定量的な分析を念頭に置いた調査事例が少ない。多くはピックアップ法によっており、また篩がけが行われたとしても 2㎜目以上の選別によっている。このことに注意が必要である。以下、上述の順に、植物種実が出土した遺構の概要およびそこから出土した種実の数量を見ていく。なお、植物種実出土遺構の位置は、第７図に示した。

２．便所あるいは糞便遺構

a, 東方官衙糞便遺構

第 440 次調査において６基検出した。これらの遺構からは土器等の資料があまり得られておらず、年代は判然としないが、周辺の遺構との関係から奈良時代末までには埋没していると考えられる。植物種実は SX19198 を除いて 200cc の土壌を 0.25㎜目の篩で水洗選別したもので、SX19198 のみ約 3000cc の土壌を２㎜、１㎜、0.5㎜目の篩を用いて選別した。詳細については、『奈文研紀要 2010』と『奈文研紀要 2013』にて報告しているので、そちらを参照されたい。なお、こららの遺構群の種実の数量は第６表に、写真は巻頭図版１に示した。

SX19196　平面形は東西にやや長い隅丸方形で、東西 62㎝、南北 50㎝、残存する深さは最大 20㎝である。埋土は黒褐色や褐灰色の粘性の強い砂質土で、籌木 97 点と炭化物を含む。籌木の間からは、数十粒で１単位をなすメロン仲間種子が数単位で検出された。

植物種実は、キイチゴ属核 221 点、メロン仲間種子 88 点と多く、ナス、コナギ、スゲ属、ホタルイ属を含む。

SX19197　平面形は隅丸方形で、南北 60㎝、東西 50㎝、残存する深さは 37㎝である。埋土は黒褐色や褐灰色の粘性の強い砂質土で、籌木 36 点を含む。

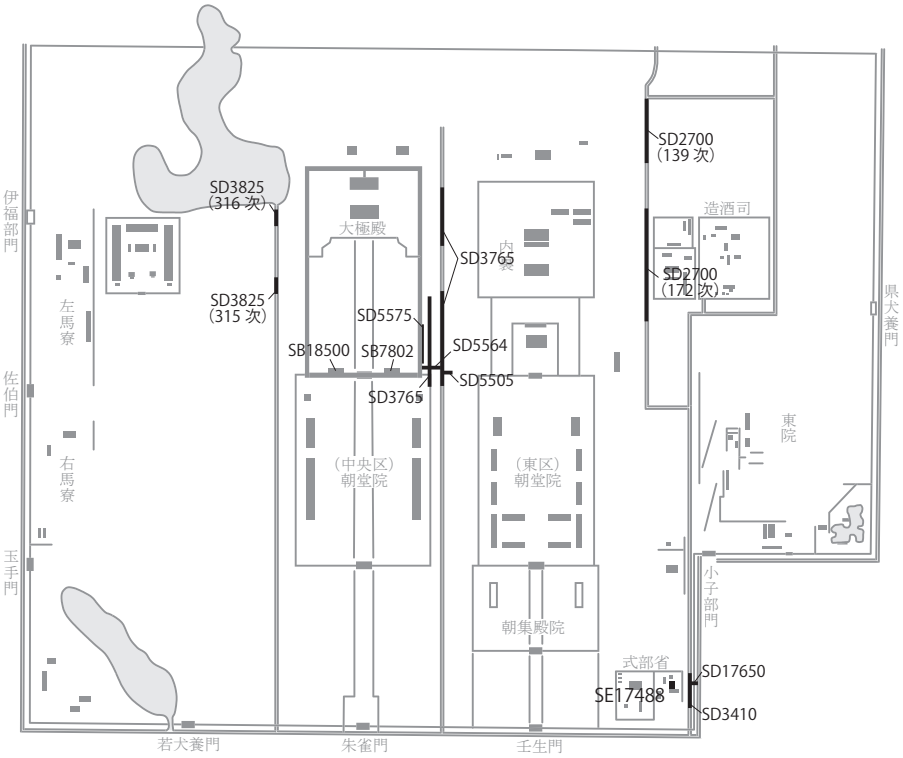
植物種実には、イヌホウズキ種子 21 点、アリノトウグサ果実 14 点、カヤツリグサ科果実 11 点と雑草類と考えられる種類が多い。イネ頴、ナス種子、メロン仲間種子、サンショウ属果実、シソ属果実も少数だが存在する。

SX19198　平面形はややいびつな方形で、東西、南北ともに 70㎝をはかる。残存する深さは 30㎝である。埋土は SX19197 と同様で、籌木７本を含む。

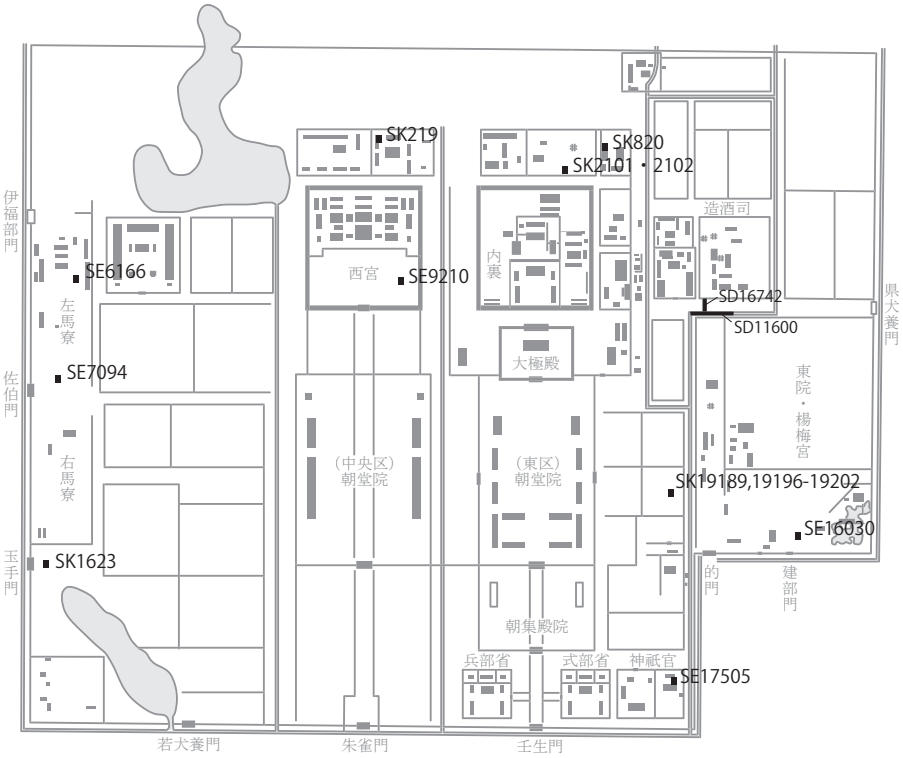
200cc の水洗選別から回収された種実では、キイチゴ属核 156 点、メロン仲間種子 81 点（破片 18 点）と多く、イヌホオズキ種子、スゲ属果実、ナス種子、カヤツリグサ科果実、イネ頴、アリノトウグサ果実、ホタルイ属、マタタビ属種子、イネ科頴、コナギ種子、ミゾソバ果実、ザウロソウ種子、カタバミ属種子と続く。一方、約 3000cc から回収した種実では、キイチゴ属核 10442 点（破片 39 点）、メロン仲間種子 5401 点（破片 2386 点）、ナス属種子 928 点、ナス 610 点（破片 201 点）と、これらが多数を占める点は 200cc の結果を追認するが、アケビ属種子 918 点（破片 637 点）、イタビカズラ節核 526 点（破片５点）、ヤナギタデ果実 371 点（破片 23 点）、クワ属核 278 点（破片１点）、ムベ種子 163 点（破片９点）など、200cc の中には含まれていないにもかかわらず、比較的多く含まれるものも存在する。このほか、ヤマモモ核、ヤマブドウ種子、カキノキ種子、ブドウ属種子、エゴマ果実、シソ属果実などの食用植物も豊富に存在し、キケマン属種子、カタバミ属種子、アリノトウグサ種子、エノコログサ属有ふ果、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実など雑草類も少なからず存在する。

SX19199　平面形は不整形で、東西は最大で 96㎝、南北は最大で 60㎝、残存する深さは 26㎝である。埋土は上層と下層で分かれ、下層は暗黄灰細砂、上層は黒色砂に下層の土がブロック状に入る。籌木 56 点を含み、遺構の西北隅にはＵ字形の黒色砂質土の塊があった。

種実分析では上面と籌木付近の２ヶ所でおこなったが顕著な違いは認められない。カヤツリグサ科がやや多く、アリノトウグサ、スゲ属など雑草類が主体を占める。食用植物では、メロン仲間の破片が確認されている。



奈良時代前半



奈良時代後半

第７図　平城宮跡における報告対象遺構位置図（下図は井上 2007 より）

第６表　平城宮跡出土の植物種実（１）

分類群	部位	SX19198		SX19196		SX19197		SX19198		SX19199		SX19199		SX19202		SX19202		SK19189		SK19189		SK19189	
		埋土		籌木上		上層		上層		上面		籌木付近		下層		籌木周辺		A･16層		B･21層		C･22層下	
木本																							
ヤマモモ	核	84	38															3					
クリ	果実		6																				
モモ	核																					1	
キイチゴ属	核	10442	39	221				156						4		1							
アケビ属	種子	918	637																				
ムベ	種子	163	9																				
カキノキ	種子	57	70																				
カキノキ属	種子	5	1																				
クワ属	核	278	1																				
イタビカズラ節	核	526	5																				
マタタビ属	種子	62						1															
シマサルナシ	種子													1		2							
サンショウ	種子	10	2																				
サンショウ	果実	1																					
サンショウ属	果実					1																	
ヤマブドウ	種子	19																					
ブドウ属	種子	12	1																				
草本																							
イネ	籾殻	10	47																				
イネ	頴					10		5						18		1	30	1		19			
ヒエ	頴					1									5	1	5						
ヒエ	有ふ果	59	6																				
アワ	有ふ果	1																					
イネ科	頴					1		1						2		1			6			2	
ナス	種子	610	201	12		2	4	7	1							33	5						
イヌホウズキ	種子					21		11	2			1		34		85		3					
ナス属	種子	928																					
メロン仲間	種子	5401	2386	88		1	3	81	18		2	1		9	11	29	19		1				
ウリ属	種子	29	2																				
エゴマ	果実	19	36											16	102	8	48		1				
シソ属	果実	2				1								1	1	1	4			15			
シソ科	果実													1		1							
ゴマ	種子													8	11	6	12						
ヤナギタデ	果実	371	23																				
サナエタデ	果実	1																6		76			2
イヌタデ	果実	3																					
イシミカワ	果実	1																					
ギシギシ属	果実	1																					
ミゾソバ	果実							1															
タデ属	果実					1				1				1						19		11	
ノミノフスマ	種子	3																					
ナデシコ科	種子					1						1		22				34			4	36	
ムラサキシキブ属	核		1																				
アカザ属	種子																	1					
キケマン属	種子	96																					
カタバミ属	種子	4						1			1	1		3		1		19		6	2	18	13
アリノトウグサ	種子	13	2																				
アリノトウグサ	果実					14		3		2		4		21		1							
イボクサ	種子	1																					
メヒシバ属	果実	1																					
エノコログサ属	有ふ果	5																					
エノコログサ属	頴															3		6	11				
カヤツリグサ属	果実	11																					
ホタルイ属	果実	39	8	4	1	9		2		1		1		6		8	1						
スゲ属	果実			5	1			9			1	3	1	5		15							
カヤツリグサ科	果実					11		7		10		5		12		1		5		2		13	
アブラナ科	種子					5												4		2		11	
ヒユ属	種子																	7					
キク科	果実																	1					
ヘラオモダカ	果実																	1					
チドメグサ属	果実									1								20		2		4	
コナギ	種子			11		2		1		1		2		2									
キジムシロ属	種子					1																	
イグサ科	種子									2													
ザクロソウ	種子					14		1										5		8		52	
不明・同定不能		42	4																				

SX19202　大部分は廃棄大土坑SX19189に壊されており、平面形は不明である。深さは35㎝である。中層はオリーブ黒色の粗砂、下層は黒色粗砂で、籌木26点が出土した。

種実分析は、下層と下層の籌木周辺の２ヶ所でおこなったが、これも両者で顕著な差は認められない。両者ともイヌホウズキ種子がそれぞれ34点、85点、エゴマ果実が16点（破片102点）、8点（破片48点）と多い点が一致する。また、キイチゴ属核、シマサルナシ種子、イネ頴、ゴマ種子、メロン仲間種子など食用植物を豊富に含んでいる点も共通する。

２．井戸・土坑・柱穴

（１）井戸

a. 第一次大極殿院広場の井戸

SE9201　A 地区西南にある井戸。井戸の掘方は矩形を呈し、上下二段にわかれる。上段は南北 7.3 m、深さ 1.7 mあり、下段は上段掘方の西北寄りを深くしたもので、東西 4.9 m、南北 4.5 m、深さ 1.9 mであり、遺構検出面から底面までの深さは 3.6 mとなる。下段掘方の底には４段の井戸枠をとどめるが、その上部は抜き取られている。井戸枠抜取痕跡は底から約１mの厚さで埋めもどされる（青灰色粘土）。井戸の内法は、方 2.25 mで、枠木の１段目と３段目には板を用い、２段目と４段目には校倉の校木を転用している。井戸枠と掘方の間は木屑をまじえた灰褐色砂で裏込めし、井戸底には拳大の玉石を敷く（厚さ 10㎝）。玉石敷の上部に堆積する暗灰色土は、10 世紀代の土師器があり、ほかに瓦片と木器があった。Ⅲ期およびそれ以降も使用されたことを示す。８世紀後半ないし９世紀初頭に掘られ、10 世紀に廃絶。

植物種実は、最下層の暗褐色粘土から出土したもので、モモ核８点（破片１点）、ウメ核２点（破片１点）のほか、破片資料として、ハシバミ堅果、クリ果皮、センダン核がある（第７表）。

b. 式部省東方官衙の井戸

SE17488　井戸掘方とともに井戸枠の抜取穴も確認した。方形横板組の井戸枠をもち、井戸枠最下段のみが遺存。井戸枠の保存状態は良好で、縦 15㎝、横 5㎝、長さ 156 ～ 158㎝のヒノキの角材４本を井桁に組む。内法寸法 132㎝の正方形をなす。奈良時代初頭に掘られ、中頃に廃絶。

第７表　平城宮跡出土の植物種実（２）

分類群	部位	SE9201		東楼		西楼SB18500		
		暗褐粘土		SB7802		掘方	抜取	
木本								
チョウセンゴヨウ	種子							1
ヤマモモ	核						2	
オニグルミ	核							18
ヒメグルミ	核							4
ハシバミ	果実						1	4
ハシバミ	堅果		2					1
クリ	果皮		9					94
ウメ	核	2	1				14	24
モモ	核	8	1	7	5		34	20
スモモ類	核						2	
サクラ節	核						5	
ナシ亜科	種子						3	7
ナシ亜科	果実				2			1
センダン	核		1				1	
ナツメ	核						3	
カキノキ	種子						12	6
マツ属複維管束亜属	球果						4	4
モミ属	種子						1	
アラカシ	堅果							1
クヌギ	堅果						1	
コナラ属	堅果						2	10
アカガシ亜属	幼果						2	
ムクノキ	核						1	
サンショウ	種子						3	
サンショウ	果実						1	
イヌザンショウ	種子						1	
ブドウ属	種子						7	1
バラ属	核						4	10
バラ属	果実						3	
アオツヅラフジ	核							10
モチノキ属	種子						4	
草本								
イネ	籾殻						1	
トウガン	種子						3	
メロン仲間	種子					1	154	58
ヒョウタン仲間	種子						1	
ヒョウタン仲間	果皮							○
ゴキヅル	種子						1	
サナエタデ	果実						1	
カヤツリグサ科	果実						5	10
不明・同定不能							3	3

第８表　平城宮跡出土の植物種実（３）

分類群	部位	SE17488				SE17505										
		一括	暗灰粘土	灰黒粘土	枠内	抜取	掘方	筒内	枠内						一括	
								木屑層	木屑層	灰緑砂	灰青砂	暗灰砂	暗灰黒粘土	一括		
木本																
ヤマモモ	核				1											
クリ	果皮	1			1		2	3			1					
ウメ	核				1			9				1	1			
モモ	核		1		1	1		3	2 1			1	3	2		
ナシ亜科	種子							42 5	6	11		28	22 1	54 156	10	2
ナシ亜科	果実	1					2	6					2	2		
ナシ亜科	幼果							1						1		
センダン	核							3 1					1			
ムクロジ	果実										1					
ムクロジ	種子			1 1												
カキノキ	種子								1					3		
カキノキ属	種子							3								
コナラ属	堅果				4					2	5			2		
コナラ属	幼果						1				3					
コナラ属	殻斗										1					
アカガシ亜属	幼果												1			
アカガシ亜属	殻斗						2				1 2					
ブドウ属	種子						1				3					
エゴノキ	核			1			3				1					
トチノキ	未熟果										1					
草本																
ヒシ	果実										1					
メロン仲間	種子							2	3		1	1		3		
ヒョウタン仲間	種子							13							1	
ヒョウタン仲間	果皮				○											
不明・同定不能							4 2				3					

第９表　平城宮跡出土の植物種実（４）

分類群	部位	大膳職			内裏北外郭				玉手門	馬寮		東院庭園					
		SK219			SK820	SK2102		SK2101	SK1623	SE6166	SE7094	SE16030　枠内					SD16040
		現状	学報									灰色砂粘	暗褐粘土		暗灰粘土	一括	木樋埋土
木本																	
カヤ	種子				1												
ヤマモモ	核															○	
オニグルミ	核	156	1	337	3	1		4	4			1		21			
ヒメグルミ	核	97	1	130				1			1			1			
クルミ類	核		1	224													
ハシバミ	果実		12	34	2												
ハシバミ	堅果							1									
クリ	果皮		1	16	100<		1	65				2	1	13	43		7
ツブラジイ	果皮				13												
シイノキ属	堅果												1				
アンズ	核		19	5													
マンシュウアンズ	核		3														
モウコアンズ	核		2														
ネッカアンズ	核		1														
ウメ	核					2	1						39	18	1		1
モモ	核	1	23	9	1 2	9 7	1	1	4		1	4	41	15	4 1		1
スモモ類	核		4	1			1				2		18	5	3		4
サクラ節	核												5	1			
サクラ属	核												12	5			
ナシ亜科	種子				4								14	4			
ナシ亜科	果実												3				
センダン	核											5 1	1241	68	12 3		
センダン	種子												54	6			
ムベ	種子				10 1								1				
アケビ属	種子												1				
ナツメ	核				7 1											1	
カキノキ	種子			7	1			6				1	3	21			1
マツ属複維管束亜属	球果						2	2									
ヒノキ	球果				1												
イチイガシ	堅果		14	37													
アラカシ	堅果				2												
シラカシ	堅果		19	12													
クヌギorアベマキ	殻斗																3 14
コナラ属	堅果													6			
アカガシ亜属	堅果															1	
アカガシ亜属	殻斗															4	
ムクノキ	核											4	15		10		
クスノキ	種子											2	1		1		
エノキ	核														2		
フジ属	種子		1														
マメ科	種子											1					
サンショウ	種子				4							2 3					
ウルシ属-ヌルデ	内果皮												6		1		
ブドウ属	種子									19		1	10		18 1	2	
チャノキ	種子			1													
クサギ	核												7	1	2		
トチノキ	堅果		8	21													
アオツヅラフジ	核												5		2		
バラ属	核												2				
草本																	
イネ	籾殻				6 7			2									
ハス	果実			4													
ヒシ	果実			1													
ナス属	種子												1				
トウガン	種子												3	1			
メロン仲間	種子		89	31	52 6		9	7				7	4	1	2	11 2	
カラスウリ属	種子														1		
ウリ属	種子		2														
ヒョウタン仲間	果皮				3									○	○		
ウリ科	果実							5									
カガイモ	種子												4				
アブラギリ	種子		11														
イシミカワ	果実												18	10			
ギシギシ属	果実														1 3		
ウナギツカミ	果実															6	
タデ科	果実												13		11 1		
オニバス	種子												1				
スゲ属オニナルコ節	果実															1	
キケマン属	種子											37					
イボクサ	種子												2		2 2		
ヤブジラミ属	果実												8				
ツユクサ	種子												3			10	
不明・同定不能													32		34 1	2	

井戸枠内の出土種実には、ヤマモモ核１点、ウメ核１点、モモ核１点などがあり、コナラ属の堅果もある（第８表）。

SE17505　東西 3.5 m、南北４mの掘方の南半部に寄った位置で、井戸枠の抜取穴とヒノキ材一木刳抜の井筒を検出した。断面観察により、井戸枠などの上部構造の抜取痕跡を確認した。井筒は高さ約 1.8 m、外径約 1.1 ～ 1.3

m、材厚は 10 ～ 20㎝で東西部分で厚く、水平断面は東西に長い倒卵形をしている。井筒の年輪年代は養老７年（723）伐採。材の大きさからみて、転用品とは考えにくい。奈良時代中ごろに掘られ、平安時代初頭に廃絶。

井戸枠内埋土からは、ナシ亜科種子を主体として、モモ核、ウメ核、クリ果皮、コナラ属堅果、ブドウ属種子、メロン仲間種子などが少量出土している。また井筒内の木屑層からも、ナシ亜科種子、モモ核、ウメ核、センダン核、ヒョウタン仲間種子、メロン仲間種子などが出土しており、井戸枠内埋土とほぼ同様の組成を示す（第８表）。

c. 馬寮の井戸

SE6166　馬房と推定した南北棟建物 SB5951 の西南脇にある井戸。掘方は一辺 2.7 mの方形で、深さ 2.5 mあり。ほぼ中央に井戸枠を据える。井戸枠は長さ 1.3 m、成 25㎝、厚さ 2.5㎝の板を蒸籠組したもので、底から 10 段目までが遺存する。井戸枠内堆積土からは、平城宮土器編年Ⅳ～Ⅴ（以下、平城宮○と略す）に属する土器や斎串、曲物などの木製品が出土しており、奈良時代末まで存続したことは確実である。８世紀後半。

出土層位は不明だが、ブドウ属種子が 19 点出土している（第９表）。

SE7094　SB3671 のすぐ東にある井戸である。掘方は一辺 6.8 mの方形で、深さ 1.7 mあり、東北寄りに縦板組の井戸枠が残る。井戸枠は内法で方 90㎝。埋土は大きく２層に分けられ、主として下部の灰砂層からは 10 世紀頃の土器類、上部の黒灰色粘土層からは櫛が出土した。

出土種実は、モモ核１点、ヒメグルミ核１点（破片）、スモモ類核２点（破片）がある（第９表）。

e. 東院の井戸

SE16030　一辺約５mの方形の掘方の中に、幅 20㎝、厚さ 10㎝のヒノキの板材を縦に 20 枚並べて円形の井戸枠を作る。周囲には石敷 SX16036 があり、さらにその周りに SD16031 ～ SD16034 の４本の溝を方形にめぐらせる。井戸は SB16035 の中央にはなく、東南部に偏る。これらの石敷、石組溝は後の整地土で埋められるが、SE16030 は上部に河原石を２段に積んで井戸枠とし、さらに使用が継続する。井戸の掘方からは軒平瓦 6721、井戸構築時の整地土から軒平瓦 6762 が出土した。奈良時代後半に掘られ、平安時代初頭に廃絶。

この井戸の枠内埋土（暗褐粘土）からは多数の種実が出土している。最も多いのはセンダン核で 1241 点（破片 68 点）、次いでセンダン種子 54 点（破片６点）、モモ核 41 点（破片 15 点）、ウメ核 39 点（破片 18 点）などが続く。このほか、スモモ類核 18 点（破片５点）、サクラ属サクラ節核 12 点（破片５点）、ブドウ属種子 10 点、クサギ核７点（破片１点）、オニグルミ核 21 点（全て破片）、カキノキ種子３点（破片は 21 点あり）、メロン仲間種子４点（破片１点）、イシミカワ果実 18 点（破片 10 点）、タデ科果実 13 点、ウルシ属 - ヌルデ内果皮６点など、食用植物を中心としながら雑草類も含む多様な組成を示す（第９表）。

（２）土坑

a. 大膳職土坑

SK219　東西３m、南北 3.5 m、深さ 1.0 mの北半部と、東西３m、南北 2.5 m、深さ 1.0 mの南半部に分かれるが、堆積土に差はなく、同一個体の土器の破片が南北にわかれて出土していることから、南北とも存続、埋没は同時であったと考えられる。土坑内は、埋土と思われる厚さ約 40㎝の遺物を含まない赤褐色粘土の下に、厚さ 20 ～ 30㎝の灰色砂と厚さ約 10㎝の泥土があり、その下が粘土質地山の底となる。遺物として檜皮が灰色砂の上面で、木簡、瓦、土器、漆製品、木製品のほとんどが灰色砂中から、少量が泥土中から検出された。土器が明らかに破損したものであることや、土坑の周囲から投げ込んだことを暗示するように同一個体の破片が土坑底と壁面上部に張り付いた状態で検出されていることなどから判断して、この土坑は一時期の塵芥処理のためのものであったと考えられる。出土した木簡は天平宝字７年（762）を下限とする。

出土種実の数量は豊富である。報文（奈文研 1962）によると、メロン仲間種子 89 点（破片 31 点）をはじめとして、モモ核 23 点（破片９点）、アンズ核 19 点（破片５点）、シラカシ堅果 19 点（破片 12 点）、イチイガシ堅果 14 点（破片 37 点）、ハシバミ果実 12 点（破片 34 点）、アブラギリ種子 11 点、トチノキ堅果８点（破片 21 点）と続く。このほかに、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、アンズ類核（マンシュウアンズ・モウコアンズ・ネッカンアンズ）、カキノキ種子破片、フジ属種子、チャノキ種子、ハス果実、ヒシ果実などが出土している（第９表）。

b. 内裏北外郭土坑

SK820　天平 19 年（747）を下限とする内容豊富な多数の木簡とともに、保存状況のよい多数の土器、瓦、木製品が出土した。土坑の平面はほぼ方形（方 3.8 m）を呈しており、底（方 3.2 m）までの深さは遺構面から 1.7 m（地表から 2.3 m）である。土坑の底には樹葉を主体とする暗緑色土層（厚さ５㎝）が堆積していた。この層には、木簡をはじめとする若干の遺物を含む。この上には、有機質を大量に含む暗褐色土層（厚さ 50㎝）が堆積していた。多

量の遺物は、暗褐色土層の全体にまんべんなく含まれており、土層が短期間に形成されたことを示している。暗褐色土層の上には、土坑の上面まで土坑の上面まで赤褐色土層が厚くつまっていた（115㎝）。この土層には土器、瓦を少量含むが、堆積状況や砂・礫の混在状況からみて、明らかに穴を埋める目的で人為的に投入されたものである。

出土種実は、メロン仲間種子 52 点（破片６点）をはじめとして、ムベ種子 10 点（破片１点）、ナツメ核７点（破片１点）、イネ籾殻６点（破片７点）、サンショウ種子４点と続く。このほか、カヤ種子、オニグルミ核、ハシバミ果実、クリ果皮、モモ核、ナシ亜科種子などが少量出土している（第９表）。

SK2101　平面ほぼ方形（東西 3.5 m、南北 3.4 m）の土坑。深さは遺構面から 35㎝である。土坑内埋土は７層にわかれるが、大きく上下２層に大別できる。すなわち、木簡、木製品、瓦、土器を含む暗褐色土層の上に、遺物を含まない木炭層と灰砂層は覆っており（下層）、穴が埋まりきらずに凹みとして残ったため、ここに土器を捨て、土（黒色砂、暗黄褐色土）で覆ったらしい（上層）。ただし、上下層のそれぞれに含む土器の間には時期的な差異はない。この土坑は、整地土の最上面から掘られており、層位的に見て北３mにある土坑 SK2102 より新しい。木簡の紀年は天平 18 年（748）から天平勝宝２年（749）におよぶ。

出土種実は、メロン仲間９点（破片７点）のほか、ウメ核、モモ核、スモモ類核それぞれ１点ずつある。破片資料として、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、カキノキ種子、イネ頴などがある（第９表）。

SK2102　大土坑 SK2100 の中に掘られた土坑（東西 3.8 m、南北 2.4 m、深さ 0.3 m）である。土坑の底を覆う粘土層（10㎝）には遺物はわずかしかみられなかった。その上に大量の檜皮・木材片からなる有機質（木簡含む）と、粘土塊をまじえた層（20㎝）が堆積していた。この土坑は、南に近接する土坑 SK2101 より古い。木簡には、神亀５・６年（728・729）の紀年をもつものがある。また、木簡の内容には造営関係の記載があり、この地域の造営にかかわるゴミ処理の土坑とみられることから上記の年代をあまり下らずに埋没したものと考えられる。８世紀前半か。

出土種実には、モモ核９点（破片７点）、ウメ核２点、オニグルミ核破片１点がある（第９表）。

c. 玉手門地区土坑

SK1623　玉手門の正面で検出した東西４m、南北 4.6 m、深さ１mの長方形の土坑。土坑内には周囲から投げ込んだ状況で、５層にわたる堆積土が確認された。平安時代の土器が出土している。9 世紀か。

出土種実には、オニグルミ核とモモ核が４点ずつあるが、いずれも破片資料である（第９表）。

d. 東方官衙地区大土坑

SK19189　木屑を主体とする廃棄物の土坑。東西約 11 m、南北約７mの不整形で、深さは約１mである。土坑の堆積層序は、下から①木屑層、②粘性の強いシルトと細砂の混合層、③礫と粗砂の混合層、粗砂の順である。①は大きく３つの単位に分けられ、二度の拡張を経ていると考えられる。②には自然木の堆積が認められ、木質遺物も少量出土しているが、③には土器片や瓦片が多く、木質遺物はごく少ない。②③は土坑のくぼみに形成された堆積で、出土遺物は段階的に投棄されたものだろう。最上層の④は非常にしまりのある褐色土で土坑上面に広がっており、整地土と考えられる。この土坑からは大量の木簡が出土しており、年紀は 770 年代初頭に集中する。

出土種実は、16 層、21 層、22 層に分けて分析されている。いずれも①の木屑層である。16 層では、ナデシコ科種子、チドメグサ属果実、カタバミ属種子などの草本類が多い。少量ながら、ヤマモモ核、イネ頴、メロン仲間種子、エゴマ果実など食用植物も認められる。21 層では、タデ属果実、カタバミ属種子、シソ属果実、サナエタデ果実、ザクロソウ種子などが認められ、イネ頴も 19 点認められる。22 層下では、ザクロソウ種子が多く、ナデシコ科種子、カタバミ属種子、カヤツリグサ科果実、タデ属果実などの草本類が主体である。モモ核も１点認められる（第６表）。

（３）柱穴

a. 第一次大極殿院に関連する建物

東楼 SB7802　南門 SB7801 の東にたつ５間（22.9 m）×３間（11.52 m）の総柱南北棟建物。柱間寸法は桁行 4.58 m（15.5 尺）等間、梁行は 3.84 m（13 尺）等間である。総柱のうち、側柱は掘立柱であり、内部の柱を礎石建てとする。柱掘方は 3.5 m× 2.5 mの長方形を呈し、深さは 2.75 mという超大型である。ハ一柱穴を除いて、漏斗状の柱抜取痕跡がある。イ・ニの柱列は抜取痕跡が連続する。掘方埋土は地山の砂質土であるが、抜取痕跡には、瓦、土器、木器など遺物が比較的多く堆積する。一部の抜取痕跡には、柱根を支えた角材（17㎝角）の断片が２本ずつ残る。またニ四の抜取痕跡には径 75㎝の柱根が倒れており、それには貫穴が２か所あって、１か所には支えの角材をなおとどめている。礎石据付痕跡は、方形掘方（方 2.7 m、深さ 15㎝）の中心にあたる位置に、径１m程度の根固めの礫が散布する状態で残る。SB7802 は、南面築地回廊の中層礫敷の改修時期に増築されたもの。柱抜取痕跡から出土した木簡によって、この建物は天平勝宝５年（752）以後に廃絶したことがわかる。

出土種実には、モモ核７点（破片５点）、ナシ亜科果実破片２点がある（第７表）。

西楼 SB18500　大極殿院の南門 SB7801 の西側、南面築地回廊 SC7820 の北側に取りついて建つ総柱建物。桁行５間、梁行３間の東西棟建物で、側柱のみを掘立柱とし、そのほかの柱を礎石建とする。南門の東側 SB7802 と対応し、ほぼ同じ構造をとる。掘立柱は基本的に東西に長大な抜取穴を有しており、直径が大きい柱を使用していたようである。抜取穴は一方の先が細くなる茄子状の長円形を呈し、南北幅が 3.5 m程度であるのに対して東西幅は６～９mにおよび、隣の抜取穴と連結している。深さは 2.4 ～３mで漏斗状を呈しており、底辺で幅が 70 ～ 90㎝となる。柱掘方は、上半部は抜取穴で破壊されるが、下半部は残存する。柱掘方の規模は一辺 2.5 m～３mの長方形であり、東西に長いものや南北に長いものなどがあって一様ではない。内部の柱の礎石はすべて抜き取られており、ハ列では抜取穴が大きく、据付穴をとどめないが、ロ列では比較的良好な状態で据付穴を確認できる。

掘立柱の抜取穴の埋土は、下半は単位が厚く、その上から細かくなる傾向がある。上半の細かい土層には木製品や木簡を大量に含むものがあり、最初に一気に埋め立てた後、廃棄土坑としても使いつつ、徐々に埋めていった様子がうかがえる。出土木簡の年紀には、天平 19 年（747）から天平勝宝５年（753）のものがある。

植物種実は、そのほとんどが抜取穴から出土した。メロン仲間種子 154 点（破片 58 点）をはじめとして、モモ核 34 点（破片 20 点）、ウメ核 14 点（破片 24 点）、カキノキ種子 12 点（破片６点）と続く。このほかヤマモモ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、センダン核、ナツメ核、マツ属福複維管束亜属球果、コナラ属堅果、ムクノキ核、サンショウ種子、イヌザンショウ種子、バラ属核、バラ属果実、イネ籾殻、トウガン種子、ヒョウタン仲間種子、ゴキヅル種子、サナエタデ果実、カヤツリグサ科果実などがある。また破片資料として、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、ハシバミ堅果、ナシ亜科果実がある（第７表）。

３．排水路・溝状遺構

（１）基幹排水路

西大溝 SD3825（315 次）佐紀池に源を発し、南に流れる排水路。位置はおおむね、平城宮の南面西門である若犬養門と、朱雀門との中間にあたり、宮西部の基幹排水路として機能していたと考えられる。奈良時代前期（Ⅰ期）に開削され、奈良時代末（Ⅱ期）に埋没する。幅 2.6 m～３m、深さ 1.1 mの素掘溝で、堆積土は下から大きく、灰白色砂・暗黒色砂・白斑暗黒色粘土・暗黒色粘土・灰色砂・白色砂の６層に分かれる。暗黒色砂には大量の木屑を含んでいた。暗黒色粘土～白色砂は奈良時代後期（Ⅱ期）の土層である。溝はこの時期に堆積が進み、最後には幅 0.8 m、深さ 0.2 mほどに狭まっている。それも奈良時代末には埋没し、機能が停止している。

出土種実として、メロン仲間種子 46 点（破片１点）、センダン核６点（破片７点）、モモ核４点（破片３点）などがある。

SD3825A　溝幅は最大で 1.8 m残存。Ⅰ - １期に構築され、Ⅰ - ２期に埋め立てられる。奈良時代前半。

出土種実は、メロン仲間種子 46 点のほかは、ナシ亜科種子２点、カキノキ種子１点、オニグルミ核破片１点のみである（第 10 表）。

SD3825B　園池 SG8190 の南東隅の岸に、SD3825A から東に 70㎝ずらして取水口を造る。溝底は取水口付近で、SD3825A よりも約 60㎝高い。埋土は暗褐色粘土で平城宮Ⅳの土器が出土している。Ⅰ - ２期からⅡ期の造営まで存続。奈良時代前半から後半。

出土種実の数量は、A ～ C の中で最も多い。最も多いのはメロン仲間種子で 296 点（破片４点）、次いでセンダン核 60 点（31 点）である。その他の分類群として、オニグルミ核、クリ果皮、ツブラジイ堅果、モモ核、スモモ類核、ナシ亜科種子、マツ属複維管束亜属球果、アラカシ堅果、コナラ亜属堅果、ガマズミ属核、キカラスウリなど多様だが、いずれも３点以下か破片資料である（第 10 表）。

SD3825C　堤 SX18255 の改修とともに、園池 SG8190 から取水口を東に付け替えたもの。埋土は灰色砂もしくは黒色粘土。平城宮Ⅳ～Ⅴの土器を含む。奈良時代末まで開口。

出土種実には、センダン核とメロン仲間種子が多く、それぞれ 124 点（破片 73 点）、77 点（破片３点）ある。このほかにモモ核 11 点（破片８点）、マツ属複維管束亜属６点、アラカシ堅果、カキノキ種子破片２点などがある（第 10 表）。

SD3715　第一次大極殿院と内裏の間を流れる南北溝。これまでの調査（第 41 次・第 157 次）では、北は推定大膳職地区の北端から、南は平城宮南面大垣の南、二条大路北側溝にいたることが確認されている。幅２～６mの素掘溝で、深さは２m。東面築地回廊心より東に約 36.5 mを北から南に流れる。兵部省西側では埋土の状況から３時期の変遷を確認したが、第一次大極殿院周辺では２～３層に区分できるものの、遺物の逆転が見られるため、時期区分は困難である。遺構全体を通して氾濫と浚渫が繰り返されたようである。開削の時期は霊亀年間（715 ～ 720）ご

第 10 表　平城宮跡出土の植物種実（5）

分類群	部位	宮内基幹排水路　SD3825															
		SD3825A				SD3825B				SD3825C						SD3825	
		暗褐粘土		灰白砂		白斑暗黒粘土		暗黒砂		その他		炭混灰粘土		灰褐砂		灰色砂	暗黒粘土		315次	
木本																				
オニグルミ	核				1				1				3							4
クリ	果皮								2											7
シイ属	堅果																		1	2
ツブラジイ	堅果							1	3											1
ウメ	核						5	1												2
モモ	核						2	1	4	3		7	2	1	3		3	3	4	3
スモモ類	核								2											
ナシ亜科	種子			2					11											
センダン	核					58	30	2	1								124	73	6	7
カキノキ	種子			1														2		
マツ属複維管束亜属	球果					1		1						4			2		2	
マツ属複維管束亜属	種鱗																1			
アラカシ	堅果					1	2	1	2								1			
コナラ属	堅果								2									2		
コナラ亜属	幼果						6													
コナラ亜属	堅果							1												
アカガシ亜属	幼果							1												
アカガシ亜属	堅果					1												1		
アカガシ亜属	殻斗							3									2			
ブナ科	堅果						1		1											
ムクノキ	核																			7
ガマズミ属	核							2												
草本																				
メロン仲間	種子	1		45		67		229	4							2	75	3	46	1
キカラスウリ	種子							1												
ヒョウタン仲間	果皮	○																		
不明・同定不能						1	3	1												

分類群	部位	宮内基幹排水路　SD3765・SD3715																					
		SD3765				SD3715(157次)						SD3715(41次)											
		砂		暗灰土		石敷間		灰色粗砂		暗灰砂質粘土		1黒		2黒		1砂		2砂		3砂		暗灰粘土	
木本																							
チョウセンゴヨウ	種子														1								
オニグルミ	核						4		3		7			1	5						4		
ハシバミ	堅果													1									
クリ	果皮								11		13		30		42						49		30
クリ	カット														1						5		
シイノキ属	堅果														4								
アンズ	核													1									
ウメ	核							4			1		1					1					
モモ	核		1			1	2	1		3			5	1	6		1	2	4	2	2	1	
スモモ類	核							1						1				1					
キイチゴ属	核																						
センダン	核													1									
ムベ	種子																			1			
ナツメ	核												2										
カキノキ	種子			1																			2
マツ属複維管束亜属	球果			1																			
草本																							
ヒシ	果実																						1
メロン仲間	種子	2		1	1							2											
ヒョウタン仲間	果皮														○								

ろとみられるが、和同年間までさかのぼりうるとの異論もある。一方、下限は上層埋土に平安時代初頭の土器が含まれていることから、Ⅲ期まで溝として機能していたと考えられる。

植物種実は、第 41 次調査では、モモ核が各層からまんべんなく出土しており、クリ果皮も比較的多い。このほかにチョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ウメ核、スモモ類核、センダン核、ムベ種子、ナツメ核、カキノキ種子などが出土しているが、いずれも 5 点未満か破片資料である。第 157 次調査では、これよりも種類が少なく、オニグルミ核、クリ果皮、モモ核、ウメ核、スモモ類核が出土している。

SD3765　第一次大極殿院地区を南北に流れる素掘りの南北溝（幅 1.6 m～ 2.6 m×深さ 60㎝）。南方で深く、北方で浅い。北限を知ることができないが、南方は中央区朝堂院地区に南下することが判明している。溝の堆積土は、出土木簡により和銅年間には存在していたことがわかる。また、溝の使用期間は短く、一部では粘質土によって西側から短期間に埋め立てている様子を顕著にとどめていた。溝は東面築地回廊 SC5500 の東 14.3 m（48 尺）に位置している。第一次大極殿地域の排水路である暗渠 SD5555 および SD5584 がこの溝に注いでおり、築地回廊建設時に存在し、利用していたことは明らかである。奈良時代前半。

出土種実は、メロン仲間種子 3 点（破片 1 点）、カキノキ種子、マツ属複維管束亜属球果、モモ核破片がそれぞれ

１点ずつある（第 10 表）。

東大溝 SD2700（139 次）　上幅 2.0 m、底幅 0.9 m、深さ 1.4 mの規模で、人頭大の玉石を６～７段積んで護岸とした石組溝。堆積層は、石組の底面から上がさらに５層に分けられ、最下層に養老７～天平４年、下から２層目に神亀３～天平９年、４層目に天平宝字４～６年の紀年木簡が出土しており、最上層からは「天応」銘をもつ墨書土器が出土した。

主に植物種実が出土しているのは、灰砂②層と暗灰粘土層である。前者では、メロン仲間種子 552 点、モモ核 22 点（破片６点）、ナス属種子 21 点（破片 17 点）、キケマン属種子 55 点のほか、チョウセンゴヨウ種子（破片）、ウメ核、ムベ種子、サンショウ内果皮、タデ科果実などが出土している。後者では、モモ核 10 点（破片２点）、カキノキ種子６点（破片３点）、ナス属５点（破片１点）のほか、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ウメ核、スモモ類核、キイチゴ属核、センダン核、ナツメ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、メロン仲間種子、タデ科果実などが出土している（第 11 表）。

東大溝 SD2700（172 次）　東側は異質護岸、西側は素靴のままである。堆積層は大きく６層に分かれる。下から、①層は石積構築前の素掘りの時期にあたり、溝幅は５～６m、深さ 1.6 ～ 1.8 m。②層は素掘り溝の東岸を西に狭めた石積構築以後の堆積で、溝幅は４～５m、深さ 1.2 ～ 1.4 m。③層は瓦を多量に含む土で溝の西半埋め立てて護岸としたもの。これによって溝幅は３～ 3.5 m、深さ１m足らずに縮小。④の堆積により溝埋没。その後、東岸沿いに幅約 0.6 ～ 0.8 m、深さ 0.3 ～ 0.4 mほど掘り込んで細溝に改修し、⑤⑥によって埋没。①からは神亀元年～養老７年、②層からは天平から天平宝字年間、③④層からは天平勝宝～天平宝字年間の木簡。石積構築は天平年間前後、西岸を瓦で護岸したのは天平宝字年間前後、細溝に改修したのは奈良時代末。

植物種実は各層で出土しているが、そのうち灰砂、木屑層、灰褐砂層での出土数量が多い。これらの層に共通して多いのはモモ核で、それぞれ 1139 点（破片 757 点）、466 点（破片 286 点）、2005 点（破片 1185 点）である。そのほかの分類群は各層でばらつきがある。灰砂層では、モモ核に次いでウメ核 174 点（破片 24 点）、ヒメグルミ核 67 点（破片 105 点）、センダン核 40 点（破片 18 点）となり、木屑層では、メロン仲間種子が 466 点（破片 29 点）、ウメ核 52 点（破片７点）、ナス属種子 17 点（破片１点）となる。灰褐砂層では、ウメ核 229 点（破片 48 点）、センダン核 172 点（破片 42 点）、スモモ類 25 点（破片９点）などと続く。このほか、カヤ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ核、クリ果皮、ナシ亜科果実、ナツメ核、カキノキ種子、アキグミ種子、アカマツ球果、スズメウリ種子、カナムグラ種子など多様である。その他の層でも、例えば灰白バラス層では、ナス種子が 254 点出土しているほか、アンズ核も１点ある（第 11 表）。

SD3410　東面大垣 SA4340 の西側を北から流れる宮内基幹排水路。幅６～ 7.8 m、深さ 1.1 ～ 1.3 m。SD3410 にかかる橋状遺構 SX17640 以南では溝西岸が東に寄り、溝幅が狭まる。溝の堆積は上下２層に大別でき、上層の茶灰褐砂質土は平安時代以降の堆積。下層が奈良時代の堆積土で、幅 5.3 m、深さ 0.65 ～ 0.8 m。３～４期に区分できる。堆積土は、おおむね下から灰褐バラス、暗灰粘土、暗灰褐粘質砂、暗灰粘質土、暗灰砂質粘土（白色粒、木屑含む）、白色粒混黒灰粘土（木屑含む）である。この溝は何度も改修を受け、平城遷都当初の堆積は残存しない。溝最下層の年代は、瓦や木簡から奈良時代後半と考えられる。最下層は素掘りだが、後に小礫混茶灰褐粘質土や小礫混灰色粘質土を用いて溝幅を狭め、SX17640 以南では幅 3.4 m、深さ 0.8 m、同以北では幅約４m、深さ約 0.6 mの規模となる。原位置を保つ護岸石を東岸の一部で確認しており、両岸に石積護岸を施したと考えられる。

植物種実は砂礫層から多く出土している。メロン仲間種子が 2342 点と最も多く、トウガン種子 57 点、ウメ核 27 点（破片４点）、センダン核 19 点（破片１点）、ヤマモモ核 14 点と続く。このほか、カヤ種子、オニグルミ核、クリ果皮、ツブラジイ堅果、モモ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科種子、カキノキ種子、アラカシ堅果、コナラ属堅果、サンショウ種子などが出土している（第 12 表）。

SD17650　東面大垣を切り込むかたちとなって開渠で抜け、宮内基幹排水路 SD3410 から東一坊大路西側溝 SD4951 に注ぐ東西溝。水は西から東に流れる。南面大垣へ抜け、二条大路北側溝へ流れる SD3410 の水量軽減のための分水路と考えられ、３時期の変遷がある。SD17650A は当初の素掘溝で、幅 5.5 m、深さ 1.5 m。堆積土から須恵器 B 蓋（平城宮Ⅰ）が出土した。17650A を埋め立て、幅を約 2.9 mに狭めた溝が 17650B で、築地横断部分の北岸で護岸石、南岸で護岸石抜取痕を検出した。

植物種実は、木屑層と砂礫層で多く出土している。数量の多い砂礫層を見ると、メロン仲間種子 477 点、コナラ属堅果 17 点（破片 51 点）、モモ核 12 点（破片４点）、カキノキ種子９点（破片２点）、クリ果皮破片 243 点などと続く。このほか、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ハシバミ堅果、シイノキ属堅果、ウメ核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科果実、アケビ属種子、ナツメ核、マツ属複維管束亜属球果、トウガン種子、オナモミ果実

第 11 表　平城宮跡出土の植物種実（6）

分類群	部位	SD2700（172次）																			
		褐粗砂		青灰粗砂		暗青灰粗砂		黒褐土		黒粘土		灰白砂層		灰白バラス		暗灰白バラス		灰砂		木屑層		灰褐粗砂	
木本																							
カヤ	種子			1											3				6		7		3
ヤマモモ	核																	6				4	
オニグルミ	核		4		7		1				9		1	7	149		1	4	374	5	112	5	137
ヒメグルミ	核													28	26			67	105		20		15
ハシバミ	果実										1							1	10		5	1	6
クリ	果皮				15										5				12		22		9
ツブラジイ	堅果																	1	1		2		
スダジイ	果実			1																			
シイノキ属	堅果																				1		1
アンズ	核														1								
ウメ	核	1		3		2		1		18	4			35	3			174	24	52	7	229	48
モモ	核	33	34	73	45	46	29	25	5	184	121	2	1	755	405	14	6	1139	757	466	286	2005	1185
スモモ類	核									4		1		5				21	1	8	2	25	9
サクラ節	核																					2	1
ナシ亜科	種子													1						1			
ナシ亜科	果実																		4	1			1
センダン	核	1								10	2			3				40	18	8		172	42
ムクロジ	種子																				2		
アケビ属	種子													1									
ナツメ	核			5						1								10		2		7	
グミ属	核																					1	
アキグミ	種子																				10		
アカマツ	球果													1									
マツ属複維管束亜属	球果			1						3				15				3		8	○	6	○
アラカシ	堅果				2									6				1		2	2	2	
シラカシ	堅果																		2				
コナラ属	堅果																			1			
コナラ属	殻斗																				1		
サンショウ	種子														1								
ツバキ	種子			1																			
草本																							
ナス属	種子													254						17	1		
メロン仲間	種子													636	4			15	12	466	29	1	
スズメウリ	種子																			1			
ヤナギタデ	果実													1									
ホタルイ属	果実													3									
カナムグラ	種子																	1					
不明・同定不能																			2		1		

分類群	部位	SD2700（172次）												SD2700（167次）	SD2700（139次）			
		黄灰褐粘土		暗青灰粘土		暗灰粘土		瓦溜		暗渠等		東岸南北細溝		一括		灰砂	灰色粘土	暗褐土	暗褐バラス
木本																			
オニグルミ	核						4		3		9	1	21	2	16				1
ヒメグルミ	核								1			1	3		5				
ハシバミ	堅果														2				
クリ	果皮														10				
ウメ	核					1				1		72	26	15	5				
モモ	核	3	3	3		17	9	13	6	10	3	1048	431	133	101	3	7	4	1	2
スモモ類	核							1				8							
センダン	核											18	3	1					
ナツメ	核													2					
マツ属複維管束亜属	球果							1				1							
草本																			
メロン仲間	種子					2	1												

分類群	部位	SD2700（139次）											
		灰砂		灰砂②		灰褐砂		暗灰粘土		木樋埋土		一括	
木本													
チョウセンゴヨウ	種子		1		8			1					
オニグルミ	核								3		1		4
クリ	果皮		25										
ツブラジイ	果皮								1				
シイノキ属	堅果								1				
ウメ	核			2					2				
モモ	核	8	4	22	6	2	1	10	2		1	9	2
スモモ類	核							1	1				
サクラ属サクラ節	核							2					
キイチゴ属	核							3					
センダン	核			1					2				
ナツメ	核							2					
カキノキ	種子							6	3			1	
クワ属	核							1					
ムベ	種子				1								
サンショウ	種子							1				1	1
サンショウ	内果皮			4									
ブドウ属	種子							1	1				1
ガマズミ属	核												1
草本													
ヒエ属	有ふ果												
ナス属	種子			21	17			5	1			9	4
メロン仲間	種子			552				3	2			1	1
ウリ属	種子							1					
エゴマ	果実												
オオバコ属	種子											23	
タデ属	果実											9	28
タデ科	果実			5					2				
カタバミ属	種子												1
ホタルイ属	果実								1			1	
キケマン属	種子			55									
タカサブロウ	果実												1
不明・同定不能					2			18	2				3

第 12 表　平城宮跡出土の植物種実（7）

分類群	部位	SD3410				SD17650							
		砂礫層		砂礫層 橋付近		木屑層		砂礫層		黒灰土		灰褐砂	しがらみ	
木本														
カヤ	種子		1						3					
チョウセンゴヨウ	種子						1		1					
ヤマモモ	核	14												
オニグルミ	核		4				1		1					
ハシバミ	堅果								2					
クリ	果皮		17				46		243		4			30
ツブラジイ	堅果	5	14		2	8	9						3	10
スダジイ	果実						3							
シイノキ属	堅果							3	14					
ウメ	核	25	3	2	1			1						
モモ	核	4	12		1			12	4					1
スモモ類	核	2	1											
サクラ節	核	2				1				4				
サクラ属	核					1		2						
ナシ亜科	種子	2		1		1		1						
センダン	核	15	1	4										
アケビ属	種子			1		1		6				1		
ナツメ	核			1		4		7	1				1	
カキノキ	種子	1	8	2	2	1		9	2					
マツ属複維管束亜属	球果							1						
アラカシ	堅果	1			3									
コナラ属	堅果	2	4					17	51					
アカガシ亜属	殻斗	1												
マメ科	種子							○						
サンショウ	種子	1												
草本														
ヒシ	果実			1										
トウガン	種子	56		1				1						
メロン仲間	種子	1008		1336		406	3	477		11			112	
ヒョウタン仲間	種子			1			1							
ヒョウタン仲間	果皮			○				○						
オナモミ	果実							1						

などが出土している（第 12 表）。

（2）その他の溝

a. 第一次大極殿院周辺の溝

SD5575　第一次大極殿院東面回廊 SC5500 の東雨落溝。一部でしか痕跡をとどめていない。幅 65㎝、深さ 20㎝の素掘溝。若干の砂を混える黄褐色土が堆積している。奈良時代前半。

出土種実は、メロン仲間種子が 18 点（破片 3 点）あるほかは、クリ果皮やハシバミ堅果の破片資料である（第 13 表）。

SD5505　東から基幹排水路 SD3715 に注ぐ東西溝（幅 2 m、深さ 50㎝）。水流の激しさを示すように合流点が著しく氾濫している。この溝の堆積土から平城宮Ⅲの土器が出土した。奈良時代前半から中ごろ。

出土種実は、クリ果皮とモモ核で、いずれも破片資料である（第 13 表）。

b. 朱雀門周辺

SD1900　朱雀門北南北道路 SF1950 西側溝。時期を違えて A・B が重なっている。A は幅 2.6 ～ 3.0m、深さ 0.6 ～ 0.8m の大規模な溝。砂あるいは砂質土が数層堆積し、調査地域のほぼ全域から多量の土器が出土した。この SD1900A は、朱雀門基壇築成時に断ち切られており、宮造営前の溝（下ツ道）である。造営後、SD1900B として再使用される。7 世紀後半から 8 世紀前半か。

植物種実として、メロン仲間種子が最も多く 65 点出土しており、次いでマツ属複維管束亜属球果 6 点、モモ核 5 点、スモモ類核 1 点と続く（第 13 表）。

c. 造酒司周辺

SD11600　宮内道路 SF11514 の南側溝。現状で約幅 5 m、検出面から深さ約 1 m という大規模な溝。北から SD16742、南から SD16741 が取りつく。埋土より木簡約 2500 点が出土した。木簡の年紀は、延暦元年（782）と 3 年（784）があり、長岡京遷都直前の年紀を示す。

植物種実は多数出土している。各層位のうち最も多く出土した木屑層（木簡含む）からは、メロン仲間種子が 208 点（破片 7 点）と最も多く、以下モモ核 34 点（破片 39 点）、ウメ核 13 点（破片 6 点）、センダン核 12 点、スモモ類核 7 点（破片 2 点）、サクラ属サクラ節 7 点、カキノキ種子 6 点（破片 4 点）と続く。このほか、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、アンズ核、ナシ属果実、ナシ亜科種子、トウガン種子な

第 13 表　平城宮跡出土の植物種実（8）

分類群	部位	第一次大極殿院周辺			造酒司東西道路周辺					朱雀門北南北道路西側溝
		SD5575	SD5505	SD18220	SD11600				SD16742	SD1900
		3 砂	暗灰粘土	灰色砂	小礫混暗	暗灰粘	木屑層	灰褐粗砂	木屑層	
木本										
ヤマモモ	核								1	
オニグルミ	核			3	19	1	35	10	1	
ヒメグルミ	核						25			
ハシバミ	堅果	3	69	5				1		
クリ	果実	1					2			
クリ	果皮						147	11		
クリ	カット						112	43		
ツブラジイ	堅果						2 1			
スダジイ	果実					2		1		
シイノキ属	堅果	17					1 8			
アンズ	核						1 1			
ウメ	核					1	13 6	4		
モモ	核		1	1 1		2	34 39	11 17	1 4	5
スモモ類	核						7 2			1
サクラ節	核					1	7			
ナシ属	果実						1			
ナシ亜科	種子						1			
ナシ亜科	果実			1 1			1			
センダン	核						12	11		
ナツメ	核						5			
カキノキ	種子						6 4	2 2		
マツ属複維管束亜属	球果									1
マツ属複維管束亜属	種子									6
コナラ属	堅果						5	1		
アカガシ亜属	殻斗						1			
ブナ科	堅果						1			
クスノキ	種子						1	1		
サンショウ	種子					1				
草本										
トウガン	種子						2	1		
スイカ	種子									
メロン仲間	種子	18 3		28	2 2	2 2	208 7	19 2	9	
ヒョウタン仲間	種子						1	1		65
ヒョウタン仲間	果皮						○	○		○
不明・同定不能							1 1			

どが出土している（第 13 表）。

SD16742　宮内道路 SF11514 を横切る南北溝。幅約 3.5 ～ 4.5 m。SD16731 と SD16745 が取りつく。奈良時代。植物種実には、メロン仲間種子 9 点、ヤマモモ核 1 点、モモ核 1 点（破片 4 点）、オニグルミ核破片がある（第 13 表）。

Ⅱ　平城京跡出土の植物種実

1．平城京跡植物種実出土遺構の概要

ここで対象とするのは、平城宮を除く平城京跡で出土した資料である。平城宮跡と同様に、豊富な植物資料が得られている。特に、長屋王家木簡や二条大路木簡で著名な平城京左京二条二坊、三条二坊の各遺構出土資料や、西大寺食堂院の井戸出土資料、そして条坊側溝の出土資料は、奈良時代の植物利用の実態を知る良好な資料群である。ただし、その他の資料と同様に、ほとんどの場合細かい目の篩を用いた定量的な分析がおこなわれておらず、小型の種実については情報が欠落している資料も多い点に注意されたい。なお、調査対象遺構の位置は、第 6 図に示した。

2．井戸・土坑

（1）井戸

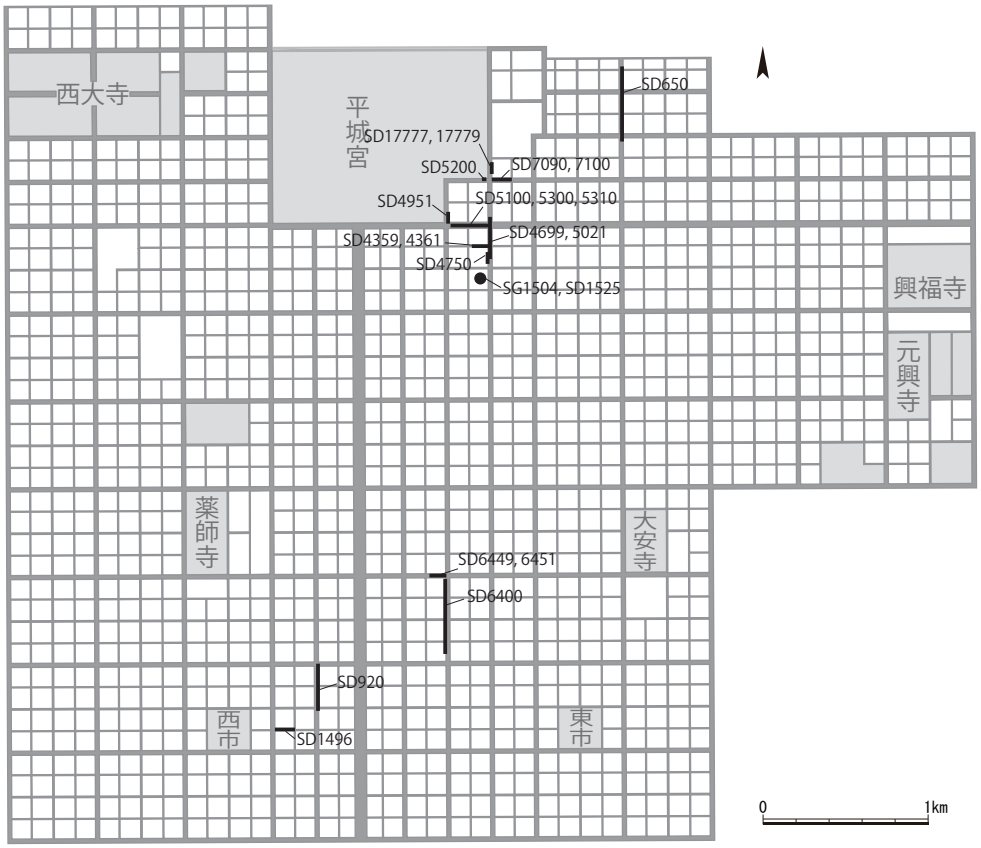
a. 左京二条二坊

189 次 SE40　十四坪。直径 2.4m、深さ 2.8 mの円形の掘方をもつ。井戸枠は円形縦板組で、縦板側面の上部と下部を太枘で固定している。掘方最上層はバラスと砂で固め、さらにその上は一辺 10 尺の正方形の瓦敷きである。井戸枠の埋土は、最下層に水の濾過用の木炭が厚さ 15㎝敷かれる。その中から地鎮具として使用された萬年通寶とガラス玉が出土した。木炭層の直上には「酒」と墨書された奈良時代末期の土器が廃棄される。さらにその上には檜皮、斎串、木簡を含む木屑層と瓦層がある。

出土種実として、モモ核が 10 点（破片 4 点）、ウメ核 1 点、破片資料としてオニグルミ核がある（第 14 表）。

b. 左京三条二坊

SE4116　七坪。敷地の東南隅にある井戸。SE4117 と重なり、これより新しい。掘方の径 2.5 m、深さ 2 m程度で、井戸枠は縦板組である。四隅に角材を立てて、横桟を入れ、一辺に縦板 4 枚程度を立てている。埋土から平城宮Ⅲ～



第８図　平城京における報告対象遺構位置図（上：井戸・土坑　下：溝・溝状遺構）

第 14 表　平城京跡出土の植物種実（1）

分類群	部位	189次・SE40		SE4116		SE4217		SE4225	SE4268		SE4340		SE4365					SE4366		SE4380
		E層	F層	枠内埋土		枠内			下層		最下部	枠内埋土	抜取穴		枠内黒灰粘土	灰色粘土		抜取穴	暗灰粘土	枠内埋土
木本																				
カヤ	種子				2															
オニグルミ	核		1		8			6				1			1					
ヒメグルミ	核																		2	
クリ	堅果																	5		
クリ	果皮				10			14				15								
ウメ	核	1	1		1							1			1					
モモ	核		10	4	45	42	1	1	16	1	1	1	10	2	14	5	1	1	15	6	1	1	4	1
センダン	核																		2					
ナツメ	核				1																			
マツ属複維管束亜属	球果				1	1																		
アラカシ	果実				1																			
草本																				
ヒョウタン仲間	果皮				○																			

分類群	部位	SE4770				SE5140				SE5135		SE5205	
		暗灰粘土		黒灰砂		底		掘方		灰色砂		枠内埋土	
木本													
カヤ	種子		6		4								
チョウセンゴヨウ	種子						1						
オニグルミ	核	2	18		44		8				1		24
ヒメグルミ	核		21		32						1		1
ハシバミ	堅果										1		
クリ	果皮		20		11				2				
クリ	カット								1				
モモ	核	112	22	126	26	12	8	4	1		3	3	
スモモ類	核	8		7									
トチノキ	種子		1										
草本													
ヒョウタン仲間	果皮				○								

分類群	部位	SE930		SE1305		SE1315				SE1335	SE1365		SE1385					SE1530				SE1867		SE1880	
		掘方		最下層		灰黒粘土		掘方		一括	掘方		最下層		灰黒粘土2		底さらい	暗灰粘土		底堆積土		3～4横棧の間		黒灰砂	
木本																									
オニグルミ	核																						1		
ハシバミ	堅果																1								
クリ	果皮				12									12											
アンズ	核																								
ウメ	核																	3	2	1					
モモ	核	1				1		1			1	1			2	2	1	97	83	22	4	12	4	5	6
スモモ類	核																	4							
センダン	核																	1							
草本																									
オナモミ	果実																	20	1						

分類群	部位	SE1550								SE1555				SE1560		SE6432				SE6657				SE491	
		1層		2層		3層		4層		一括	灰黒粘土	下層砂		一括		暗灰砂		掘方		枠内				埋土	
木本																									
ヤマモモ	核																					1			
オニグルミ	核												1				4						4		1
ヒメグルミ	核																1								
クリ	果皮																25						1		
アンズ	核									1															
ウメ	核	1				1				2					3	5	2	1				5	1		
モモ	核	7	44	13	10	29	2	6	18		1	14	7	16	15	168	76	48		1		11	10		3
スモモ類	核	1												2				1				7	5		
ナシ亜科	種子																			1		15			
ナシ亜科	果実																						1		
センダン	核									1						1						4			
ナツメ	核																					2			
カキノキ	種子																					1	2		
マツ属複維管束亜属	球果																							1	22
コナラ属	堅果																						8		
草本																									
トウガン	種子																			1					
メロン仲間	種子																					4	1	100<	
オナモミ	果実																								

Ⅴの土器が出土している。奈良時代末まで存続する。

植物種実では、モモ核が最も多く 45 点（破片 42 点）、ナツメ核、マツ属複維管束亜属球果、アラカシ堅果が 1 点ずつ出土している。このほか破片だが、カヤ種子、オニグルミ核、クリ果皮、ウメ核も出土している（第 14 表）。

SE4217　七坪。西南寄りにある井戸。掘方は検出面で径 2 mのほぼ円形で、井戸枠は曲物を 2 段重ねている。曲物の径は下段が 65㎝、上段が 73㎝、両者の間に楔を入れて止めている。掘方から平城宮Ⅲ、井戸枠内埋土から平城Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実はモモ核が 1 点（破片 1 点）のみである（第 14 表）。

SE4225　七坪。SB4221 のすぐ北にある井戸。掘方は径 1.2 mの円形、深さは 1.4 m。中に曲物を積んだ井戸枠

を置く。曲物は径 45㎝と 50㎝で、高さが 50㎝程度のものを２段重ね、さらに上段の内部に一回り小さく高さ 30㎝の曲物を２段積んでいる。埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代末に廃絶。

出土種実は、モモ核が 16 点（破片１点）のほか、破片資料としてオニグルミ核、クリ果皮がある（第 14 表）。

SE4268　八坪。SB4269 の西にある井戸。掘方の径 2.8 m、深さ 2.1 m。井籠組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺 1.2 m、板の幅は 20 ～ 25㎝、厚さは３㎝前後であり、８段組み上げる。B 期（奈良時代前半）の SB4270 の柱掘方を切っている。掘方から平城宮Ⅲ～Ⅴ期の土器が、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実はモモ核が１点（破片１点）のみである（第 14 表）。

SE4340　七坪。SB4400 の東にある井戸。掘方は検出面で径 1.5 mの円形、0.7 mから下は径 0.65 mで、全体の深さは 1.6 mある。井戸枠は掘方の大きい上部では縦板組、下部は掘方にほぼ沿わせて、曲物を４段に積み上げている。掘方から平城宮Ⅲの可能性がある土器、埋土から平城宮Ⅳの土器や硯が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として、井戸枠内埋土からモモ核 14 点（破片５点）、ウメ核１点のほか、破片資料として、クリ果皮、オニグルミ核がある。また井戸最下部から、モモ核 10 点（破片２点）が出土している（第 14 表）。

SE4365　七坪。SE4185 の東北にある井戸。掘方は径 1.9 m、深さ 1.8 m。井戸枠は一辺 70㎝程度の縦板組。四隅に角材を入れ、横桟で繋いで、縦板を打ち込む構造であるが、崩壊が著しい。掘方から斎串や小型素文鏡、平城Ⅲの土器、埋土から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代後半。

出土種実として、枠内埋土からモモ核 15 点（破片６点）、センダン核２点、ウメ核１点がある。また破片資料として、オニグルミ核が認められる。なお、抜取穴からもモモ核１点（破片１点）が出土している（第 14 表）。

SE4366　七坪。内郭東辺塀の東方にある井戸。掘方は底で約 1.5 m角のほぼ正方形で、深さが 1.7 m。底面に礫を敷き、横板組の井戸枠を入れる。井戸枠は、長さ 110㎝、幅 60㎝、厚さ 4.5㎝の板４枚を井籠組に組んで正方形にしたもの。井戸枠は最下段のみが残り、それより上は抜き取られている。抜取穴は東西 2.7 m、南北３m、深さ１mと、掘方よりも大きい。A 期。井戸枠の抜取穴から、平城宮Ⅱに属する猿の絵を描いた土師器が出土している。奈良時代前半。

植物種実には、暗灰粘土から出土したモモ核４点、ヒメグルミ核の破片がある。また抜取穴からモモ核１点、クリ果皮の破片が出土している（第 14 表）。

SE4380　七坪。SE4365 の北にある井戸。掘方は上部では、径 1.75 mの隅丸方形であるが、20 ～ 30㎝の深さで井戸枠ぎりぎりの大きさに狭める。深さは 1.3 mある。井戸枠は縦板組で四隅に角柱を打ち込み、横桟を３段入れ、桟の間隔より若干長い縦板４～５枚を桟の位置で重ねながら組み上げている。井戸埋土から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。掘方は SD4165 を切って掘り込んでいる。奈良時代後半。

植物種実として、井戸枠内埋土からモモ核が１点のみが出土している（第 14 表）。

SE4770　八坪。内郭の塀の東北隅から約 25 m東北にある井戸。東西 2.2 m、南北２mの隅丸方形で、深さは 1.8 m。井戸枠は抜き取られて、層状に埋土が堆積している。その中ほどに木屑層があり、そこから「長屋皇宮」「若翁帳内」などと記した木簡 226 点が出土した。木簡の紀年より養老元年（717）をさほど降らぬ頃に廃絶したと考えられる。

出土種実は、周辺の他の井戸と比較して豊富である。埋土である暗灰粘土と黒灰砂の出土数量を合わせると、最も多く出土しているのはモモ核で 238 点（破片 48 点）、次いでスモモ類核 15 点となる。またオニグルミ核が２点（破片 62 点）、破片資料だが、カヤ種子、ヒメグルミ核、クリ果皮、トチノキ種子が出土している（第 14 表）。

SE5135　一坪。SB5050 の西南にある井戸。掘方は 1.9 mのほぼ円形で、深さ 1.9 m。中に縦板組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺約 1.1 mで、四隅に角材を立て、横桟２段を入れて外に縦板を置く。掘方から平城宮Ⅲ新、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実は、井戸底からモモ核 12 点（破片８点）のほか、破片資料としてチョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核がある。また、掘方からモモ核４点（破片１点）、クリ果皮が出土している（第 14 表）。

SE5140　一坪。SB5050 の西南にある井戸。掘方は径 1.9 mのほぼ円形で、深さ 1.9 m。中に縦板組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺約 1.1 mで、四隅に角材を立て、横桟２段を入れて外に縦板を置く。掘方から平城宮Ⅲ新の、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実には、いずれも破片だが、モモ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果がある（第 14 表）。

SE5205　八坪。東端にある井戸。掘方は径 2.5 m、深さ 2.2 m縦板組の井戸枠をもつ。井戸枠は一辺 80㎝、四隅に 10 ～ 15㎝角の角材を立て、60 ～ 75㎝間隔で横桟を入れた縦板３枚ずつを立てる。埋土から平城宮Ⅴの土器が

出土している。奈良時代末に廃絶。

出土遺物として、井戸枠内埋土からモモ核３点のほか、破片資料としてオニグルミ核、ヒメグルミ核がある（第14表）。

c. 左京七条一坊

SE6432　十六坪北東部の井戸。西側溝西岸の西 12.5 m、北築地雨落溝から 46.5 mにある。SB6536 から東へ 22 m、SD6430 の延長線から北へ６mに位置する。掘方は直径４m、深さ 1.6 mで、一辺 84㎝の縦板組の井戸枠が残る。掘方から平城宮Ⅱ、枠内から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土。奈良時代前半につくられ、中ごろに廃絶。

井戸枠内埋土から、モモ核、ナシ亜科種子、トウガン種子が１点ずつ出土した。また、掘方からも、モモ核 48 点のほか、ウメ核とスモモ類核が１点ずつ出土している（第 14 表）。

SE6561　十六坪南西部の井戸。SA6541 から西へ９m、北小路北側溝から 16.5 mに位置する。掘方は南北 2.7 m、東西 3.0 m、残存深さ 2.0 mである。ヒノキの刳抜井戸枠が残り、直径 80㎝、残存長 183㎝、厚さ３～４㎝。井戸底は自然木を含む灰色砂、裏込土は灰緑色粘混灰白色砂である。裏込から平城宮Ⅴ、井戸枠から平城宮Ⅴ～Ⅶの土器が出土した。奈良時代末に掘られ、平安時代初頭に廃絶。

植物種実として、枠内下層埋土から、ツバキ属種子２点（破片１点）とヤブツバキ幼果１点が出土した（第 14 表）。

SE6657　十六坪北西部の井戸。北面築地南雨落溝想定位置から 10 m、東小路東側溝から 18 mに位置する。SB6645 から北に 18.5 m（60 尺）離れる。掘方は東西 2.5 m、南北 2.4 m、残存深 2.7 mである。縦板、木箱、曲物を組み合わせた井戸枠が残る。最下部は底板を抜いた曲物で、径 55㎝、高さ 42㎝、厚さ 0.5㎝である。この上に一辺 60㎝、高さ 40㎝の方形の木製桝を底板を抜いて載せている。最上部は平面が正方形の縦板組で一辺 65㎝、残存高さ 1.6 m。井戸枠内埋土から平城宮Ⅳ～Ⅴの土器、井戸抜取穴から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代末に掘られ、平安時代初めに廃絶。

出土種実には、ナシ亜科種子 15 点、モモ核 11 点（破片 10 点）、スモモ類核７点（破片５点）、ウメ核５点（破片１点）、メロン仲間種子４点（破片１点）、センダン核４点のほか、ナツメ核、カキノキ種子、ヤマモモ核がある。また、破片資料として、オニグルミ核、クリ果皮、コナラ属堅果が出土した（第 14 表）。

d. 右京八条一坊

SE1305　十三坪の東南隅に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土最下層から、クリ果皮（破片）が 12 点出土している（第 14 表）。

SE1315　十三坪の西南隅に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土（灰黒粘土）および掘方から、モモ核が１点ずつ出土している（第 14 表）。

SE1335　十三坪の西辺南方に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

モモ核（破片）が１点出土している（第 14 表）。

SE1365　十三坪の中央南寄りに位置する井戸。井戸枠内から平城宮Ⅳ～Ⅴの土器が出土した。井戸屋形 SB1364 をもつ。奈良時代末に廃絶。

掘方からモモ核１点（破片１点）が出土している（第 14 表）。

SE1385　十三坪の中央西寄りに位置する。東西塀 SA1371 のすぐ北にあり、十三坪の西半を南北に二分する線上にある井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土からモモ核２点（破片２点）、クリ果皮の破片が、井戸底からモモ核１点、ハシバミ核１点が出土している（第 14 表）。

SE1530　十四坪の東南隅に位置する井戸。SA1537 のすぐ北にあたる。敷地が 1/32 町とすると、宅地の東南隅に位置することになる。SE1530 はⅠ・Ⅱ期の築地の位置にあたり、築地が完全に崩壊し、代わりに SA1527 が建てられたときに掘られたと考えられる。井戸掘方から平城宮Ⅰ～Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実には、埋土にモモ核 97 点（破片は 83 点）、オナモミ果実 20 点（破片１点）、スモモ類核４点、ウメ核３点（破片２点）、センダン核１点があり、井戸底の堆積土からは、モモ核 22 点（破片４点）、ウメ核１点が出土した（第 14 表）。

SE1550　十四坪の西南に位置する井戸。SA1548 のすぐ北にあたり、SA1548 より西の区画の東南隅に近い位置

にある。井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代末に廃絶。

埋土が１層から４層に分けられている。いずれの層からもモモ核が最も多く出土しており、３層では 29 点（破片２点）、４層からは６点（破片 18 点）が出土している。また、１・３層からはウメ核が１点ずつ、１層からはスモモ類核も１点出土している。このほか、一括資料だが、アンズ核、センダン核も出土している（第 14 表）。

SE1555　十四坪南区の東北に位置する井戸。SA1556 のすぐ南にあたる。敷地が 1/32 町とすると、宅地の東南隅に位置することになる。井戸掘方から平城宮Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として、埋土からモモ核 15 点（破片７点）、オニグルミ核の破片が出土している。また一括資料にスモモ類核やウメ核の破片がある（第 14 表）。

SE1560　十四坪南区の東南隅に位置する井戸。敷地が 1/16 町とすると、宅地の東北隅にあたる。井戸掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として最も多いのは、モモ核 168 点（破片 76 点）で、他を圧倒している。このほかウメ核５点（破片２点）、センダン核１点のほか、破片資料として、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮がある（第 14 表）。

SE1867　十四坪北区の中央に位置する井戸。井戸枠内から平城宮Ⅰ～Ⅲの土器。奈良時代中ごろに廃絶か。

植物種実として、井戸枠の横桟の間からモモ核 12 点（破片４点）とオニグルミ核の破片が出土している（第 14 表）。

SE1880　十四坪北区の中央西寄りに位置する井戸。まわりを大規模な土坑群に囲まれる。掘方が南の SE1870 と重複するが、重複関係から SE1880 のほうが新しい。掘方から平城宮Ⅰ～Ⅲの土器。奈良時代中ごろに廃絶か。

植物種実として、埋土からモモ核５点（破片６点）が出土している（第 14 表）。

f. 西隆寺の井戸

SE491　当初、横板の、いわゆる蒸籠組と呼ばれる構造の井戸（A）を、後に内側に縦板組を添え立てて改修している(B)。掘方は一辺 3.6 m前後の隅丸方形。深さは検出面から 2.4 mである。若干の木製品および延喜通寶の他に、埋土からは多量の土器が出土した。９世紀後半代の緑釉陶器片を含む。抜取穴と井戸底の土器類はほぼ同時期のもので、延喜通寶の年代よりもさらに新しい。

植物種実として、埋土からメロン仲間種子が 100 点以上出土しているほか、ウメ核１点、マツ属複維管束亜属１点（破片 22 点）、破片資料としてオニグルミ核、モモ核が出土している（第 14 表）。

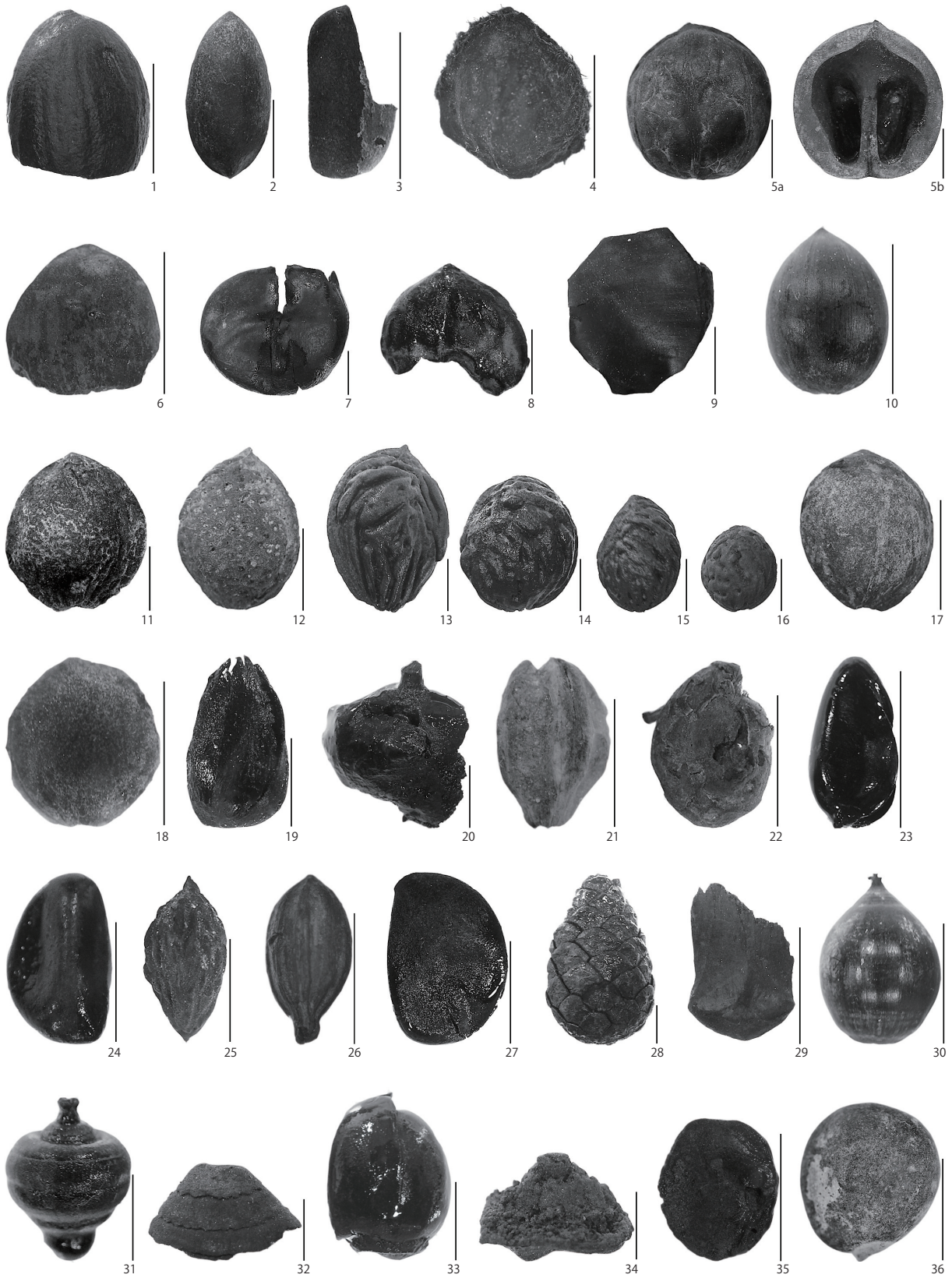
e. 西大寺食堂院の井戸

SE950　井籠組の井戸。井戸の平面は方形で、内法は一辺約 2.3 m。遺構検出面からの深さは約 2.8 m。井戸枠は横板材５段分が残存し、上部は抜き取られていたが、井戸の内部から井戸枠と見られる木材が出土しており、６段以上存在したとみられる。井戸底に浄水用として直径３㎝前後の円礫を敷き詰め、その上に木炭を敷く。掘方は東西に長い楕円形で、大きさは南北約 5.4 m、東西約 6.6 mである。井戸本体は掘方西寄りに設置されており、底部は井戸枠が収まる程度の幅しかない。掘方の埋土は粘質土で、最上部は黄色土を層状に固め、丁寧に埋められている。井戸内の遺物は、上から a から e までの５層に分けて取り上げた e 層は灰色の粘質土で、瓦を含むが比較的遺物が少ない。D 層は多量の遺物を含み、木屑層とともに互層をなす。木簡の大半はここから出土した。c、b、a 層と徐々に埋土のしまりが良くなり、木質遺物の量が減り土器の割合が増える。以上より、井戸は、廃絶後食堂院で不要となったゴミを投棄することによって、上部まで埋まったとみられる。なお、a 層上面には焼けた痕跡が認められた。また e 層上面に井戸枠とみられる部材が落ち込んでいたことから、不要物の投棄が始まるころに井戸枠が抜き取られていたと考えられる。投棄の開始から終了までの時間は、b から d 層まで珪藻類が検出されているため、数週間程度要したと考えられる。埋土の遺物は、奈良時代末を下限とし、最新の年紀である延暦 11 年（792）からほどなく、８世紀末に廃絶したと考えられる。

京内の井戸のうち、植物種実が最も豊富に得られた井戸である。回収された植物種実は 83 分類群、10 万点以上におよぶ。種実写真は第９・10 図に示した。井戸枠内埋土最下層の e 層からは、メロン仲間種子が 2982 点（破片 16 点）と最も多く出土している。このほかトウガン種子が 798 点（破片 13 点）、モモ核 129 点（破片 101 点）、ネズミモチ核 117 点、ナシ亜科種子 91 点（破片 19 点）、カキノキ種子 61 点（破片 96 点）、ウメ核 35 点（破片 60 点）と続く。e 層の上層、d 層からは埋土中最多の種実が回収されている。最も多いのは、メロン仲間種子で 77890 点（破片 26 点）、次いでトウガン種子 8027 点（破片 72 点）、カキノキ種子 1616 点（破片 918 点）、モモ核 1324 点（破片 833 点）、ナツメ核 814 点（破片 88 点）、ナシ亜科種子 588 点（破片 38 点）と続く。このように他層と比べると桁違いに数が多い。このほか木本植物として、カヤ種子、イヌガヤ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、シイノキ属堅果、アンズ核、サクラ属サクラ節核、センダン核、アケビ

第 15 表　平城京跡出土の植物種実（2）

分類群	部位	井戸SE950 枠内														SE950			
		a		b		b②		c		d		e		レキ層		一括		掘方		撹乱	
木本																					
カヤ	種子							1			26	1	16								
イヌガヤ	種子									1											
チョウセンゴヨウ	種子								1												
ヤマモモ	核			1	2	6		42		320	6	7	1			8	3			3	
オニグルミ	核		5	4	104	1	14		41	16	510	17	27		4		36				13
ハシバミ	堅果									1											
クリ	炭化子葉			2																	
クリ	六角皮						3	11	43	119	700<		13				21				
クリ	果皮		5	3	250<		200<	86	1900<	55	7800<	32	1200<		35	1	700<				300<
クリ	カット果皮															1					
ツブラジイ	堅果							2	11	17	18	2	4							4	1
ツブラジイ	子葉										1										
シイノキ属	堅果						1	6	150	280	743	5	67	2		3	19			1	6
アンズ	核		1					1		26		4				3				1	
アンズ	幼果									1											
ウメ	核			5	2	2	1	17	13	166	104	35	60	1		24	13				
モモ	核	9	16	43	69	10	25	92	128	1324	833	129	101	6	4	72	41		4	15	15
スモモ類	核			2		2		11	2	285	15	18				27	9				
サクラ節	核			1					4	4	4	4				2					
サクラ属	核									157	1	5				1				1	
ナシ亜科	種子							34	9	586	38	91	19			42	13			3	1
ナシ亜科	果実								2	3	5	1	2			1					
センダン	核				3			2	6	5	6	8	1			1					
ムクロジ	果実										1										
アケビ属	種子									83	3										
ムベ	種子							18	2	59	9	2									
ミツバアケビ	種子																				
ナツメ	核			3		15		56	5	814	88	29	5			36	6			16	1
ナツメ	幼果											1									
グミ属	核							2													
グミ属	種子									11	1	1									
アキグミ	種子									7											
ツルグミ	種子									1											
カキノキ	種子			10		1	1	106	87	1616	918	61	96			112	20			11	5
カキノキ属	種子			2		1	1			4							1				
カキノキ属	果実																				
マツ属複維管束亜属	球果							2		7	3	1		1		2					
マツ属複維管束亜属	種鱗									6	8										
アラカシ	堅果									4	2	1	8								
シラカシ	堅果									13	13	2	1			1					
アカガシ	殻斗															1					
ナラガシワ	堅果											2	2								
コナラ属	堅果						1			1	2		1								
コナラ属	炭化子葉										6	1									
コナラ属	幼果									1				1							
コナラ属	殻斗							1		20	2	3				2				1	
アカガシ亜属	幼果											1									
アカガシ亜属	堅果									10	12	1	4								
ムクノキ	核			1				1		8		1	5							2	
コブシ	種子															1					
クスノキ	種子									2		8				1					
フジ属	果実									381											
マメ科	種子									19	4										
サンショウ	種子					3		41		184	5	15				10					
ノブドウ	種子							6		1											
ブドウ属	種子							13		17		5				1					
ツバキ	種子									1											
ツバキ属	果実										1						2				
エゴノキ	核																	2			
エゴノキ	種子										2	3	1	1							
クマノミズキ	核							1													
クサギ	種子									1		2	2								
クサギ	核											1				1					
ガマズミ属	核							1		9						1					
ネズミモチ	核											117		1							
草本																					
イネ	籾殻									2											
イネ	炭化種子							1													
オオムギ	炭化種子					1		2	1												
コムギ	炭化種子					1		3		2											
ヒシ	果実										10										
ナス属	種子			1				192		473	1	2				20	3				
トウガン	種子	101	18	911		29		618	42	8027	72	798	13	4	1	652	3			165	1
メロン仲間	種子	14		349		262		4576	44	77892	26	2982	16	4	2	5966	13		3	254	3
スイカ	種子																1				
ウリ属	種子									2											
ヒョウタン仲間	種子					2		2	1	265	8	21	5								
ヒョウタン仲間	果皮								○		○		○				○				
ゴキヅル	種子									1											



スケール　10㎜：1-3,5-17,20-23,25-30,33,35　5㎜：4,48,19,24,31-33,34,36

1．カヤ種子、2．イヌガヤ種子、3．チョウセンゴヨウ種子、4．ヤマモモ核、5．オニグルミ核、6．ハシバミ堅果、7．クリ果実、8．クリ炭化子葉、9．クリ果皮（六角加工）10．ツブラジイ堅果、11．アンズ核、12．ウメ核、13-16．モモ核、17．スモモ核、18．サクラ属、19．ナシ亜科種子、20．ナシ亜科果実、21．センダン核、22．ムクロジ核、23．ムベ種子、24．アケビ種子、25．ナツメ核、26．グミ属種子、27．カキノキ種子、28．マツ属球果、29．マツ属種鱗、30．アカガシ亜属堅果、31．アカガシ亜属幼果、32．アカガシ亜属殻斗、33．コナラ属堅果、34．コナラ属殻斗、35．コナラ属炭化子葉、36．ムクノキ核

第９図　西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体（１）

スケール　10㎜：40,45,55,57,59,66,72　5㎜：37,47,49,51,53,54,58,60-65,69　1㎜：38,39,41-44,46,48,50,52,56,67,68,70,71

37. コブシ種子、38. クスノキ種子、39. エンドウ属炭化種子、40. マメ科果皮、41. サンショウ種子、42. アカメガシワ種子、43. ブドウ属種子、44. ノブドウ種子、45. ツバキ属果皮、46. クマノミズキ核、47. エゴノキ種子、48. クサギ核、49. ガマズミ属核、50. モチノキ属果実、51. イネ穎果、52. イネ炭化種子、53. オオムギ炭化種子、54. コムギ炭化種子、55. ヒシ果実、56. ナス属種子、57. トウガン種子、58. スイカ種子、59. ヒョウタン種子、60. メロン仲間種子（モモルディカ型）、61. メロン仲間種子（マクワ・シロウリ型）、62. ウリ属種子、63. ゴキズル種子、64. アズキ亜属炭化種子、65. ダイズ属炭化種子、66. オナモミ果実、67. アサ核、68. ミクリ属核、69. ソバ果実、70. カナムグラ種子、71. コウホネ種子、72. トウゴマ種子

第 10 図　西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体（2）

第 16 表　平城京跡出土の植物種実（3）

分類群	部位	井戸SE950 枠内														SE950		
		a		b	b②		c		d		e	レキ層		一括		掘方	撹乱	
アズキ	種子						1		2									
アズキ亜属	炭化種子						2		4	2				2			1	
ヤブツルアズキ	種子								2		1							
ダイズ属	炭化種子				1				1									
エンドウ属	炭化種子								1									
トウゴマ	種子						1											
ソバ	種子						7		4									
タデ科	果実						1											
コウホネ	種子						1		11									
オナモミ	果実			2	5	2	19	2	28	3	1			1			1	
アサ	核				3		2	2		1								
カナムグラ	種子	1	14								2							
マツモ	種子								33									
不明・同定不能				1	4	4	15	13	125	78	15	7	5	14			16	1

属種子、ムベ種子、グミ属種子、アキグミ種子、コブシ種子、マメ科種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ガマズミ属種子など、草本植物としてイネ籾殻、コムギ炭化種子、ナス属種子、ヒョウタン仲間種子、アズキ種子、ササゲ属アズキ亜属種子、ダイズ属炭化種子、エンドウ属炭化種子、コウホネ種子、ソバ種子、オナモミ果実などが出土している。c 層から上層は、出土種実の数が比較的少なくなるが、c 層ではメロン仲間種子が 4576 点（破片 44 点）と依然多い。また c 層では、他層ではほとんど認められないチョウセンゴヨウ種子やノブドウ種子、オオムギ炭化種子、トウゴマ種子、アサ核が少量であるが認められる。また一括資料ではあるものの、スイカ種子も出土している。このように枠内埋土からは多種多様な植物種実が出土しているが、掘方からは、エゴノキ核が 2 点、モモ核とメロン仲間種子の破片が出土しているのみである（第 15・16 表）。

第 17 表　平城京跡出土の植物種実（4）

分類群	部位	檜皮土坑 SK7699		埋甕遺構SX7686 上層		埋甕遺構SX7686 下層		SX6530 祭祀土坑		SK6577
木本										
ヤマモモ	核	1				1				
ハシバミ	堅果		1							
クリ	果皮						4			
ウメ	核			3	4					2
スモモ類	核	1					1			
ナシ亜科	種子					6	5			
センダン	核			2	2					
ナツメ	核					9				
カキノキ属	種子					1				
グミ属	種子			1	2	3	1			
マツ属複維管束亜属	球果	1		2	3					
マツ属	種子			14						
イチイガシ	幼果			1						
コナラ属	堅果	1								
アカガシ亜属	堅果						1			
クスノキ	種子	1								
サンショウ	種子					2				
ガマズミ属	核	1								
バラ属	核				1					
アカメガシワ	果実			2	1					
カエデ属	種子			1						
草本										
ヒエ	有ふ果					1				
スズメノヒエ	有ふ果			3						
ヒシ	果実				1					
ナス属	種子			61						
メロン仲間	種子			12	6	65	30		2	
シソ属	果実			3						
ヤナギタデ	果実			2						
イヌタデ	果実				2					
ギシギシ属	果実				1	6				
タデ科	果実					226	5			
コウホネ	種子			3						
キケマン属	種子			1						
アリノトウグサ	種子			1						
カヤツリグサ属	果実			14						
カワラスガナ	果実			2						
ヒメクグ	果実			1						
ハリイ属	果実			1		1				
キンポウゲ属	果実			1		1				
エノキグサ属	種子			7						
ヒルムシロ属	核			9		2				
ミクリ属	核			36						
マツモ	種子					3				
不明・同定不能		2		○	○	○	○			

（2）土坑

a. 阿弥陀浄土院（左京二条二坊十坪）

SK7699　埋土中に夥しい量の檜皮つまる檜皮土坑。奈良時代。

出土種実には、ヤマモモ核、スモモ類核、マツ属複維管束亜属球果、コナラ属堅果、クスノキ種子、ガマズミ属種子がそれぞれ 1 点ずつあり、破片資料としてハシバミ堅果がある（第 17 表）。

SX7686　埋甕遺構。地山を掘り込んで須恵器の大甕を埋めたもので、下半部のみが残存。調査区内にかかるのは北半部のみ。甕の径は約 1.0 m で据付掘方の径は約 1.2 m。層序から池 SG7700 と並存すると考えられる。奈良時代後半か。

植物種実は上下層で区別されて回収されている。上層からは、ナス属種子 61 点、ミクリ属核 36 点、マツ属種子 14 点、カヤツリグサ属 14 点、メロン仲間種子 12 点（破片 6 点）、ウメ核 3 点（破片 4 点）、センダン核 2 点（破片 2 点）、アカメガシワ果実 2 点（破片 1 点）、グミ属種子 1 点（破片 2 点）などが出土している。このほか他の遺跡には認められない、カワラスガナ果実、ヒメクグ果実、ハリイ属果実などの草本類が出土している。下層からは、タデ科果実 226 点（破片 5 点）、メロン仲間種子 65 点（破片 30 点）のほか、ナツメ核 9 点、ナシ亜科種子 6 点（破片 5 点）、グミ属種子 3 点（破片 1 点）、サンショウ種子 2 点などが出土している（第 17 表）。

b. 左京七条一坊

SX6530　七条々間北小路南側溝 SD6471 の溝底で検出した祭祀土坑。小路の交差点から東に 10 ～ 16 mにあり、東西 6.2 m、側溝の底から 50㎝掘り込む。西端から 2 m付近に馬上顎骨 2 点、下顎骨 1 点、脚部骨、3.2 m付近に土師器甕、1.4 m付近に人面墨書土器 1 点、馬上顎骨 1 点、4.8 m付近に須恵器壷、坏などが出土した。土器は平城宮Ⅱに属す。奈良時代前半。

出土種実には、メロン仲間種子の破片 2 点がある（第 17 表）。

SK6577　十六坪南西部の不整形土坑。坪東西二等分線の西 24 ～ 30 m、北小路北側溝から 18 mに位置する。南北 4.5 m、東西 6.4 mで、出土土器は平城宮Ⅲ新～Ⅳ。奈良時代後半。

出土種実には、モモ核の破片 2 点がある（第 17 表）。

3．溝状遺構・条坊側溝

（1）溝状遺構

a. 左京三条二坊

SD4750　左京三条二坊敷地内の中ほど、東辺築地際にある南北に延びる溝状遺構。長さ 23 m、幅 3 m、深さ 0.6 m前後で、水が流れた痕跡はなく、塵芥を捨てた土坑と見られる。溝埋土は大きく 4 層に分かれる。下半部には多量の木簡を含んだ層があり、「長屋王家木簡」と称している 35,000 点にのぼる木簡が出土した。この木簡の年紀は和銅 4 年（711）から霊亀 2 年（716）の間に収まり、霊亀 2 年をさほど下らぬ頃に投棄され、埋められたと考えられる。

出土種実は木屑層から多量に出土した。最も多いのはモモ核 2350 点（破片は 1046 点）で、他を圧倒する。次いで、オニグルミ核 74 点（破片は 8180 点）、スモモ類 34 点（破片 5 点）、ナツメ核 26 点（破片 1 点）、メロン仲間 22 点（破片 4 点）と続く。このほかにも、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ウメ核、サクラ属サクラ節、アラカシ堅果、シラカシ堅果、トウガン種子などがみられる（第 19 表）。

b. 左京二条大路濠状遺構

SD5100・SD5300・5310　二条大路南北濠状遺構。SD5100 は、二条大路路面上に南側溝に接して掘られた素掘溝。断面逆台形で幅 2.6 ～ 3.5 m、深さ 0.9 ～ 1.2 mであり、東二坊々間路西側溝西肩の西 1.2 mのところから始まり、西に一坪分 120 m延びる。SD5300・5310 は二条大路路面上に北側溝に接して掘られた素掘溝。断面逆台形で幅 2.0 ～ 2.7 m、深さ 1.0 ～ 1.3 mであり、SD5300 の東端は東二坊々間路西側溝西肩の西 0.8 mのところから始まり、西に 56 mつづき二条二坊五坪南門の手前 5 mで終わる。SD5310 は同じ南門の西 4 mから再び始まる。堆積は両者とも 4 層に分かれる。SD5100 の土層は、上から暗灰褐色砂質土層、炭層、木屑層、暗灰色粘土（黒色砂）層、SD5300 の土層は、上から黄褐色粘土混暗灰色粘質土層、炭・砂混暗灰色粘質土層（炭層）、木屑層、黄褐色砂質土混青灰色シルト土層である。最上層は人為的な埋立土であり、土器や瓦を含むが、下 3 層とりわけ木屑層からは大量の木簡、土器、瓦、木製品等が出土した。下 3 層の年代は恭仁宮遷都（740）以前に限定される期間になる。

平城宮・京内で、多くの植物種実資料がある遺構群である。その中でも SD5100 木屑層からは、非常に多くの種実が出土している（巻頭図版 2 ～ 4）。この中で最も多いのは、メロン仲間種子で、40,000 点以上（実数は報告済みのため計数行わず）、以下モモ核 3511 点（破片 2650 点）、ウメ核 2278 点（557 点）、ナツメ核 2047 点（破片 83 点）、ヤマモモ核 869 点（破片 99 点）、スモモ類核 673 点（破片 61 点）、ハシバミ堅果 437 点（破片 1628 点）、クリ果皮 420 点（破片 8500 点以上）、マツ属複維管束亜属球果 318 点（破片 500 点以上）、トウガン種子 303 点（破片 3 点）、カキノキ種子 302 点（破片 704 点）と続く。文字通り、他の遺構とは桁違いの量である。このほかに木本類として、カヤ種子、イヌガヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、アンズ核、ナシ亜科種子、ナシ亜科果実、センダン核、ムクロジ種子、アケビ属種子、グミ属種子、イチイガシ堅果、アラカシ堅果、シラカシ堅果、アカガシ亜属堅果、ムクノキ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、ツバキ属種子、エゴノキ核、クサギ核など、草本類として、イネ頴、コムギ炭化種子、オオムギ炭化種子、ヒシ果実、ナス属種子、キカラスウリ種子、ミクリ属核、ヤナギタデ果実、ハコベ属種子、オニバス種子などが出土している（第 18・19 表）。

SD5300 木屑層からも、SD5100 ほどではないが豊富な植物種実が得られている。最も多いのはモモ核で 2911 点（破片 1092 点）、次いでメロン仲間種子 639 点（破片 4 点）、コナラ属堅果 220 点（破片 314 点）、マツ属複維管束亜属種鱗 145 点（破片 400 点以上）、オニグルミ核 130 点（破片 2393 点）、ナツメ核 124 点（破片 4 点）、クリ果皮 114 点（破片 4600 点以上）など続く。数量構成は SD5100 と若干異なるが、このほかの種実構成については類似している（第 18・19 表）。

なお、第 18・19 表の右端には、報告書（奈文研 1995）で示した数量を示している。概ね同様の結果が得られて

第 18 表　平城京出土の植物種実（5）

分類群	部位	SD5100												SD5300		SD5310		SD5100 学報数値	SD5300・5310 学報数値
		木屑層		炭層下木屑層		炭層		炭層木屑層		黒灰粘土		黒灰褐砂		灰粘土		木屑層		木屑層			
木本																			
カヤ	種子	23	335				2				3					12	215	10	12	355.0	230.5
イヌガヤ	種子	1																		2.0	2.0
チョウセンゴヨウ	種子	42	366							1	2					12	16			225.5	19.0
ヤマモモ	核	869	99											1		2				1109.5	2.0
オニグルミ	核	27	5694	1	7		19	2	16	1	64		2		11	130	2393	2	195	2380.5	1310.5
ヒメグルミ	核	17	846		1						6					1	76		6	385.0	39.5
ハシバミ	果実					1	2													1197.0	161.5
ハシバミ	堅果	437	1628		4		1			4	7				2	55	204	2	16		
クリ	果実	3	8																		
クリ	炭化果実	15				2										1					
クリ	炭化子葉	18	3													13	804	1	4	15.0	1.0
クリ	六角皮	12	533								6					5	628		60	663.5	535.0
クリ	六角残り																		6	577.0	373.0
クリ	果皮	420	8500<		16		82			1	280				70	114	4600<	2	300<		
クリ	カット果皮	2	350<								12				4	3	326				
ツブラジイ	果皮	1																			
ツブラジイ	堅果	76	50													37	31				
ツブラジイ	炭化堅果		1																		
スダジイ	果実	6														5				10.0	4.0
シイノキ属	堅果	345	41							5						9	12				
シイノキ属	炭化果実		5																		
アンズ	核	16	37													2				30.0	2.0
ウメ	核	2278	557			15	3			10						87	19	5	2	2637.5	83.5
モモ	核	3511	2650	3	1	15	15	4		85	43			13	2	2911	1092	76	30	4868.5	3536.0
スモモ類	核	673	61			2	1			2	2					56	7	2		733.0	81.0
スモモ類	炭化核	1																			
サクラ節	核	53	9							1										63.0	0.0
サクラ属	核	101	9							1						2	1			112.5	15.0
ナシ属	果実					1														221.0	199.0
ナシ亜科	種子	28	21													56	12				
ナシ亜科	果実	73	105							2	3					12	15	58	15		
ナシ亜科	幼果															81					
ヘビイチゴ属	核															1					
バラ科	種子	44	10							1											
センダン	核	15	1													1				54.5	0.0
ムクロジ	種子	21	12													1				34.0	1.0
アケビ属		2								1											
ムベ	種子																	2			
ナツメ	核	2047	83	1		3				38	1			1		124	4	13		2234.0	123.5
グミ属	種子	3	8																		
カキノキ	種子	302	704							3	8					81	300<	4	26	0.0	0.0
カキノキ属	炭化種子		1																		
マツ属複維管束亜属	球果	318	500<							1						145	400<	19	100<	100.5	115.0
マツ属複維管束亜属	種鱗	4														3	36	68	24	77.0	135.0
ヒノキ	球果	10																		12.0	0.0
イチイガシ	堅果	6														2					
アラカシ	堅果	14	5													1		2			
シラカシ	堅果	1																			
クヌギorアベマキ	殻斗	1																		4.0	0.0
コナラ属	堅果	45								1						220	317	11	21		
コナラ属	炭化子葉	1	1																	3.0	0.0
コナラ属	幼果	1																			
コナラ属	殻斗	22	11								1					5	3				
コナラ亜属	堅果															1	8				
コナラ亜属	殻斗															10	1			3.0	12.0
アカガシ亜属	幼果	1														1				2.0	1.0
アカガシ亜属	堅果	3																			
アカガシ亜属	殻斗	56	12							2	1					7	3	1		72.0	10.0
アカガシ亜属	殻斗＋幼果	1																			
エノキ	核		1																	4.0	0.0
ムクノキ	核	3	7													1				7.0	1.0
コブシ	種子	21																			
クスノキ	種子	3																		5.0	0.0
サンショウ	種子	26														1				27.0	2.0
アカメガシワ	種子	1																		1.0	0.0
ブドウ属	種子	2																		4.0	0.0
ツバキ属	種子	10	4							1							1				
ミズキ	核	1																		1.0	0.0
エゴノキ	核	54	1							2						1					
エゴノキ	種子	1								1										70.0	9.0
クサギ	核	2																			
ガマズミ属	核	1																		4.0	0.0
イタヤカエデ	果実	1																			
草本																			
イネ	籾殻	2														1	1				
オオムギ	炭化種子	1																			
コムギ	炭化種子	2																			
ハトムギorジュズダマ										1										2.0	0.0
ハス	果実	1																		5.0	0.0
ヒシ	果実	4	103								4						3			104.5	3.0

第 19 表　平城京出土の植物種実（6）

分類群	部位	SD5100								SD5300		SD5310		SD5100 学報数値	SD5300・5310 学報数値
		木屑層		炭層下木屑層	炭層	炭層木屑層	黒灰粘土	黒灰褐砂	灰粘土	木屑層		木屑層			
ナス属	種子	107								100<					
トウガン	種子	303	3				2		1	44	1	2		316.5	37.0
メロン仲間	種子	40000<		1	700<		17+α		○	639	4	5	2	48652.0	904.0
キカラスウリ	種子	1													
ウリ属	種子	1													
ヒョウタン仲間	果皮		○	○			○		○		○		○		
ゴキヅル	種子									1					
ウリ科	種子	9	1												
ミクリ属	核	17	5											126.0	0.0
ヤナギタデ	果実	28												26.0	0.0
サナエタデ	果実									2				0.0	2.0
ハコベ属	種子	15	6											2.0	0.0
オニバス	種子	16	5							1	1				
キケマン属	種子	7													
タカサブロウ	果実	2					○							78.0	0.0
オナモミ	果実	2								1				0.0	1.0
スミレ属	種子									4					
不明・同定不能		29	54							6					

分類群	部位	長屋王邸東辺築地際南北 SD4750				SD4750 学報数値
		木屑層		一括		
木本						
カヤ	種子	7	16			19.0
チョウセンゴヨウ	種子	1	117		2	47.0
オニグルミ	核	74	8180		34	3413.0
ヒメグルミ	核	1	295		3	382.5
ハシバミ	堅果	3	4			
クリ	六角皮		22			14.0
クリ	果皮	6	1000<		4	
クリ	カット		121			
ツブラジイ	殻斗	1				
ウメ	核	6	1			5.5
モモ	核	2350	1046	20	7	3032.5
スモモ類	核	34	5			25.0
サクラ節	核			1		
サクラ属	核	5	1			2.5
バラ科ナシ亜科	果実		1			
ナツメ	核	26	1			26.0
カキノキ	種子		2			
アラカシ	堅果	9				
シラカシ	果実	1				1.0
コナラ属	堅果	5				
コナラ属	殻斗	1	5			
コナラ亜属	殻斗	2				2.0
草本						
ヒシ	果実		13			11.0
トウガン	種子	8	13			14.0
メロン仲間	種子	22	4			11.0
ヒョウタン仲間	果皮	○				
不明・同定不能		3				

いるが、若干数値に違いがあるため併記しておく。

（2）条坊側溝・堀河

a. 左京二条

SD4951　東一坊大路西側溝。小子部門西脇を経て宮内から流出した排水路で、東一坊大路西側溝と宮東面外堀とを兼ねた南北溝である。幅約6.2 m（最大約7.5 m）、深さ0.8～1.4 m。護岸は検出しなかったが、護岸施設の裏込めのための掘り込みと思われる幅数10㎝のテラス状の段を検出した。堆積は大きく上下でわかれる。上層は茶灰砂質土・暗茶灰砂質土で、平安時代以降の堆積。奈良時代の堆積土である下層は、幅約4 m、深さ0.5～0.8 m。溝は何度も改修を受けており、遷都当初の堆積は残存しない。改修時期は出土木簡から天平中頃以降、天平宝字年間までと考えられる。堆積土は、下から木屑混暗褐粘土、バラス混暗灰砂質土・灰褐粗砂、灰白ブロック混暗灰砂質粘土、灰白ブロック混暗灰砂質土の4層に大別できる。このうちバラス混暗灰砂質土以下において、大量の遺物が出土した。

この条坊側溝からは、二度の調査で植物種実が出土しており、とくに274次調査の部分での木屑層（下層堆積土）から多量に回収されている。最も多いのは、メロン仲間種子で6090点（破片3点）、次いでモモ核75点（破片95点）、カキノキ種子66点（破片55点）、ナツメ核31点（破片1点）、ウメ核28点（破片18点）、アケビ属種子24点（破片2点）と続く。このほか、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、アンズ核、スモモ類核、ナシ亜科種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、エゴノキ核、トウガン種子、ゴキズル種子などが出土している。他の層位でもこの出土傾向は概ね一致しており、メロン仲間種子の量が多い。特に283-3次調査の木屑混暗灰粘土層では、8570点（破片287点）という多量のメロン仲間種子が出土している（第20表）。

SD17777　改作前の東二坊々間路東側溝。幅1.1 m、深さ0.3 m。黒灰粘土が堆積している。奈良時代前半か。

出土種実に、オニグルミ核の破片がある（第20表）。

SD17779　改作後の東二坊々間路東側溝。西肩のみを検出。この溝から天平神護2年の木簡が出土している。奈良時代後半か。

出土種実に、モモ核1点（破片2点）および、オニグルミ核の破片がある（第20表）。

SD7090　二条条間路北側溝。長さ約110 mにわたり検出した。奈良時代中ごろに大幅な改修があり、改修前をSD7090A、改修後をSD7090Bとする。SD7090Aは、幅約3.8 mで、開削当初は西から東に向かって水が流れていたと考えられる。溝の断面形状は東側で逆三角形を呈し、西に向かって逆台形へと変化する。これは、地山が東側の

第 20 表　平城京出土の植物種実（7）

分類群	部位	東一坊大路西側溝　SD4951										東二坊坊間路東側溝	
		274次						283.03次				SD17777	SD17779
		黒褐粘土	黒灰粘土	灰褐砂	木屑層	排水溝	一括	木屑混暗灰粘土	砂礫層	一括		一括	暗灰砂
木本													
カヤ	種子	1		1	6								
イヌガヤ	種子								2				
チョウセンゴヨウ	種子				1 16		1			1			
ヤマモモ	核				16 3	1 1		4		3			
オニグルミ	核	8	2	10	121	3	3	1 41	19	9		2	3
ヒメグルミ	核												
ハシバミ	堅果			1	100	3	1 1						
クリ	果実												
クリ	果皮	7	6	38	488	5	41	30	28	5			
クリ	カット												
ツブラジイ	堅果			1	14 41	1 3							
スダジイ	果実				23								
シイノキ属	堅果							2					
アンズ	核				3								
ウメ	核	4		1 1	28 18	1	3 1	1 5	8 2	1			
モモ	核	9 7		1 4	75 95	3 2	4 5	10 15	13 36	1			1 2
スモモ類	核				12 2			1 1	1 1				
サクラ属サクラ節	核				4			3	1				
ナシ亜科	種子			1	14 1		1	3					
ナシ亜科	果実												
センダン	核	2		1	6 1			6 2	11 2	2			
アケビ属		5			24 2	1	2	1					
ナツメ	核			11	31 1			1	1	1			
カキノキ	種子	3		3 3	66 55	1	1 3	4	4				
マツ属複維管束亜属	球果				3				1				
アラカシ	堅果	1			27		3						
コナラ属	堅果	1			1		1	1 4	1				
アカガシ亜属	殻斗				1								
アカガシ亜属	堅果												
クスノキ	種子				1								
サンショウ	種子				4		1						
ブドウ属	種子				5	1		7		1			
エゴノキ	核				2	1							
ハクウンボク	核							1					
モチノキ属	核									1			
カエデ属	種子				1								
草本													
トウガン	種子			1	2			17	2	5 1			
メロン仲間	種子	164	2	216	6090 3	307	130	8570 287	876	653 44			
ウリ属	種子				1								
ヒョウタン仲間	種子				1				1				
ヒョウタン仲間	果皮			○	○			○					○
ゴキヅル	種子				1								
トウダイグサ属	種子				1								
オナモミ	果実						1						
不明・同定不能					2								

灰白色粘土から調査区中央部より西にかけて砂に変化することが関係していると思われる。灰～灰褐色の砂が堆積し、最下層は植物遺存体を多量に含む灰茶色粘土である。SD7090B は幅約 2.0 mで、改修前よりも細く、浅い。調査区西側では両岸に堰板（SX7093・7094）とこれを固定する丸木の杭列（SX7091・7092）が存在し、溝岸の崩落を防ぐものと考えられる。堆積は暗褐色粘質土が中心で、澱んでいた有様がうかがえる。粘質土の堆積を参考にすると、東から西への流れが想定でき、当初の流水方向が逆転している。これは門 SB7110 の建設による変更であろう。門の基壇は下層溝を埋め立てた上に構築されており、下層溝から上層溝への改修は、門の造営に合わせて行われたと考えられる。

植物種実は、灰色砂、灰褐砂、灰茶粘土（SD7090A）から多量に出土している。灰褐砂からは、メロン仲間種子 1920 点（破片 4 点）のほか、モモ核 28 点（破片 36 点）、アケビ属 8 点、オニグルミ核 6 点（破片 8 点）、カキノキ種子 5 点（破片 6 点）などと続く。このほか、チョウセンゴヨウ種子、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、スモモ類核、ナツメ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、トウガン種子などが出土している。各層ともメロン仲間種子が多く、灰色砂層ではアケビ属種子が 23 点見られる（第 21 表）。

SD7100　二条条間路南側溝。長さ 13 mにわたり検出した。幅約 4.6 mで、断面形状は逆台形を呈する。幾度か改修が行われており、最終的には当初の位置よりやや北に寄っている。奈良時代。

出土種実は、SD7090 に比べて非常に少ない。埋土からメロン仲間種子のほか、オニグルミ核、クリ果皮、モモ核の破片が見られる（第 21 表）。

SD5200　二条条間路北側溝。SD5200A は A ～ C 期（奈良時代前半）まで存続する。深さ約 0.4 m。SD5200B は

第 21 表　平城京出土植物種実（8）

分類群	部位	二条条間路南側溝　SD7090							二条条間路北側溝　SD7100		
		灰茶粘土	灰色砂	灰褐粘土	灰褐砂	暗灰粘土	暗灰砂	一括	灰色砂	砂混暗灰粘土	暗灰粘土
木本											
チョウセンゴヨウ	種子		2		1						
ヤマモモ	核		1								
オニグルミ	核	2	3		6 8						1
ハシバミ	堅果				2						
クリ	果皮		36	3	38		3	8			8
ツブラジイ	堅果				4 13		1				
ツブラジイ	炭化子葉	1									
シイノキ属	堅果				1						
ウメ	核				1						
モモ	核		5 6	1	28 36	2	2	2			1
スモモ類	核		3		5	1					
サクラ節	核				2						
ナシ亜科	種子	1									
アケビ属		8 6	23	1	8						
ムベ	種子			1							
ナツメ	核				3		1				
カキノキ	種子	3	11 11		5 6			1 2			
マツ属複維管束亜属	球果		1					1			
アラカシ	堅果				1						
コナラ属	堅果	1	1		1 24						
アカガシ亜属	殻斗	1			1				1		
サンショウ	種子		1		4						
ブドウ属	種子				1						
草本											
トウガン	種子	2									
メロン仲間	種子	405	384	14	1920 4	12	200	382	2	18	14 3
ウリ属	種子				1						
ヒョウタン仲間	種子	1									
ヒョウタン仲間	果皮		○		○		○	○			
タデ科	果実				2						
不明・同定不能		1									

分類群	部位	二条条間路北側溝　SD5200			
		284次	280次	120次	
		暗灰粘土	茶灰粘質土	古	灰黒砂
木本					
オニグルミ	核		1		
クリ	果皮			1	
ツブラジイ	堅果	4		2 4	
モモ	核		1	10 14	1
ムクロジ	果実	1			
コナラ属	堅果	1			

分類群	部位	東二坊々間路西側溝　SD4699・SD5021									三条々間北小路	
		SD4699（198次）			SD4699（193次）					SD5021	南側溝 SD4359	北側溝 SD4361
		木屑層	黒灰粘土	暗灰砂	中層	下層	茶灰土	暗灰粘土	暗灰砂			
木本												
オニグルミ	核	3		1	2		3	16	9	3		1
ハシバミ	堅果				1							
クリ	果皮	7	1	10				1	10			
ウメ	核				1							
モモ	核	32 37		1	3 3	1	1 1	9 3	4 5	13 5	3	1
スモモ類	核								1			
マツ属複維管束亜属	球果			2								
草本												
メロン仲間	種子	6		61								
ヒョウタン仲間	果皮		○					○				

幅約 2.0 m、深さ約 0.8 m。5200A の北岸を約 2 m南に寄せて掘削している。径約 30 ～ 60㎝の玉石組の護岸を設けている。南岸東側では側石の抜取穴を検出した。

植物種実として、モモ核のほか、ツブラジイ堅果、ムクロジ果実、コナラ属堅果、オニグルミ核、クリ果皮などが出土している（第 21 表）。

SD4699･SD5021　東二坊々間路西側溝。二条大路以南がSD4699、以北がSD5021である。SD4699は、幅 2 ～ 3 m、深さ 0.9 ～ 1.2 mの素掘溝で、南流する。堆積は上から茶灰色土（最上層）、灰色粘土（上層）、暗灰色粘土（中層）、暗灰色砂（下層）の順である。下の 3 層が溝の流れに伴うもので、最上層は埋め立て土である。下 3 層（SD4699A）が二条大路南側溝 SD5094A･B とつながり、最上層をきって SD5094C が東流する。下 3 層からは木簡をはじめとして多くの遺物が出土しており、西側溝は奈良時代中ごろにはかなり埋まっていたと考えられる。

SD4699 は 2 度の調査で検出されているが、植物種実の構成は両者で類似している。198 次調査区の木屑層では、モモ核 32 点（破片 38 点）、メロン仲間種子 6 点のほか、オニグルミ核、クリ果皮が出土している。また、暗灰砂では 61 点のメロン仲間種子が出土している。SD5021 でも、モモ核 13 点（破片 5 点）、オニグルミ核の破片が出土し

第 22 表　平城京出土の植物種実（9）

分類群	部位	SD650															
		砂		1 砂		2 砂		3 砂		灰黒土		1 黒		2 黒		その他	
木本																	
ヤマモモ	核																1
オニグルミ	核				2		3						2		1		
ヒメグルミ	核				1												1
クリ	果皮				15		12		14								
ウメ	核			2	1							4					
モモ	核	11	7	26	22	11	8			3		26	40	1	1	33	25
スモモ類	核			1													
サクラ属	核					1											
草本																	
ヒョウタン仲間	種子					46	2										
ヒョウタン仲間	果皮				○		○						○		○		

ている（第 21 表）。

SD4359・SD4361　七・八坪間の小路側溝 SD4359・4361 は奈良時代半ばにつくられて一旦廃され、奈良時代後半に再び作られる。改削以降、両側溝は東端で 1 条となり、埋め戻した東二坊々間路西側溝上を東流する。合流部分には石の護岸がある。奈良時代後半から末。

両者とも植物種実の出土は少量である。モモ核およびオニグルミ核が出土している（第 21 表）。

b. 左京一条

SD650　東三坊大路東側溝。南北約 240m の間で、北方から南方に流れる溝を検出した。溝は時期を異にする 2 条の溝が上下に重なる状況で検出した。ここでは時期の古い下層の溝を SD650A とよび、新しい上層の溝を SD650B と呼ぶことにする。2 条の溝は E 地区北半では完全に上下に重なり、それ以南では SD650B が西側により、B 地区南半以南では流路を別にしている。

SD650A は、幅 2.5 m前後、残存路面からの深さ 1.1 m内外の素掘溝である。E 地区での横断面は底部の狭い V 字形、D 地区以南では底部の幅が広がり逆台形を呈している。路面 SX600 の南方への傾斜と呼応し、底も北方が高く南方が低い。幅員は必ずしも一定せず、一時的に水たまりになるような場所では若干幅員を広げている。しかしながら、基本的には下層に灰色粗砂、褐色砂などが 25 ～ 40㎝の厚さで堆積し、その上に黒灰粘土が 20㎝前後の厚さで堆積し、さらにまた灰色砂などが堆積する。堆積土の中では土器、陶器、瓦、木器など多数の遺物が包含されており、ある部分では土砂の量よりも遺物の量が多い状況を示した。遺物の年代は平安時代の様相を呈し、天長 5 年（828）の告知札が存在することから、平安時代初期の遺構であることが分かる。奈良時代とみられる遺物が全くないわけではないが、それらは溝底に貼り付いた状況で検出された。奈良時代末から平安時代の間に大規模な浚渫工事がおこなわれたと考えられる。

SD650B は、幅 2 m前後、残存路面から深さ 0.5 ～ 0.9 mで、SD650A の埋没後に掘り開いたものである。底部は平坦面をなす部分もあるが、一般的には凹凸面をなす。この溝も SD650A と同じく北方が高く、南方で低い。D 地区における典型的な体積状況からすれば、下層に褐色系の粗砂が 15㎝内外の厚さで堆積し、その上に黒色粘土が 30㎝前後の厚さで堆積している。上部の黒色粘土は溝が東側に氾濫したのちに堆積したもので、SD650A の上部を覆う。この溝からも多数の遺物が発見され、下部の時期を寛平大宝（890 年）のころに比定することが可能である。

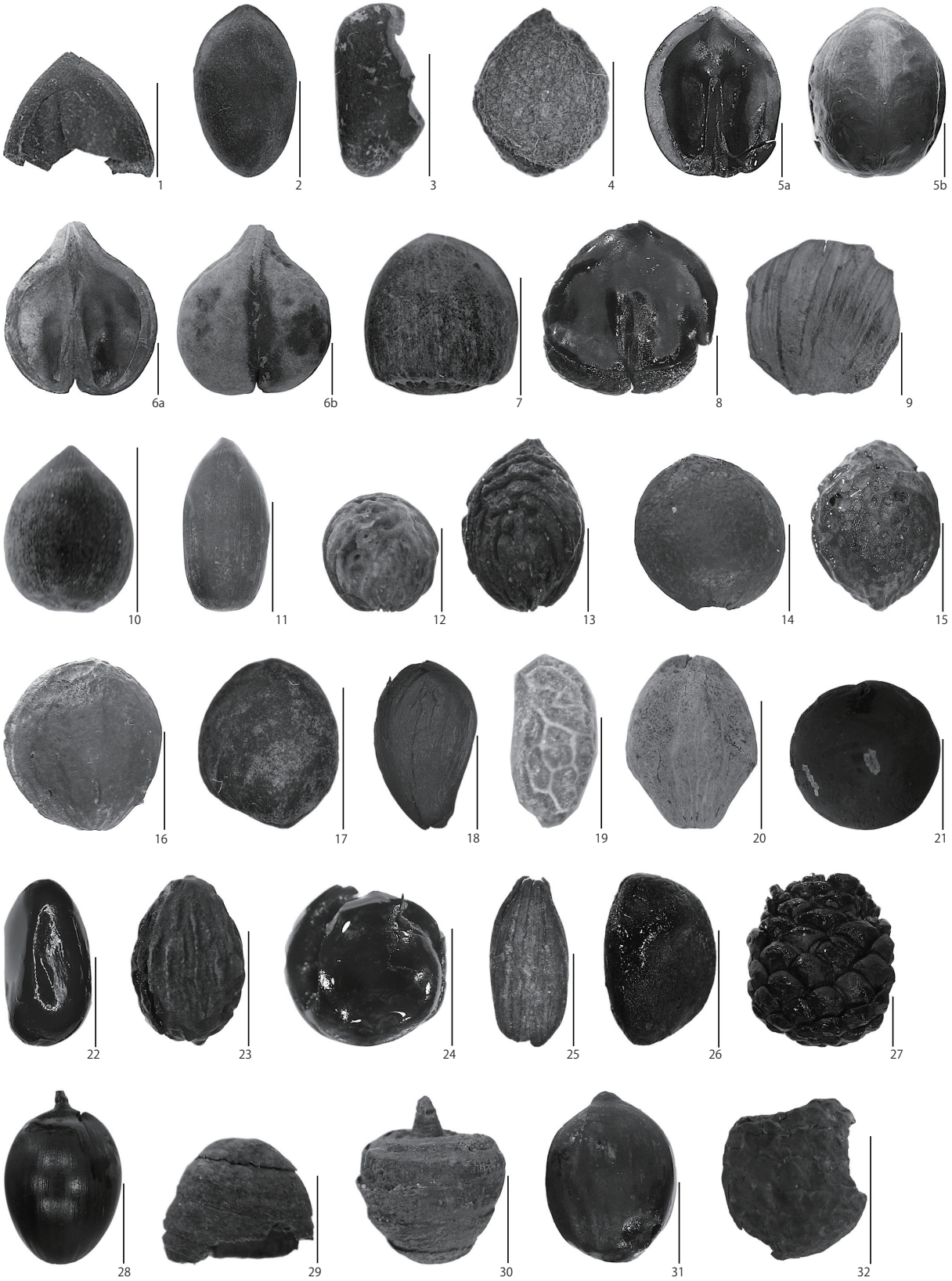
出土種実は、各層ともモモ核が多いことで一致する。このほかに、ウメ核、ヒョウタン仲間種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、スモモ類核、サクラ属核が出土した（第 22 表）。

c. 左京六条

SD6400　東一坊大路西側溝。断面が逆台形の幅の広い素掘溝で、幅 7.5 m、深さ 1.5 ～ 1.7 m。一部では護岸用の杭を伴うが、横木などは遺存しない。堆積の状況は場所によって若干異なるが、溝は大きく 3 時期の変遷をたどり、堆積層は 7 層に区分できる。最下層は褐色粗砂層で、溝底から溝の側面に残っている。その上には木屑層が堆積し、さらに青灰色砂質土層が堆積している。この段階で溝を掘り直しており、その後の堆積が暗灰砂層である。北東拡張区の西側溝西岸近く、暗灰砂層中で検出した曲物を埋設した遺構 SX6422 は取水施設と考えられるが、この層の堆積環境は長期にわたる滞水環境ではない。この層の上には、暗灰粘土層と青灰細砂層が堆積する。さらにこれらの堆積を開削し、灰色粘土層が堆積する幅 3 m弱、深さ 0.9 mほどの蛇行溝 SD6414 となる。堆積の時期は、最下層の褐色粗砂からは奈良時代初めから中ごろの土器、天平年間後半から天平宝字年間の木簡が出土しており、奈良時代中ごろまでの堆積と考えられる。次の木屑層からは奈良時代後半以降の土器や天平 2 年から宝亀 3 年の紀年木簡が出土しており、奈良時代後半の堆積と考えられる。奈良時代末にこれらの層を除去する大規模な改修がおこなわれており、

第 23 表　平城京出土植物種実（10）

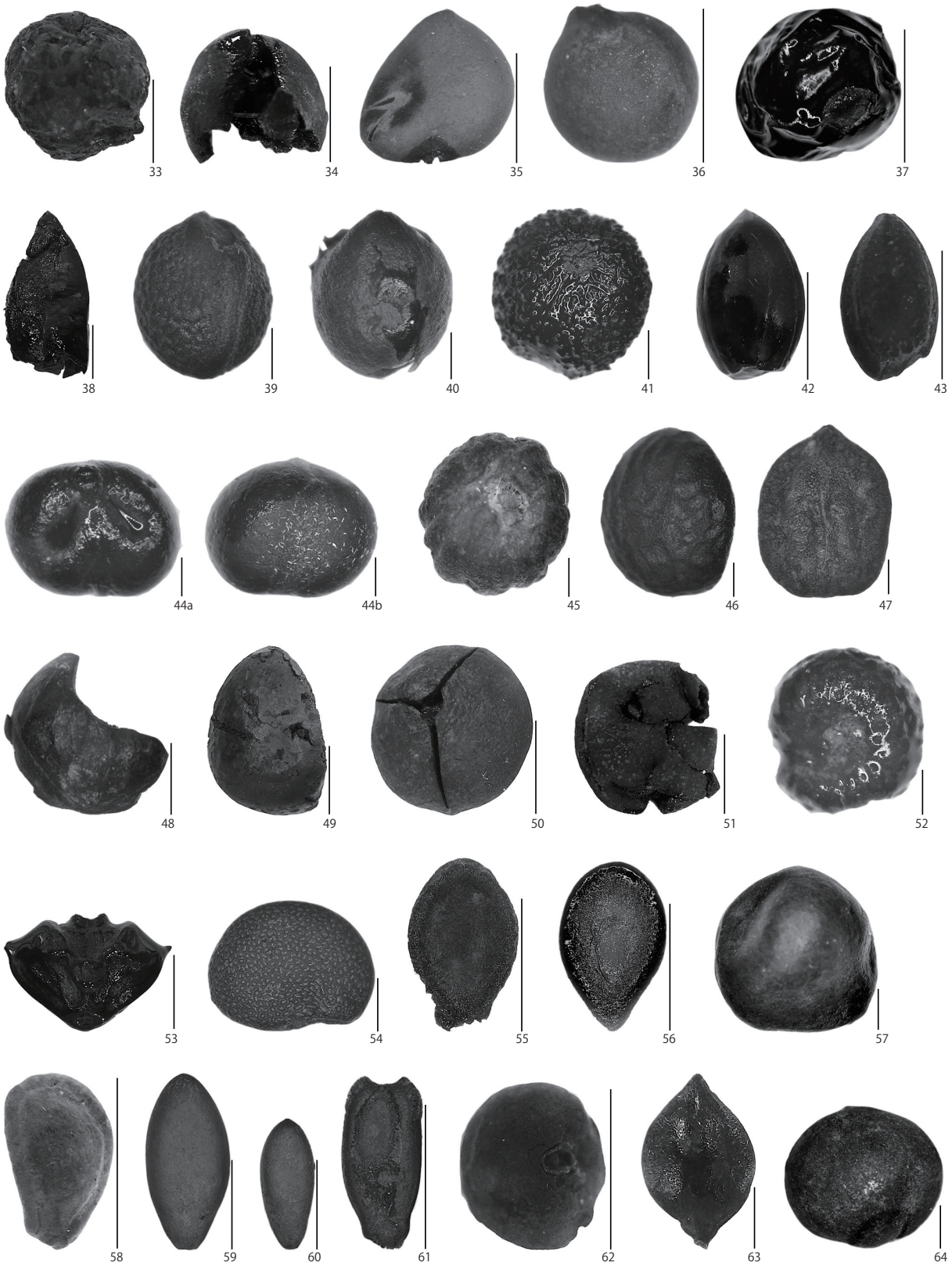
| 分類群 | 部位 | 東一坊大路西側溝　SD6400 | | |



スケール　10㎜：1-3,5-16,20,21,23,26-32　5㎜：4,17,18,22,24,25　1㎜：19

1．カヤ種子、2．イヌガヤ種子、3．チョウセンゴヨウ種子、4．ヤマモモ核、5．オニグルミ核、6．ヒメグルミ核、7．ハシバミ堅果、8．クリ果実、9．クリ果皮（六角加工）、10．ツブラジイ堅果、11．シイノキ属堅果、12-13．モモ核、14．アンズ核、15．ウメ核、16．スモモ核、17．サクラ属サクラ節核、18．ナシ亜科種子、19．キイチゴ属核、20．センダン核、21．ムクロジ種子、22．ムベ・アケビ属種子、23．ナツメ核、24．ケンポナシ属種子、25．グミ属種子、26．カキノキ種子、27．マツ属球果、28．アカガシ亜属堅果、29．アカガシ亜属殻斗、30．アカガシ亜属幼果、31．コナラ属堅果、32．コナラ属殻斗

第 11 図　東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体（1）



スケール　10㎜：33,38,42,43,48-50,53,55,58,62　5㎜：34-37,51,56,59,60　1㎜：39-41,44-47,52,54,57,61,63,64

33. コナラ属幼果、34. ムクノキ核、35. コブシ種子、36. クスノキ種子、37. クロモジ属果実、38. フジ属果実、39. サンショウ種子、40. サンショウ種子（皮付）、41. アカメガシワ種子、42. ハクウンボク核、43. エゴノキ種子、44. ブドウ属種子、45. ミズキ核、46. クサギ核、47. ガマズミ核、48. トチノキ種皮、49. トチノキ果皮、50、トチノキ幼果、51. トチノキ未熟果、52. アオツヅラフジ核、53. ヒシ果実、54. ナス属種子、55. トウガン種子、56. スズメウリ種子、57. ウリ属種子、59. メロン仲間種子（モモルディカ型）、60. メロン仲間種子（マクワ・シロウリ型）、72. キカラスウリ種子、61. ヒョウタン種子、62. オニバス種子、63. ヤナギタデ瘦果、64. カナムグラ核

第 12 図　東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体（2）

その後に堆積した暗灰砂層からは、天平宝字７年から 12 ～ 13 世紀の土器が出土しており、最終的にはこの時期に埋められたと考えられる。

植物種実は多量に出土している。写真は第 11・12 図に示した。最下層の褐色粗砂層では、メロン仲間種子が 329 点（破片１点）と最も多く、次いでモモ核 36 点（破片 21 点）、クスノキ科種子 30 点、エゴノキ種子 27 点（破片４点）、ムクロジ果実 16 点（破片 34 点）、ウメ核９点（破片７点）、センダン核８点（破片２点）などと続く。その上の木屑層でも、メロン仲間種子が 2802 点（破片１点）と最も多いが、以下はウメ核 56 点（破片 29 点）、ヤマモモ核 48 点（破片２点）、センダン核 46 点（破片５点）、モモ核 27 点（破片 30 点）、ナツメ核 23 点、アケビ属 22 点（破片４点）と続き、最下層の状況とやや異なる。さらに改修後の堆積である暗灰砂層からは、メロン仲間種子 1805 点（破片 21 点）とやはり最も多く、ついでモモ核 26 点（破片８点）、コナラ属 26 点（破片 27 点）、ウメ核 21 点（破片 19 点）、アケビ属 16 点（破片８点）、センダン核 15 点（破片４点）と続く。このほか、これらの層では、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、アンズ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科種子、コブシ種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ミズキ核、クサギ種子、トチノキ種子、ナス属種子、トウガン種子、スズメウリ種子、ヤナギタデ果実などが出土しており、分類群の構成は類似している（第 23 表）。

第 24 表　平城京出土植物種実（11）

分類群	部位	六条大路　SF6450		
		南側溝SD6449		北側溝 SD6451
		灰色砂粘	暗灰砂	灰黒粘土
木本				
イヌガヤ	種子		2	
モモ	核			1　1
ムクロジ	種子		2　3	
コナラ属	殻斗	2		
アカガシ亜属	殻斗		1	
ムクノキ	核		1	
ミズキ	核		1	
トチノキ	堅果	16	1	
不明・同定不能			2	

SD6449　六条大路南側溝。幅 5.0 ～ 5.5 m、深さ 0.9 mの素掘溝で、溝底の標高は 53.9 m。堆積層は下から青灰粘土、灰色粘土、灰黄シルト、茶灰シルト、黄褐土の順である。茶灰シルトまで埋まった段階で、南寄りに幅 0.7 m、深さ 0.3 mの小規模な溝を掘り直している。遺物としては奈良時代前半の土器が少量出土した。奈良時代。

植物種実として、イヌガヤ種子、ムクロジ種子、ミズキ核、トチノキ種子などが出土している（第 24 表）。

SD6451　六条大路北側溝。幅 4.5 ～ 4.7 m、深さ 0.7 mの素掘溝で、溝底の標高は 53.4 m。溝の上部は南側溝同様に六条大路の路面側に広がっており、それを含めると溝幅は 5.9 mになる。堆積層は下から灰褐砂、灰黒粘土、暗灰粘土、暗灰砂質粘土、暗灰シルト、黄灰砂質土。暗灰粘土層および灰褐砂層からは奈良時代の荷札木簡がそれぞれ１点ずつ出土している。奈良時代。

植物種実として、モモ核１点（破片１点）が出土している（第 24 表）。

d 左京九条一坊

SD1300　東堀河。九坪の中央から北から南に縦断して流れる。堀河は当初、幅約 10 m、深さ 1.4 mの素掘りで、後に幅を狭めてシガラミによる護岸をおこなっている。河底はほぼ平坦で、両岸とも急傾斜の掘り込みとなる。堆積層は両岸近くは粘土層、中央部は砂層で、砂層はシガラミを設けて護岸を施した以前と以後の堆積層の２層に大きくわかれる。上層砂層の下部および下層砂層からは木簡をはじめとして木製遺物、土器、金属器などの多量の遺物が出土した。堀河の廃絶期は遺物から９世紀前半とみられる。

植物種実として、モモ核が最も多く灰色砂では 77 点（破片 27 点）出土している。また、灰荒砂からは、メロン仲間種子が 20 点出土している。このほかの種実は数点ないし、破片資料で、オニグルミ核、クリ果皮、ウメ核、アラカシ堅果、オナモミ果実などがある（第 25 表）。

SD1155　九･十坪境の東西小路（SF1160）の南側溝。幅 3.4 ～ 3.8 m、深さ 1.2 mあり、西に流れ東堀河に落ちる。

植物種実として、モモ核が最も多く灰色砂では 190 点（破片 83 点）出土しており、メロン仲間種子 88 点（破片１点）が次ぐ。このほかにアンズ核、ウメ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ナシ亜科種子が少量ないし破片資料で出土している（第 25 表）。

f. 右京八条一坊

SD920　西一坊々間大路（SF910）西側溝。溝上面の幅は 5.50 m～ 11.00 m、溝底の幅は 3.00 m～ 8.00 m、深さは約 1.5 ～ 1.75 mを測る。東側溝 SD880 が小規模で、雨水排水を全て西側溝 SD920 で受けるにしても、道路側溝に不相応に大規模である。埋土の状況から溝は３時期に分けることができる。A 期の溝は、平城宮造営当初の溝で、堆積層はない。B 期の溝は両岸を暗灰色粘土で護岸している。溝の堆積は最下層が灰黒色の粗砂層で、流れによる抉れのためか、一部護岸のための粘土も下層にもぐりこむ。この上に砂層と粘質土層とが互層をなし、溝幅は A 期のものよりも約２～３m狭くなっている。暗灰色粘土層からは主として平城宮Ⅱ・Ⅲの土器が出土した。　C 期の溝はやや狭く浅くなり、堆積土は灰色の細砂を主体とする。出土遺物は少ないが、主として奈良時代末期から平安時代初期のものである。これらの溝を最終的に赤褐色の均一な粘土で埋める。埋土は厚さ 0.2 ～ 0.3 m、幅約 7.0 mで、西

第 24 表　平城京出土植物種実（12）

分類群	部位	東堀河　SD1300（141-23次）								SD1300（93次）		SD1155	
		灰色粘土		灰色砂		灰荒砂		暗灰砂					
木本													
オニグルミ	核						3						5
ヒメグルミ	核												2
クリ	果皮				10								17
アンズ	核											1	
ウメ	核			1		4	1			2		1	
モモ	核	1		77	27	43	17	1		31	13	190	83
ナシ亜科	種子												1
アラカシ	堅果				3								
草本													
メロン仲間	種子			1		20							
ヒョウタン仲間	種子											88	1
オナモミ	果実				1								
不明・同定不能				1									

分類群	部位	西１坊坊間大路西側溝　SD920														SD1496
		黒褐粘土		黒褐土		黒灰粘土		灰色粗砂		灰色砂	暗灰粘土	③		④	一括	最下層新
木本																
オニグルミ	核				1								2		1	
ヒメグルミ	核				1											
クリ	果皮				15					6			10		3	
モモ	核			2	5	3	1	16	10	1	2	23	6	2	2　1	10
草本																
ヒョウタン仲間	果皮		○													

分類群	部位	SD1525		SG1504	
		河川中		池石間	
木本					
オニグルミ	核				
モモ	核				
マツ属複維管束亜属	球果			11	6
マツ属複維管束亜属	種子				9
マツ属複維管束亜属	種鱗				112
草本					
メロン仲間	種子	40	4		
ヒョウタン仲間	果皮				

一坊々間大路の路面にまで及んであり、おそらく路面敷を削って埋め立てたものであろう。この層から９世紀におさまる灰釉陶器片が出土している。

植物種実として最も多いのは、モモ核である。このほかオニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮が出土している（第 25 表）。

SD1496　十三坪・十四坪間の坪境小路（SF2000）の南側溝。溝幅が約 1.5 m、深さ 40 ～ 50㎝である。溝底のレベルは東の方が低く、水は西から東へ流れていたと考えられる。埋土からは平城Ⅰ～Ⅴの土器が出土した。

植物種実として、モモ核 10 点が出土した。（第 25 表）

（３）その他の溝、園池

a. 左京三条二坊

SG1504　六坪にある園池。園池は、平均幅 15 m、延長 55 mあり、池全体を石組で固め、曲池とするような形で蛇行している。導水口、溢水口の高さから、水面の幅は、広いところで５～６m、狭いところで２m、平均３m前後である。水深は広いところで最も深く 25㎝、平均 20㎝である。水際は全面玉石を一列に立てて据えつけている。池の堆積土は、底石の上に 20 ～ 30㎝の厚さで植物種実を含む灰褐色粘土がある。この層は、導水施設から流入したものではなく、池の使用時期に自然堆積したものと思われる。また、この上層からは土師器、瓦などが出土し、この年代から池の廃絶は奈良時代末期に比定できる。

報文（奈文研 1976）では、出土植物種実として、クロマツ球果 61 点、モモ核５点、ウメ核、センダン核７点、センダン種子３点、ヒルムシロ果実１点、ヘラオモダカ種子１点、ウツギ蒴果９点、ゴキズル種子片３点を挙げている。現状で保管されている種実は、池石間から出土したマツ属複維管束亜属に限られる（球果 11 点など）（第 24 表）。

SD1525　園池 SG1504 に導水するための導水路。園池と同様旧河川 SD1560 を利用した幅４～７mの溝で、園池の手前で滞留し、木樋 SX1523 により導水している。導水路の堆積土の下層より、造営時に廃棄されたものと思われる多量の加工木片とともに「和銅」の年紀をもつ木簡が出土した。

植物種実として、埋土からメロン仲間種子 40 点（破片４点）が出土している（第 25 表）。

第４章

結　語

―古代における植物性食文化の解明に向けて―

1．藤原宮・京・飛鳥地域出土植物種実

藤原宮・京跡の６遺構と飛鳥地域、石神遺跡の 12 遺構を調査対象とした。これらの遺構の年代は、共伴遺物から７世紀後半から８世紀初頭にほぼ限定できる。出土植物種実をまとめると、第 26 表のように 48 分類群が抽出される。これを遺構別にみておきたい。

まず、藤原京七条一坊の便所遺構 SX7420 からは、木本類はあまり出土していないが草本類の種類が多い。報文（黒崎編 1992）に数量が示されていないが、小型種実の種類が多いのは、水洗選別の際の篩目の細かさによる。にもかかわらず、他の遺跡で出土しているクルミ類やモモ核などが認められないことは、注意しておきたい。この遺構で出土しているキイチゴ属核、クワ種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ノブドウ種子、ナス属種子、メロン仲間種子は、食用にされたものだろう。一方、草本類の多くは、食用ではなく周辺の植生を示す雑草群と考えられ、ホタルイ属果実、、タカサブロウ種子、イボクサ種子などは湿地を好む植物である。

次に、井戸・土坑では、メロン仲間種子、モモ核、ナツメ核が基本的な構成になる。回収方法の問題もあるだろうが、種類数は多くはなく、これにスモモ類核やヒョウタン仲間種子、カキノキ種子、カヤ種子、オニグルミ核などは

第 26 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（藤原宮・京・飛鳥地域）

遺構の性格		便所	井戸	土坑		運河・溝			
およその廃絶時期		７C末	７C末	７C末	７C末	７C後半	７C末	７C末	７C末
分類群	部位	SX7420	SE4080	SK8471	SK4060	SD1901A	SD4089・4090	SD1347	SD4121
木本									
カヤ	種子			△			○		△
イヌガヤ	種子						△		
ヤマモモ	核					△	△	△	△
オニグルミ	核			△			○	○	
ハシバミ	果実						○	△	
クリ	果皮					△	○	○	○
ツブラジイ	堅果						△		
モモ	核		○	◎	○		◎	◎	◎
スモモ類	核			○	○		◎	○	○
サクラ節	核						△		
サクラ属	核							△	
ナシ亜科	種子						△		
ムクロジ	核							△	
センダン	核						△	△	
ムベ	種子					△	△		
キイチゴ属	核	○							
ナツメ	核		△	○	△	○	○	○	○
カキノキ	種子				△	○			△
クワ	種子	○							
クワ属	種子					△	△		
コナラ属	堅果					○	△	△	○
マメ科	種子								△
サンショウ	種子	○				○	△		○
ブドウ属	種子	○				○	○		
ノブドウ	種子	○							
ミズキ	核					△			△
トチノキ	種子								
クサギ	核						△		
クマノミズキ	核						△		△
草本									
イネ	穎						△		
ナス属	種子	○					△		
トウガン	種子						○		△
メロン仲間	種子	○	◎		◎	◎	◎	◎	◎
ヒョウタン仲間	種子		○	◎		○	○	○	○
シソ属	果実	○				△		△	
ヤブツルアズキ	種子								
タデ科	果実	○				○			
ギシギシ	果実	○							
トウゴマ	種子						△		
ホタルイ属	果実	○							
カタバミ	種子	○							
アカザ属	種子	○							
キンポウゲ属	果実	○							
ナデシコ科	種子	○							
キク科？	果実	○							
タカサブロウ	果実	○							
アサ	種子	○							
カヤツリグサ属	果実	○							
イボクサ	種子	○							

※◎･○･△は数量の多寡を示す。数値はそれぞれの遺跡で大きく異なるので目安であるが、◎は 100 点を大きく上回り主体となるもの、○は 10 ～ 100 点前後、△は 10 点未満。ただし SX7420 は数量不明。なお、網掛けは◎に付す。第 27 ～ 29 図も同じ。

加わる程度である。これらはすべて食用可能である。

これに対して、溝や運河では、種実の種類が多くなる。メロン仲間種子とモモ核が主体となり、SD4089・4090ではスモモ核もこれらと並んで多い。土坑や井戸にもみられたナツメ核やヒョウタン仲間種子のほか、オニグルミ核やハシバミ核、クリ果皮、サンショウ種子、ブドウ属種子なども一定量含まれる。これらのほとんどは食用可能な植物であり、食糧残滓として廃棄されたか、あるいは排泄物として処理されたものが含まれていた可能性がある。第1章でも述べたとおり、溝は土坑や井戸等とは違って流動的かつ開放的な遺構であり、異なる由来の種実が累積的に堆積することで、相対的に多様な組成を示すのだろう。

２．平城宮・京出土植物種実

平城宮跡の35遺構と平城京跡の58遺構を調査対象とした。これらの遺構は基本的に8世紀中（奈良時代）のある時点に廃絶された考えられるが、一部には、12～13世紀ごろまで存続するものがある。遺構の性格別に出土量の多い遺構をピックアップしたのが第27～29表である。内訳は、糞便遺構（ないし便所遺構）２基、井戸４基、土坑３基、建物１棟、溝・濠状遺構８条の計18遺構である。これらの遺構では夥しい数の種実が出土しており、また分類群の数も163分類群と藤原宮・京・飛鳥地域と比べて約３倍となる。これは、繰り返し述べているとおり、資料の回収方法による違いが大きいが、植物種実が遺存し易い条坊側溝や井戸などの調査事例の多さにも起因していると推察される。

平城宮東方官衙の糞便遺構でも、モモやクルミ類などの大型植物種実は出土しておらず、比較的小型の種実が多い。糞便遺構の１つSX19198の分析（芝ほか2013）によると、食用植物として、メロン仲間種子、キイチゴ属核、アケビ属種子、ナス属種子、が主体となり、カキノキ種子、イタビカズラ節核、マタタビ属、サンショウ種子、ヤマブドウ種子、エゴマ果実などが含まれている。同じ東方官衙のSX19202では、これらのうちのカキノキ種子やアケビ属種子などの比較的サイズの大きい種実が含まれていないが、これは、分析した土壌量の差（SX19198：3000cc、SX19202：200cc）が影響していると思われる。いずれにしてもこれらの資料のほとんどは、籌木や寄生虫卵、ハエの蛹と一緒に出土しているので、排泄された便の内容物であると考えて間違いない。しかも平城宮内の官衙地区の遺構群であるという点は､時期だけでなく関わった人々が官人たちであるというところまで絞りこめる可能性をもつ。今後、宮・京内での類似遺構の検出を期待したい。

次に井戸・土坑の様相をみておく。井戸で共通する特徴は、モモ核が主体ないし一定量出土していることである。この特徴はここには掲げていないが、京内のその他の井戸遺構でもいえることである（第３章、第14表参照）。またクルミ類やクリ果皮、スモモ核などといった木本類が糞便遺構に比べて目立つ。長屋王邸宅の井戸SE4770ではあまり種類多くないが、モモ核を主体として、これらの種類で構成される。モモ核の出土は井戸祭祀との関連も想起されよう。ここで取り上げたその他の井戸では、モモ核の他にも、多数の種類で構成される。平城宮東院の井戸SE16030、 西大寺食堂院の井戸SE950からは、多くの種類の種実が出土しており、特に後者の数量は、平城京内でも随一である。SE16030では、モモ核が41点であるのに対してセンダン核が1200点以上出土しており、その特異な状況が際立つ。また式部省東方官衙の井戸SE17505では、ナシ亜科が主体となり、その他の種実の数量はあまり多くない。SE950では、モモ核も1500点以上あるが、それよりもメロン仲間種子が８万点超、トウガン種子約１万点、カキノキ属種子が約2000点など、食用植物の多さが特徴である。また、イネやオオムギ、コムギなどの穀物の炭化種子もある。これは、西大寺食堂院という食物を取り扱う施設の性格が反映された食用植物に特化したあり方であろう。塵芥の廃棄土坑や大型建物の柱穴抜取穴でも、多数の種実が見つかっている。これらの遺構では、モモ核は存在するものの主体とはならず、メロン仲間種子やクリ果皮などが多くなる。しかし、種実構成もそれぞれの土坑で多様であり、共通性はあまりない。

最後に溝状遺構である。ここでは８遺構取り上げているが、一見してわかるのは木本類種実の多さである。糞便遺構、井戸（西大寺井戸除く）、土坑と比較しても、その種類の多さは群を抜く。食用植物のカヤ、チョウセンゴヨウ、クルミ類、ヤマモモ、ハシバミ、アンズ、ウメ、モモ、スモモ類、サクラ属、ナシ亜科、ナツメ、アケビ属、カキノキ、サンショウ、ブドウ属は、ほとんどの溝状遺構で出土している。また草本類でもメロン仲間種子、トウガンが構成される。草本類は回収方法によって、回収量に差が顕著に現れるが、食用植物もかなり入っているとみたほうがよいだろう。ただし、溝状遺構には、マツ属やコナラ属など周辺の植生に反映された種実も多く入っていることは注意しておかねばならない。また、先述のとおり、溝状遺構は流動的かつ開放的であるという特徴もあり、時空間的な評価が難しいことも考慮にいれておかねばならない。花粉分析や他の出土遺物を含めた総合的な分析が必要となろう。

第 27 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（平城宮・京 1）

遺構の性格		糞便遺構		井戸				土坑・柱穴				溝・濠状遺構							
およその廃絶時期		8C後半	8C後半	8C後半	8C末	8C前半	8C末	8C中	8C末	8C中	8C中	8C	8C後半	8C前半	8C前半	8C中	8C前半	8C中	12Cごろ
分類群	部位	SX19198	SX19202	SE17505	SE16030	SE4770	SE950	SK219	SK19189	SB18500	SX7686	SD2700	SD11600	SD5100	SD5300	SD7090	SD4750	SD4951	SD6400
木本																			
カヤ	種子					○	△					△		○	○		○	△	△
イヌガヤ	種子						△							△				△	
チョウセンゴヨウ	種子						△			△		△		○	○	△	○	△	△
ヤマモモ	核	○					○		△	△	△	○		○	△	△		○	○
オニグルミ	核				○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	◎	○	○
ヒメグルミ	核				△	○		○		△		○	△	○	○		○		△
ハシバミ	果実						△	○		△		△	△	○	○	△	△	○	△
クリ	果皮	△		△	○	○	◎	○		○	△	○	○	○	○	○	○	○	◎
ツブラジイ	果実						○					△	△	○	○	○		○	△
ツブラジイ	子葉						△									△			
スダジイ	果実											△	△	△	△			○	△
シイノキ属	果実				△		○					△	△	○	△	△			○
アンズ	核						○	○				△	△	○	△			△	△
ウメ	核			△	○		○			○	△	○	○	◎	○	△	△	○	○
モモ	核			○	○	◎	◎	○	△	○		◎	○	◎	◎	○	◎	○	○
スモモ類	核				○	○	○	○		△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
サクラ属サクラ節	核				○		△			○		△	○	○		△		△	△
サクラ属	核				○		○						△	○	△		△		△
ナシ属	種子																		△
ナシ属	果実													△					△
ナシ亜科	種子			◎	○		○			△	△	△	△	○	○	△		○	○
ナシ亜科	果実			△	△		△			△		△	△	○	○		△		△
センダン	核			△	◎		○			△	△	○	○	○	△			○	○
センダン	種子				○														
キイチゴ属	核	◎	△																
ムクロジ	種子																		△
ムクロジ	果実			△			△					△		○	△				◎
アケビ属	種子	◎			△		○					△		△		○		○	○
ムベ	種子	○			△		○					△				△			△
ナツメ	核						○			△	△	○	○	◎	○	△	○	○	◎
ケンポナシ属	種子																		△
グミ属	核						△												△
グミ属	種子						△				△			△					
アキグミ	種子						△												
ツルグミ	種子						△												
カキノキ	種子	○		○	○		◎	△		○		△	○	○	○	○	△	○	○
カキノキ属	種子	△		△			△				△			△					
クワ属	核	○										△							
イタビカズラ節	核	○																	
マタタビ属	種子	○																	
シマサルナシ	種子		△																
グミ属	核											△							
アキグミ	種子											△							
アカマツ	球果											△							
マツ属複維管束亜属	球果						△			△	△	○		○	○	△		△	△
モミ属	種子									△									
ヒノキ	球果													△					
イチイガシ	堅果							○			○			△	△				△
アラカシ	堅果						△			△		○		△	△	△	○	○	
シラカシ	堅果						○	○				△		△			○		
クヌギ	堅果									△									
ナラガシワ	堅果						△												
コナラ属	堅果			○	△		△			△	△	△	△	○	○	○	○	△	○
コナラ亜属	堅果														△				△
アカガシ亜属	堅果						△				△			△					△
エノキ	核				△									△					
ムクノキ	核				○		△			△			△	△	△				
コブシ	種子													○					△
クスノキ	種子				△		△						△	△				△	△

第 28 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（平城宮・京２）

遺構の性格		糞便遺構		井戸				土坑・柱穴				溝・濠状遺構							
およその廃絶時期		8C後半	8C後半	8C後半	8C末	8C前半	8C末	8C中	8C末	8C中	8C中	8C	8C後半	8C前半	8C前半	8C中	8C前半	8C中	12Cごろ
分類群	部位	SX19198	SX19202	SE17505	SE16030	SE4770	SE950	SK219	SK19189	SB18500	SX7686	SD2700	SD11600	SD5100	SD5300	SD7090	SD4750	SD4951	SD6400
フジ属	果実						○	△											△
サンショウ	種子	○			○		○			△	△	△	△	○	△	○		△	○
サンショウ	果実	△								△									
イヌザンショウ	種子									△									
アカメガシワ	果実										△			△					○
ウルシ属-ヌルデ	内果皮				○														
ヤマブドウ	種子	○																	
ノブドウ	種子						△												
ブドウ属	種子	○		○	○		○			○		△		△		△		○	△
ツバキ	種子						△												
ツバキ属	種子						△							△	△				△
ミズキ	核													△					△
ハクウンボク	核																	△	△
エゴノキ	核			△			△							○	△			△	
エゴノキ	種子													△					○
チャノキ	種子							△											
トチノキ	果実				○			○											
トチノキ	種子					△													△
クマノミズキ	核						△												
クサギ	種子						△												△
クサギ	核						△							△					
ガマズミ属	核						△					△		△					△
ツバキ	種子											△							
バラ属	果実									△									
バラ属	核				△					△	△								
モチノキ属	核									△								△	
ネズミモチ	核						○												
エゴノキ	核						△												
アオツヅラフジ	核				○					△									△
イタヤカエデ	果実													△					
カエデ属	種子										△							△	
草本																			
イネ	籾殻	○	○				△		○	△				△	△				
イネ	炭化種子						△												
オオムギ	炭化種子						△							△					
コムギ	炭化種子						△							△					
ハトムギorジュズダマ	炭化種子													△					
ヒエ	頴		○																
ヒエ	有ふ果	○									△	△							
スズメノヒエ	有ふ果										△								
アワ	有ふ果	△																	
イネ科	頴		△						○										
ハス	果実							△						△					
ヒシ	果実			△			△	△			△			△	△		△		△
ナス	種子	○			△														
イヌホウズキ	種子		○						○										
ナス属	種子	◎					○				○	○		○	○				○
トウガン	種子				△		◎			△			△	○	○	△	○	○	△
メロン仲間	種子	◎	○	○	○		◎	○	△	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
キカラスウリ	種子													△					△
スズメウリ	種子											△							△
ウリ属	種子	○					△	△						△		△		△	△
ヒョウタン仲間	種子						○			△			△			△		△	△
ゴキヅル	種子						△			△					△			△	
ウリ科	種子													△					
カガイモ	種子				△														
エゴマ	果実	○	○						△			△							
シソ属	果実	△	△						○		△								
アズキ	種子						△												
アズキ亜属	炭化種子						△												

第 29 表　遺構・時期別にみた出土植物種実（平城宮・京３）

遺構の性格		糞便遺構		井戸				土坑・柱穴				溝・濠状遺構							
およその廃絶時期		8C後半	8C後半	8C後半	8C末	8C前半	8C末	8C中	8C末	8C中	8C中	8C	8C後半	8C前半	8C前半	8C中	8C前半	8C中	12Cごろ
分類群	部位	SX19198	SX19202	SE17505	SE16030	SE4770	SE950	SK219	SK19189	SB18500	SX7686	SD2700	SD11600	SD5100	SD5300	SD7090	SD4750	SD4951	SD6400
ヤブツルアズキ	種子						△												
ダイズ属	炭化種子						△												
エンドウ属	炭化種子						△												
ゴマ	種子		○																
トウゴマ	種子						△												
アブラギリ	種子							○											
ミクリ属	核										○			△					
ヤナギタデ	果実	○									△	△		○					△
サナエタデ	果実	△							◎	△					△				
イヌタデ	果実	△									△								
イシミカワ	果実	△			○														
ギシギシ属	果実	△									△								
ソバ	種子						△												
タデ属	果実		△						○										
タデ科	果実				○		△				○					△			
コウホネ	種子						△				△								
ハコベ属	種子													△					
ノミノフスマ	種子	△																	
ナデシコ科	種子		○						○										
ムラサキシキブ属	核	△																	
アカザ属	種子								△										
オニバス	種子													△	△				△
キケマン属	種子	○			○						△	△		△					
カタバミ属	種子	△	△						○			△							
アリノトウグサ	種子	○									△								
アリノトウグサ	果実		○																
カヤツリグサ属	果実										○								
カワラスガナ	果実										△								
イボクサ	種子	△			△														
ホタルイ属	果実	○	○									△							
スゲ属	果実		○																
スゲ属オニナルコ節	果実				△														
メヒシバ属	果実	△																	
エノコログサ属	有ふ果	△																	
エノコログサ属	穎								○										
カヤツリグサ属	果実	○																	
カヤツリグサ科	果実		○						○	○									
トウダイグサ属	種子																	△	
ヒメクグ	果実										△								
アブラナ科	種子								○										
ヒユ属	種子								○										
タカサブロウ	果実											△		△					
キク科	果実								△										
オナモミ	果実						○							△	△			△	
アサ	核						△												
ハリイ属	果実										△								
キンポウゲ属	果実										△								
ヘラオモダカ	果実								△										
チドメグサ属	果実								○										
ヤブジラミ属	果実				○														
エノキグサ属	種子										△								
ヒルムシロ属	核										△								
スミレ属	種子														△				
カナムグラ	種子						△					△							△
コナギ	種子		△																
ザクロソウ	種子								○										
マツモ	種子						○				△								
ツユクサ	種子				○														

３．出土植物種実と文献史料

古代都城出土の植物種実は、木簡や文献史料も多く認められる。このうち食用可能なものを以下に列挙する（漢字の名称は、関根真隆（1969、2001）、油に関しては神野編（2014）を参照した。一部は重複して記載する）。

穀類　イネ（米）、オオムギ（大麦）、コムギ（小麦）、ヒエ（稗）、アワ（粟）、ダイズ属（大豆）、アズキ・ササゲ属アズキ亜属（小豆）、ソバ（蕎麦）、ゴマ（胡麻子）、エゴマ（荏子）

野菜類　メロン仲間（瓜、大瓜）、トウガン（冬瓜）、ナス（茄子）、クワ（桑）、ミズアオイ（水葱）、コウホネ（川骨）、ギシギシ属（羊蹄）

果物類　カヤ（榧）、クルミ類（胡桃・呉桃子）、モモ（桃子）、ウメ（梅子）、スモモ（李子、）ヤマモモ（山桃・楊梅）、キイチゴ属（伊知比古・覆盆子）、ナシ属（梨子）、アケビ（蔦子）、ムベ（郁子）、カキノキ（柿子・干柿）、クリ（栗、栗子）、ナツメ（棗）、ヤマブドウ・ブドウ属（蒲萄）、スダジイ・ツブラジイ（椎）、ヒシ（菱）

香辛料・油類　エゴマ（荏子）、ゴマ（胡麻子）、サンショウ（蜀椒、椒）、イヌザンショウ（蔓椒）、クルミ類（胡桃子）、イヌガヤ（閉美）、アサ（麻）、ツバキ（海石榴）、タデ（蓼・多弖）、コブシ（山蘭）。

管見の限りでもこれらの種類が列挙できるが、このほかの出土種実にも食用可能なものは多い。チョウセンゴヨウ、ハシバミ、アンズ、サクラ属、グミ属、イタビカズラ節（イチジク状果）、サルナシ、シマサルナシ、スイカなどはそれにあたろう。特にハシバミは、藤原宮・京、平城宮・京の複数の地点で果皮として多く出土する傾向があるので、一般的に食用されていたことが想定できる。このほか、イタビカズラ節やサルナシは、東方官衙の糞便遺構で出土しており、排泄された便の中に含まれていたと考えられるので、やはり食用であろう。また、１点ずつであるが石神遺跡の SD4089 と西大寺食堂院井戸 SE950 から出土しているトウゴマ種子は、蓖麻子（ひまし）油の搾油に利用されるものである。

４．今後の課題―古代における植物性食文化の解明に向けて

本書では、藤原宮・京・飛鳥地域、平城宮・京の出土植物種実を分類し、遺構ごとに集成した。これが奈文研が所蔵している種実資料のすべてではないが、全体像は網羅されている。最後に今後の課題を挙げて収束したい。

本文中でもたびたび述べたように、ここで取り上げた植物種実は発掘調査現場でピックアップされたものも多く、定量的な調査、分析によって得られたものは、数少ない。またそうした調査がなされたとしても、多くは木簡の回収に必要な篩目が 5㎜あるいは２㎜といった、比較的目の大きな篩が用いられており、草本類全体をカバーすることはできていない。したがって、ここで「ない」ことが本来的に「なかった」とは言えない。また植物種実の残存の有無や量は堆積環境にも左右される。地下水位の高い場所ような酸素の遮断されるような環境でなければ残存すらしない。それにもかかわらず、これほど多くの植物種実が回収されているのは、藤原宮・京、平城宮・京の特異な環境がある。木簡が残ることと同じ恩恵を受けているのである。そして木簡には食物の名前や量が書いてあることも多い。木簡と植物種実など実際の食物が残るという、稀有な環境をフルに生かしていかなければならない。

むろん、食文化復元には植物種実だけでは片手落ちである。動物骨や魚骨などの動物遺存体や、文献史料、絵図資料などを用いる必要がある。ここで取り上げた食用植物の数々は、食卓のごく一部にすぎない（食卓にのぼるかどうかもあやしい）のである。ただ、確実に古代都城やその周辺で食用とされていたもの考古資料に基づくことによって、時空間的位置を押さえることができることは強調しておきたい。

今後は、遺跡調査での定量的な調査、分析をおこなうこと、また周辺植生との関係を知るための花粉分析などとの併用という基礎的データの蓄積が必要である。また植物種実自体の形態分析や加工痕跡に関する分析など、まだまだ考古学的な分析が可能である。これによって、植物と人間活動との関係を明らかにしていくことが、深みのある食文化解明に役立つだろう。

引用・参考文献

第２章　藤原宮・京・飛鳥地域出土の植物種実

SX7420　黒崎　直編　1992『藤原京跡の便所遺構―右京七条一坊西北坪―』奈文研

SE8431・SK8471　奈文研　1996『飛鳥・藤原宮発掘調査概報 26』

SE275　奈文研　1995『飛鳥・藤原宮発掘調査概報 25』

SD1901A　奈文研　2009『奈良文化財研究所紀要 2009』／奈文研　2012『奈良文化財研究所紀要 2012』

SX10820　奈文研　2012『奈良文化財研究所紀要 2013』

SE4080-4097　奈文研　2003『奈良文化財研究所紀要 2003』

SX4122　奈文研　2004『奈良文化財研究所紀要 2004』

SD4089-SD4090　奈文研　2003『奈良文化財研究所紀要 2003』／奈文研　2003『奈良文化財研究所紀要 2003』／奈文研　2004『奈良文化財研究所紀要 2004』／奈文研　2007『奈良文化財研究所紀要 2007』／奈文研　2008『奈良文化財研究所紀要 2008』

SD1347　奈文研　2003『奈良文化財研究所紀要 2003』／奈文研　2004『奈良文化財研究所紀要 2004』／奈文研　2007『奈良文化財研究所紀要 2007』／奈文研　2008『奈良文化財研究所紀要 2008』

SD4121　奈文研　2004『奈良文化財研究所紀要 2004』

SD4280　奈文研　2008『奈良文化財研究所紀要 2008』

第３章　平城宮・京出土の植物種実

SX19196-SX19202　奈文研　2010『奈良文化財研究所紀要 2010』

SX19198　奈文研　2013『奈良文化財研究所紀要 2013』

SE9218　奈文研　1981『平城宮発掘調査報告Ⅺ』

SE17488・SE17505　奈文研　1997『奈良国立文化財研究所年報　1997- Ⅲ』

SE6166・SE7094　奈文研　1985『平城宮発掘調査報告Ⅶ』

SE16030　奈文研　1994『1993 年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

SK219　奈文研 1962『平城宮発掘調査報告Ⅱ』

SK820-SK2102　奈文研 1976『平城宮発掘調査報告Ⅶ』

SK1623　奈文研 1978『平城宮発掘調査報告Ⅸ』

SX19198　奈文研　2011『奈良文化財研究所紀要 2011』

SB7802　奈文研　1981『平城宮発掘調査報告Ⅺ』

SB18500・SD3825　奈文研　2011『平城宮発掘調査報告 17』

SD3715・SD3765　奈文研　1981『平城宮発掘調査報告Ⅺ』

SD2700　奈文研　1983『昭和 57 年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』／奈文研　1987『昭和 61 年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

SD3410・SD17650　奈文研　1998『奈良国立文化財研究所年報　1998- Ⅲ』

SD5575・SD5505　奈文研　1981『平城宮発掘調査報告Ⅺ』

SD1900　奈文研 1978『平城宮発掘調査報告Ⅸ』

SD11600・SD16742　奈文研　1996『1995 年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

189 次 SE40　奈文研　20003『平城京左京二条二坊十四坪発掘調査報告　旧石器時代編（法華寺南遺跡）』

SE4116-SE5205　奈文研　1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』

SE6432-6657　奈文研　1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』

SE1305-1880　奈文研　1989『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』

SE950　奈文研　2007『西大寺食堂院・右京北辺発掘調査報告』

SE491　奈文研　1993『西隆寺発掘調査報告』

SK7699・SX7686　奈文研　2001『奈良国立文化財研究所年報　2000- Ⅲ』

SX6530・SK6577　奈文研　1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』

SD4750-SD5310　奈文研　1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』

SD4951 『奈良国立文化財研究所年報　1998- Ⅲ』
SD17777･SD17779 『奈良国立文化財研究所年報　1998- Ⅲ』
SD7090･SD7100 『奈良国立文化財研究所年報　1998- Ⅲ』
SD5200-SD4361　奈文研　1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』
SD650　奈文研　1976『平城宮発掘調査報告Ⅵ』
SD6400-6451　奈文研　1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』
SD1300　奈文研　1976『平城京左京八条三坊発掘調査概報　東市周辺東北地域の調査』／奈文研　1983『平城京東堀河　左京九条三坊の発掘調査』
SD920　奈文研　1984『平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告書』
SD1496　奈文研　1989『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』
SG1504･SD1525　奈文研　1976『平城京三条二坊六坪発掘調査概報』

その他の引用・参考文献

井上和人　2007『日本古代都城制の研究』　吉川弘文館
小澤　毅　1997『日本古代宮都構造の研究』　青木書店
芝康次郎・佐々木由香・バンダリ・スダルシャン・森勇一　2013「平城宮東方官衙地区 SX19198 の自然科学分析―第 440 次」『奈良文化財研究所紀要 2013』、209-215 頁、奈良文化財研究所
神野　恵編　2014『香辛料利用からみた古代日本の食文化の生成に関する研究』平成 25 年度山崎香辛料財団研究助成　成果報告書、奈良文化財研究所
関根真隆　1969『奈良朝食生活の研究』　吉川弘文館
関根真隆　2001「長屋王家木簡にみる物名について」『研究論集Ⅻ　長屋王家・二条大木簡を読む』, 149-182 頁 , 奈良国立文化財研究所
中村至大・井之口希秀・南谷忠志　2004『日本植物種子図鑑　改訂版』東北大学出版会
南木睦彦　1995「SD4750・5100・5300・5310 の大型植物遺体」『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告書―長屋王邸・藤原麻呂邸の調査―』、543-552 頁、奈良国立文化財研究所

古代都城出土の植物種実

2013 ～ 2015 年度
公益財団法人浦上食品・食文化振興財団学術研究助成
『古代の植物性食文化に関する考古学的研究』成果報告書

2015 年 9 月 30 日　発行
編集・発行
国立文化財機構奈良文化財研究所
都城発掘調査部考古第一研究室
〒 630-8577　奈良市佐紀町 247-1
TEL：0742-30-6833
印刷・製本
株式会社　アイプリコム